

# 幼馴染が百合ツプル だった件について

袴紋太郎

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

掲示板に書き込まれた一つの悩み、それは当事者にしか分からない重く苦しい悩みであった。

気になるあの子が百合だった件

# 目次

幼馴染が百合っプルだった…／なのは&フエイト	1
誤解された／揭示板	15
周りが百合ばかりの件／ユーノ※TS	24
タヒにてえ…／はやて	38
マジ怖すぎワロスwww／フエイト	49
もう偽装でいいよもう／アリサ	62
修道服って何であんなにエロいんやろな	／カリム
殺意の波動ってああいうもんなんやろ	73
なって／シグナム	82
メイドさんがなあー俺にもなー欲しいなあー／すずか	91
痛みは欲しくない、やわこくてきもちいのがいいんだ／ヴィータ	99
注射やだなあ／シヤマル	112
部下が自分よりも仕事が出来て辛い／ギンガ	124
ファンタジックな夢から覚めたときの虚無感は異常／オリヴィエ？	137
こういうの達人っていうんだな／ヴィクトーリア	148
そしてまた愛に堕ちる／ヴィクトーリア	

&ジークリント	159
幸せな奴とか見たくない／ティアナ	176
作っても作っても足りねえ…／スバル	190
同棲シミュレーションプログラム／なの	
は&ヴィヴィオ？	199
やべえぜこいつはグツドなアイディア頼む！／フェイト	217
サ○ヤ人って下まで金色になんのかな／	
ラインフォースII&アギト	231
夜天の書の闇・前編／八神家	241
夜天の書の闇・後編／八神家	249

最近どうにも私物がなくなるんだ／セイ	
ン十オットー十デイド	258
【悲報】首都で辻殴り騒動勃発！／アイン	
ハルト	266
修羅場／なのはちゃんとはやてちゃん	278
修羅場／フェイトちゃんとギンガちゃん	283
ウチの上司が辞表叩きつけて失踪したン	
ゴ／シユテル	288
ずるい／レヴィ十デИАーチエ？	300
修羅場、そして帰還／フローリアン姉妹	

＋  
ユーリ？

R  
T  
A  
風  
ホ  
モ  
く  
ん  
の  
押  
し  
付  
け  
前  
編  
／  
な  
の

は  
？

316

307



# 幼馴染が百合っプルだった…／なのは&フェイト

幼馴染が百合っプルだった…

1 人目の勘違い男

どうしよう、これからどう接すればいいの？

おせーてえろいひと

2 人目の勘違い男

ほう

3 人目の勘違い男

それはそれは…

4 人目の勘違い男

キマシタワー？

5 人目の勘違い男

うわきつつ

6 人目の勘違い男

>>5 屋上

7人目の勘違い男

おお、これはまた

8人目の勘違い男

女の幼馴染か、ギルティ

9人目の勘違い男

また、レズだぞ

10人目の勘違い男

有罪判決はそこんとこ聞き出してからだな！

11人目の勘違い男

というわけでいっちーk w s k

12人目の勘違い男

k w s k

13人目の勘違い男

k w s k

14人目の勘違い男

k w s k

15人目の勘違い男



お、おう、ありがたい、うんと少し待ってくれ、今まとめてる。

16人目の勘違い男

とりあえずコテハンつけたら？

17人目の勘違い男

だな

18 >> 1

捻ったもの考えることもないかな。

ああ、で纏めてみたというか

>> 1 一般的なDC

幼馴染N：赤ん坊の頃からの付き合い、家も隣

幼馴染F：小学校からの付き合い、態度が怖い

とりまこんな感じ、事の経緯はいつも通りNを誘おうと声を掛けようとしたんだ。

そしたら後ろからFがやってきた

「Nに近づかないで」

万力みたいに肩を掴まれて物陰に引きずり込まれた

そしたら光のない目で延々と近づくな、私とNは相思相愛、割り込む隙なんてないと

マシンガントーク。

数分したら解放されたんだけど…ねえ、これどうすればいいの？

19人目の勘違い男

うわあ

20人目の勘違い男

うわあ

21人目の勘違い男

うわあ

22人目の勘違い男

メンヘラか、ヤンデレか、それが問題だ

23人目の勘違い男

イツチが悪い可能性も微レ存

24人目の勘違い男

いや、これはもう試合終了だろ

25人目の勘違い男

いや待て、>>>1はどう接すればいいかって言ってる

要するにFをどうこうしたいわけじゃないんだろ？

26 >>>1

いやまあ普通にショックだけど、なんとなく納得できるとい  
うか  
普段からもうそんな感じだったし

27 人目の勘違い男

フェードアウト

28 人目の勘違い男

うん、近づかない方が無難

29 人目の勘違い男

諦めろん

30 人目の勘違い男

いやはやしつかしこわい

31 人目の勘違い男

レズは嫉妬深い、はつきりわかんだね

32 >>1

そこで一つ問題が

33 人目の勘違い男

え？

34 人目の勘違い男

今度はなんだ!?

3 5人目の勘違い男

Fからカミソリの入った手紙が…

3 6人目の勘違い男

いや、お前を見ているぞと脅迫を

3 7 >> 1

実は今度の日曜日、水族館に誘われまして

これってつまり、アレかな。

偽装彼氏的な…マジ凹む

3 8人目の勘違い男

3 9人目の勘違い男

4 0人目の勘違い男

4 1人目の勘違い男

4 2人目の勘違い男

いやあーきついつす

4 3人目の勘違い男

ひでえ >

44 人目の勘違い男

あー女は怖い

45 人目の勘違い男

>>1としてはどうなん？

46 人目の勘違い男

幼馴染は異性としては見れないというが：

47 >>1

普通に惚れてました、いけるんじやねと思っていた矢先にこれだよ。

笑えよ

48 人目の勘違い男

笑えねえよ！

49 人目の勘違い男

むしろ泣くわ！

50 人目の勘違い男

うん、>>1はさっさと見切りつけるべき

51 人目の勘違い男

DTの純情を弄ぶビツ〇め

5 2人目の勘違い男

いや、すぐに離れようとするので面倒だぞ

こういう時はゆっくりと距離を開けていくのがベストだ

5 3人目の勘違い男

ほう、k w s k

5 4人目の勘違い男

>>>1は辛いかもしれないけど、暫くは偽装彼氏続けとけ

それと表面上は理解者を気取っておく

大丈夫、俺は分かってる、応援してると

5 5人目の勘違い男

ほう、なるほろ

5 6人目の勘違い男

で、少しずつ距離を開けるんですね

5 7人目の勘違い男

>>>1 できるー？

5 8 >>>1

やってみる、最近はLGBTも認める時代だもんな

以降、>>1を励ます書き込みが続く



とある学校の屋上、二人の男女の学生が向かい合っていた。

男子学生は黒髪黒目、成長期なのか同世代と比べて背が高く全体的にがっしりしている以外は普通の少年だ。

向かい合う女子生徒は控え目に言っても美少女だろう。

栗色の長髪をサイドテールに纏め、発展途上ではあるが女性らしい体つきになりつつある。

不安そうな、それでいて何かを期待するかのように頬を染める姿は可憐というほかない。

「ど、どうかしたのかな？ こ、こんな所で」

俯いたように顔を伏せる少年であったが、意を決したのか口を開いた。

今まで通りにいたかった、たとえば偽装でも：何度もそう考えた。

しかし、それではダメだ。

たとえば非生産的な関係であろうとも、惚れた女には幸せになつてもらいたい。

「——ごめん、俺、ずっと気づかなかくて」

「迷惑かけて、ごめん」

「迷惑なんて思ったこと、一度もないよ」

頭を下げた少年に、少女は真剣な眼差しを持って応えた。

「私の我儘で、ずっと振り回して、私のほうが迷惑かけちゃったもん」

「——くんは、ずっと私を支えてくれた」

「かけがえのない、大事な人だから」

ああ、そうか。

そうだったのか。

きつと自分は、この強さに惹かれたのだ。

まっすぐで、揺らがないこの輝きに魅せられた。

だからこそ…

「俺、応援してるから！ フェイトと幸せになー！」

「…は？」

少女は何故そこで親友の名前が出てくるのか理解できず、その一言を返すことしかできなかつた。

「その、世間的にはいい顔はされないかもしれないけど！ 俺は二人を応援する！」



「管理局の仕事もあるし、いつつもってのは無理だけど気軽に言ってくれ」

「俺みたいなので役に立つなら、なんでも協力するからさ」

ああダメだ、涙腺が緩みそうになる。

足もガクガクだ、喉がヒリヒリする、顔が強ばりそうだ。

これが——失恋。

また後でと、屋上から逃げるように去っていく。

これでいい、これでいいのだ。

今だけは、情けない俺を許してくれ。

ひとり残された少女はようやく意識が再起動したのか、わなわなと身震いし歯を碎か  
んばかりに食いしぼる。

何が起きたのか、何故そんな勘違いをしたのか、彼女の頭脳はすぐさま答えにたどり  
着いたのだ。

「あの【ピ—————】女、やってくれたなあ—————?!」

こうしてはいられない、急ぎ誤解を解かねば。

慌てて屋上の扉に向かうと、諸悪の根源が顔を出した。

長い金髪を一つに束ね、特徴的な赤い瞳は喜色で染まり、ハートマークすら出しそう  
だ。

「なのは、どうかしたの！ さあお仕事にいかな——」

企みが上手くいったことを確信した親友は、少女…高町なのはの膝小僧によつて顔面を打ち抜かれる。

まったく警戒していなかった…というよりする必要もない相手からの飛び膝蹴り。

正確に眉間を打ち抜いた一撃、耐え切れるはずもなく大の字で崩れ落ちる。

意識を失う直前、愛する女性の目は絶対零度のそれだった。

弁解も反論も聞かず、つま先を側頭部に叩き込むことで強制的に黙らせる。

もはや目の前のこれは親友でもなんでもない、ただのゴミ虫だ。

「急がなきゃ、急がなきゃ、いそがなきゃ、いそがなきゃ、いそがなきゃいそがなきゃいそがなきゃ」

しかし、緊急の呼び出しで仕事場に向かつてしまった思い人に真実を伝えることができず。

目のハイライトが消えていったのは、あまりに不憫というしかなかった

キャラ解説／読まなくても問題ないと思う

主人公／○○

あえて名前は付けない方向でいきたいと思う、高町なのはの幼馴染にして両思いだつ

た少年。

よくあるオリ主で、刀使いで、まあPT事件やら闇の書事件と一緒に解決した高ランク魔導師。

たぶん武装隊所属、とにかく前進してぶった切る薩摩系スラツシャー

高町なのは

ご存知エースオブエース、管理局の白い悪魔。

主人公とは幼馴染で、母の薫陶を受け自分以外の女性をシャットアウトしてきた努力のひと。

苦難困難を乗り越え、さあ結ばれると思った矢先にこれである。

諸悪の根源への好感度はマントルを掘り下げ反対側の地表に飛び出し、宇宙へと飛んでいった。

Fがアレな感じがしているが、彼女も似たようなものなので注意。

F

諸悪の根源、レズ、メンヘラ、だが待つて欲しい。

あくまで彼女は大切な親友を思う心が天元突破しただけであり、いやもうダメなのが。つまり彼女の愛情は本物なのだ、なんとかするにはもう押し倒してちようきよ…肉体

的コミュニケーションで落とすほうが早い。  
薄い本が厚くなるな！

## 誤解された／掲示板

465 れいはと

どうしよう！ どうしよう！

466 人目の恋愛相談

れいはとじゃん、おひさー

467 人目の恋愛相談

どったのー？

468 人目の恋愛相談

彼氏との仲は進んだ？

469 れいはと

それどころじゃないの！

470 人目の恋愛相談

む？

471 人目の恋愛相談

なになに、どしたん？

472 人目の恋愛相談

おねーさんたちに聞かせなさい

473 れいはと

彼に同性愛者だと誤解されちゃったあ！

474 人目の恋愛相談

475 人目の恋愛相談

476 人目の恋愛相談

477 人目の恋愛相談

478 人目の恋愛相談

479 人目の恋愛相談

480 人目の恋愛相談

流石の歴戦恋愛上手（机上）も黙るか

481 人目の恋愛相談

え？えええ？

482 人目の恋愛相談

いけませんわあーそれはいかんですわー

483 人目の恋愛相談

えー？なしてそうだったん？

484 れいはと

友人がそこらへん危険な臭いしてたんだけど、ついに動いた。

もうヤダこいつ、何故友達になったし過去の私！

485 人目の恋愛相談

わかるわあー

486 人目の恋愛相談

あるよねえ、そういうこと。

487 人目の恋愛相談

とにかくレズだって誤解を解けばいいんでしょ？

488 人目の恋愛相談

押し倒せ

489 人目の恋愛相談

既成事実

490 人目の恋愛相談

できちゃった（はあと

491 人目の恋愛相談

お黙り肉食動物！

492 人目の恋愛相談

情緒つてもんがないなー

493 人目の恋愛相談

百合でもええんちゃう？

494 人目の恋愛相談

>>493 その異教徒を火炙りにしてやれ！

495 人目の恋愛相談

十字架

496 人目の恋愛相談

つ縄



497 人目の恋愛相談

つ釘

498 人目の恋愛相談

つ薪

499 人目の恋愛相談

マッチの準備おつけー

500 人目の恋愛相談

はいはいそこまで

501 れいはと

やっぱり押し倒すしか…

502 人目の恋愛相談

やめとけやめとけ、むしろ逆効果

503 人目の恋愛相談

まずちゃんと話し合おうね

504 人目の恋愛相談

こういうのは粘り強くが肝心

505 人目の恋愛相談

実際どうなの？

506 人目の恋愛相談

うくん、ぶっちゃけ行動に移すのもいかんけど何もしないのも悪手

507 人目の恋愛相談

だね

508 人目の恋愛相談

ここは気長に否定していくのが無難かな

509 人目の恋愛相談

甘い！

510 人目の恋愛相談

そう、甘すぎる

511 人目の恋愛相談

砂糖菓子に練乳と甘味料を山ほどぶっつけた如く！

512 人目の恋愛相談

こういう状況でもし相手がショックを受けてた場合、ほかの女性に目を向ける可能性

大なのだ！

513 人目の恋愛相談

というかそこで落とすべし！

514 人目の恋愛相談

今の彼は切り分けられたステータキであるからして、油断してたらパツクンよ！

515 人目の恋愛相談

(；▽、)

516 人目の恋愛相談

(；▽、)

517 人目の恋愛相談

(；▽、)

518 人目の恋愛相談

これ男が見てたら絶対に引くわ

519 れいはと

これまで以上に距離詰めていきます！

520 人目の恋愛相談

おー

521 人目の恋愛相談

がんばれー

5 2 2 人目の恋愛相談

ご利用は計画的になー

5 2 3 人目の恋愛相談

家族計画は慎重になー

5 2 4 人目の恋愛相談

ところでおまいら男できたん？

以後、スレ内で怒涛の失敗談が流れていくのであった



「え…い、いない…？」

急ぎ彼の自宅へと向かったのは、しかし何度インターホンを鳴らしても反応がなく、メールや電話もダメだった。

どういふことかと頭をひねらせていると、丁度良く帰ってきた姉から聞きたくなかった真実を告げられた。

「急ぎの仕事があつたらしくて、暫く帰れないって」

彼は気が散るからと仕事中は電話の電源を切る。

そうなると余程のことがない限り念話にも応じないだろう、つまり誤解が解けない。

遠くでカラスの鳴き声が聞こえてきたところで、崩れ落ちた。



# 周りが百合ばかりの件／ユーノ※TS

512 >>1

恐ろしい、なんて恐ろしいんだ

513 ノーマルですぞ

お、いっちーどした

514 ノーマルですぞ

またFに襲われたかー？

515 >>1

周りがみんな百合だったでござるの巻

516 ノーマルですぞ

517 ノーマルですぞ

518 ノーマルですぞ

5 1 9 ノーマルですぞ

5 2 0 ノーマルですぞ

5 2 1 ノーマルですぞ

うわきつつ

5 2 2 ノーマルですぞ

いやあ、ないわ…ないよね？

5 2 3 ノーマルですぞ

落ち着け、落ち着いてくれ…え、嘘でしょ？

5 2 4 ノーマルですぞ

嘘だと言つてよバーニーー！

5 2 5 >> 1

俺だつて嘘だと思いたいよ、でも改めて交友関係を見返したら…それっぽいのがポカ  
ジャカと！

5 2 6 ノーマルですぞ

例えば？（ワクワク

527 >>1

小学校からの付き合いの金持ち二人、なんかいつも二人して自室にこもって怪しい空  
気と色気が

ちよつとした騒動で知り合ったツンデレ Nと大の仲良しでなんか視線がアレ

同じく騒動で知り合った女騎士系ポニー こっちはFと怪しい気配

関西弁 おっぱい星人

ほかにも怪しいのがずらずらと

528 ノーマルですぞ

うわあ

529 ノーマルですぞ

うわあ

530 ノーマルですぞ

うわあ

531 ノーマルですぞ

うわあ

532 ノーマルですぞ

いっちー男友達はいないのー(処刑用斧を片手に





【悲報】 >>1は花園出身

541 ノーマルですぞ

>>1! 逃げるんだ、じゃないと腐海に沈むぞ!

542 ノーマルですぞ

女を作れ!

543 ノーマルですぞ

できんの? (無垢な瞳

544 ノーマルですぞ

ゲハア (吐血

545 ノーマルですぞ

言うなよ: : : ということ言うなよ: : :!

546 ノーマルですぞ

戦争だろうが: : : それ言ったら戦争だろうが!

547 >>1

仕事やら何やらで縁切るわけにもいかず: : : 怖いよ、新しい扉開けちやうの ( ( ( ; ; ; 口

。 ( ( (

548 ノーマルですぞ

## 南無三

5 4 9 ノーマルですぞ

来世では幸せになれよ

5 5 0 ノーマルですぞ

つボ○ギノ○ル

5 5 1 ノーマルですぞ

突っ込むときはゴムつけろよ、二次元みたいに気軽にすると感染症起こすからな

5 5 2 >>1

やめて！

5 5 3 ノーマルですぞ

いや、実際のところ彼女作ったほうが早いよ

5 5 4 ノーマルですぞ

d s y n |

5 5 5 >>1

いきなり言われてもなー

5 5 6 ノーマルですぞ

諦めろん

557 ノーマルですぞ

ようこそ、喪男の世界へ

558 ノーマルですぞ

歓迎するぞ、盛大にな!

559 ノーマルですぞ

そのバラミスト元から女だったりして

560 ノーマルですぞ

あ

561 ノーマルですぞ

待て、それは許されない

562 ノーマルですぞ

あつてはいかんど、そんな展開

563 >>1

(ゞノ・▽・、) ナイナイ いやだって、マジで子供の頃からの付き合いだし

564 ノーマルですぞ

命拾いしたな

565 ノーマルですぞ

そんな幸せ展開認めんぞ

566 ノーマルですぞ

男でいいから彼女欲しい

567 ノーマルですぞ

>>566 大丈夫？病院行く？

568 ノーマルですぞ

もう可愛ければそれでいいよ

569 ノーマルですぞ

末期だ

570 ノーマルですぞ

わからないでもない

571 >>1

欲しいなあ、彼女

572 ノーマルですぞ

欲しい

573 ノーマルですぞ

欲しい

574 ノーマルですぞ

欲しい

575 ノーマルですぞ

欲しい

576 ノーマルですぞ

欲しい

以降、欲しいの書き込みがしばらく続いた。

◆◆

時空管理局・本局に存在する超巨大なデータベース【無限書庫】。

過去に発生した事件記録から歴史書、凶鑑やら漫画やら料理本やら広大な次元世界から集められた無数の蔵書が眠る場所。

司書や利用者が休憩するために作られたスペースでは、柔らかな金髪と眼鏡をかけた女性が紅茶をいれている。

向かい合う青年は何故か額に汗をかきながら、お茶請けのクッキーを齧っていた。

「はい、これが●●管理世界の主な風習と事件記録、あと個人的に気になったのを纏めておいたよ」

「あ、ああ、すまん、以前こういうので失敗したから気をつけてるんだ」

パラパラと厚みのある本を流し読みしていると、対面する女性は何が嬉しいのかふんわりした笑みを浮かべていた。

「ど、どうした…？」

「いやだって、いつもはあんまり長居しないからさ。話し相手がいるって嬉しいものだよ」

くすくす笑う姿は不思議と絵になっていった。

「ユ一ノ…どうして【女装】に目覚めてしまったんだ」

何が原因だったのか、前触れもなく彼は女物の服を着るようになった。

無限書庫での仕事が大変だったのか、何かしら影響を受けてしまったのか、そもそも元がアレだったのか。

どちらにせよ、PT事件、闇の書事件とともに乗り越えてきた親友はもういない。

今日の前にいるのは目覚めてしまった存在だ、いつ後ろの【はじめて】を奪われるか気が気ではない。

「あ、そうだ。今度の休暇空いてるかな？ 実は見せたい発掘物があつて「す、すまん！

しばらく休みは取れそうにない！」そっか…」

用事があるからと駆け足で無限書庫を出て行く。

「やはり本局に居るからと直接来るんじゃないやだ、掘られるのはいやだ！」

健全な男子として、突っ込まれるのも勘弁であるし、そういう事は普通に女性と行いたい。

失恋と傷心の身に、親友が自分の尻を狙ってくるなど泣きたくなってくる。

影を背負う青年を見送ると、残念そうに女性：ユーノ・スクライアは椅子に座り直した。

勘違いしないで貰いたいのが、彼女は真正銘「女」であるし、性転換手術やら、精神が女やら、そういうのではない。

一人称が僕であり、幼少時は半ズボンで体の起伏が変わるまで時間がかかったためか。

彼からは「男」であると思いつままれてしまっていた。

しかもその事実をユーノは知らない。

飲み干す前に席を立ったため、半分以上残った青年の紅茶に口をつける。

「ん〜もう少し僕も時間作ればなあ」

ただでさえ幼馴染である彼女と比べてスタートダッシュが遅いのだ。

今のままでは争奪レースに周回遅れで完全敗北である、悠長に構えてはられない。

「だけど、なのはにはフェイトがいるし、すずかやアリサは他に思い人がいるっばいからねえ…警戒すべきははやとシグナムかな」



普段から女性に対するセクハラ行為に勤しむ友人だが、腹の黒さは随一だ。焦らず慌てず、そして確実にポイントを稼いでくるだろう。

そして腹心たる烈火の騎士、昔は子供として見ていた相手が徐々に男らしく成長し始めているのだ。

本人は隠しているつもりだろうが、好意が男女のそれに変わりつつあるのは誰の目にも明らか。

腹黒たぬきは、こと〔家族〕に対しては無償の愛情を持つて応える。

自分が一番であるならば、彼への愛を向けることを許すだろう。

しかし〔友人〕ではダメだ、〔親友〕でもけして許さない。

こと恋愛において〔家族〕以外に身内は存在しないのだ。

「負けられないよね、絶対に」

いつだって彼は前に出た。

魔法という非日常、本来ならば経験するはずもない戦い、たとえ才能があつたとしても普通ならば迎える必要の無かつた出来事。

ジュエルシード回収のため、二人にデバイスを渡し、この世界に引きずり込む原因となつたのは自分。

罵られる覚悟はあつた、恨まれることも…だが、彼はそんなこと欠片も気にしていな

かった。

いや、そもそも思いつきすらしていないだろう。

そう来ると負い目やら、ほのかな恋心が合わさり燃え上がる。

彼を支えるのは当然で、全てを捧げるのも当然なのだ。

純粹な愛情とはいえないかもしれないが、それはそれ。

時間が経てば気にならなくなるのが人間であり、家族なのだ。

残った紅茶を流し込み、仕事に戻ろうとする…が、ふと彼が口をつけた所に目が止

まった。

魔が差した、というほどでもないがそこに舌を這わせる。

冒流的ともいうべき背徳感と興奮が入り交じる中、紅茶の香りと共に砂糖とは違う甘露が舌先を刺激するのだ。

周囲に人影がなく、行為の時間も数秒ほど、だというのに頬どころか首筋も赤く染め上げ、荒い息を吐くのはなんとも…

「い、いけない、これはいけない、うん、だめだ、いけない、ダメだ、ダメだ、だめ…」  
そう言いながらも視線はカップから外すことができず、ユーノは吐息で曇った眼鏡を拭き、周囲を見渡す。

「も、もうちょっとだけ」

ピチャリッ

タヒにてえ…／はやて

666 >>>1

タヒてえ…

667ノーマルDEATH

おう、どうしたいっちー

668ノーマルDEATH

不吉な数字で不吉なこというなよ

669ノーマルDEATH

どしたー

670 >>1

雨の日、濡れる二人、思わず距離が詰まってドキつとなる…相手は百合

671ノーマルDEATH

ああ

672ノーマルDEATH

しょうがないね童貞だもの

673 ノーマル DEATH

うんうん、しゃーないしゃーない

674 ノーマル DEATH

(どうせならノーマルに戻して見せればいいのに…)

675 ノーマル DEATH

ダメージでかいからね、しょうがないね

676 >>1

その後家に送ったんだけどさあ、もう二年くらい経ってるのに癒えない自分に

ブルーになっちゃって

そしたらおっぱい星人の友達とバツタリ

677 >>1

気がついたら朝チュンして同衾してた

678 ノーマル DEATH

ギルティ

679 ノーマル DEATH

有罪

680 ノーマル DEATH

ハイクを嫁。カイシヤクしてやる

681 ノーマルDEATH

>>680 んwww嫁をカイシヤクするのですかなwww

682 ノーマルDEATH

>>680 おいは恥ずかしか!

683 ノーマルDEATH

>>682 どん!

684 ノーマルDEATH

>>682 介錯しもす!

685 ノーマルDEATH

笑うたこと許せ

686 >>1

合掌ばい!

687 ノーマルDEATH

>>1、マジでどうなん(首斬り包丁

688 ノーマルDEATH

うん、13階段を登りたくなければいいたまへ

689 >>1

夕飯を奢ると誘われて、仕事の疲れが出たのか眠くなり、気がついたら同じフートンで寝ておりました  
誓って手は出しておりません！

690 ノーマル DEATH

ほんとにいく？

691 ノーマル DEATH

ほんとでござるか？

692 >>1

女の子の手って、柔らかいんやなって

693 ノーマル DEATH

死ね

694 ノーマル DEATH

死ね

695 ノーマル DEATH

死ね

696 ノーマル DEATH

死ね

697 ノーマル DEATH

あれ、そういえばその子も百合じゃなかったっけ？

698 ノーマル DEATH

おっぱいが好きなのは女子高的なノリじゃねえの？

699 ノーマル DEATH

あーそういうこと

700 ノーマル DEATH

いや待て、起きたらビンタが飛んできたとか

701 >>1

寝たのは自分が先だったんすわ

702 ノーマル DEATH

おっぱいに貴賤なし

703 ノーマル DEATH

ちっぱいも

704 ノーマル DEATH

でっぱいも



705 ノーマル DEATH

ふっばいも

706 ノーマル DEATH

全てがおっばいなのだ…！

707 >>1

俺も揉まれたぞ、堂々のナンバー2だった

708 ノーマル DEATH

雄っばいでござったか

709 ノーマル DEATH

野郎はいらねえ

710 ノーマル DEATH

せや、男の娘におっばいつけたら合法じゃね？

711 ノーマル DEATH

>>710 それデブじゃ…

712 ノーマル DEATH

ふた〇りなら、ギリちよん？

713 ノーマル DEATH

戻ってこいお前ら！

714 ノーマル DEATH

ここはノーマルな趣向を持つ男の世界だぞ!?

715 ノーマル DEATH

おれもなー幼馴染とかなーそういうの欲しかったな

716 ノーマル DEATH

そもそもラキスケを許しているのはいかんではなからうか

717 ノーマル DEATH

いつちー？

718 ノーマル DEATH

つ包丁

719 ノーマル DEATH

つ鉈

720 ノーマル DEATH

つメス

721 ノーマル DEATH

つ鋏

722 &gt;&gt; 1

ちよん切れと申したかwwwwww…ないよね？

以降、嫉妬の入り混じる書き込みが続くのであった



ミットチルダ南部にある住宅街、鳥のさえざりと朝日が溢れる穏やかな時間。

八神はやては自宅のキッチンで朝食を作りながら、椅子に腰掛ける彼を眺めていた。

その顔は強張り、隣で寝ていた事で間違いを犯してしまったのではないか狼狽していた。

「むふふ♪ かわええなあ〜」

彼を見つけたのは偶然だ、正直なのはと出かけていたことには腹が立ったが…

結果的にはグッジョブ、いい仕事をしてくれましたぞなのはちゃん。

未だに関係回復には至っておらず、彼もまだ引きずっているようだ。

憂う表情も好きだが、慌てふためくそれもいい。

今この時を独占している、例えばようなない幸福感と達成感はやての心を満たす。

昨晩は彼と自分以外は家におらず、夕飯をご馳走し客人用の部屋へと案内した。

精神的なストレスからか、それとも信頼されているのか、驚くほど早く彼は眠りに就

いた。

そこからは至福の時と言っている。

寝顔を眺めつつ布団に潜り込み、暗闇の中で感じる熱と存在に溺れるのだ。

以前、同じベットで寝たことがあると、なのはから自慢された時は妬ましくてたまらなかつたが：

「(結局は【子供】の頃の話、あの様子からして他の雌犬におイタされてはしないやろし：ふふふ)」

黒い笑みが顔に張り付く、背を向けていなければ邪悪なそれを見せることになっていっただろう。

しかし一つ残念でならないのが――

「(ふむ、流石に手を出してはくれへんか：結構「溜まってる」ようやし、行けると思ってたんやけどなあ)」

【男性特有の生理現象】は確認した、少々サイズが参考文献を凌駕していたが問題はな

い。  
可能な限り薄着で、密着するように体を寄せていたのだが：理性を焼き切るほどではなかつたようだ。

だが興味がないわけではなさそうだ。

今もシャツにエプロンとラフな姿であるが先程から胸のあたりをチラ見されている。獣のように襲つてくれて構わなかった、いやむしろどんと来いだ、大歓迎満漢全席だ。強引に押し倒され、欲望のまま汚されている姿を想像するだけで下腹部が疼く。蕩ける頬を頭を振ることで引き締め、皿にスクランブルエッグとサラダを添える。ちようど良くトースターでパンが焼きあがり、ご機嫌な朝食の完成だ。

「ほな、めしあがれ〜♪」

「ああ、いただきます」

いつもなら慌ただしく過ごす朝も、互いに非番のため実に穏やかだ。

大きめのテーブルを囲むのは二人だけ、普段が騎士たちと囲むためかいやに広く感じる。

ならば増えればいいのだ、家族が増えればいい。

男の子だろうか、女の子だろうか、二人もいいが三人でも四人でもいい。

【家族】は多いほどいい、幼少時の境遇からか八神はやては家族愛に飢えている、

あの日、雪の降るあの時、大切な家族を失った。

その悲しみを誤魔化すため、そして家族の罪を償うため奔走する毎日。

過去の恨み、痛み、全てが自分に向けて無情に降り注ぐ。

覚悟はあった、それでも苦しかった。

だけど、彼は変わらず自分と接してくれた。

同情するでなく、特別何かするでなく、いつも通りで有り続けた。

それがどれだけ救いになったのか、彼はきつと知らないだろう。

「ほんでなくこの前あったことなんやけど」

穏やかな朝食、何気ない会話、緩やかに過ぎる時間。

青年もまた強ばっていた表情が緩む、同衾の事もちよつと突いてみたいが今は我慢。

部隊新設の話をするべきだが、それはもう少し後でもいいだろう。

愛する人との時間は、有意義であるべきだから。

ちなみに、青年は朝起きると右手が湿っているように感じたが：  
手を洗った今はそれが何だったのかわかるまい。

## マジ怖すぎワロスWWW/Wフエイト

549 &gt;&gt;1

マジ怖すぎワロスWWWワロス：

550ノーマルだつってんだろうがYO！

いっちいいいいいいいいいい!!?

551ノーマルだつってんだろうがYO！

またイツチがビビってらっしゃるぞ

552ノーマルだつってんだろうがYO！

はいはい、ワロスワロス

553ノーマルだつってんだろうがYO！

で、今度はどしたよ

554 &gt;&gt;1

いや、Fが最近会うたびにルーズリーフ式のメモ帳に何か書き込んでてさ  
一枚破れたのを拾って中身見ちゃったんだ

555ノーマルだつってんだろうがYO！

あ(察し)

556 ノーマルだっつてんだろうがYO!

もしかして殺害トリック?

557 ノーマルだっつてんだろうがYO!

完全犯罪を指摘しているのか

558 ノーマルだっつてんだろうがYO!

お客様の中に警察はいらっしゃいませんかー?

559 ノーマルだっつてんだろうがYO!

小さくなった探偵「ガタツ」

560 ノーマルだっつてんだろうがYO!

名探偵の孫「ガタツ」

561 ノーマルだっつてんだろうがYO!

>>559 | 560 お前らじゃねえ座つてろ!

562 ノーマルだっつてんだろうがYO!

殺害阻止率マイナスいってる奴らはいらねえwww

563 ノーマルだっつてんだろうがYO!

で、イッチー中身は?





572 ノーマルだっつってんだろうがYO!

好きな人の事をもっと知りたいの(はあと

573 ノーマルだっつってんだろうがYO!

>>572 怨敵だけどな

574 ノーマルだっつってんだろうがYO!

>>572 むしろ被害者なんだよなあ

575 ノーマルだっつってんだろうがYO!

>>1は犠牲になったのだ、百合ツプルの偽装兼鞘当としてな

576 ノーマルだっつってんだろうがYO!

悲しいね、バオージ

577 ノーマルだっつってんだろうがYO!

あの子

578 ノーマルだっつってんだろうがYO!

いやーきついつす

579 ノーマルだっつってんだろうがYO!

ないわーいろんな意味でないわー

580 ノーマルだっつってんだろうがYO!

>>577 おう、どうした

581 ノーマルだっつってんだろうがYO!

いや、ちよつと聞きたいんだけどそのメモ何処まで書かれてる?

582 ノーマルだっつってんだろうがYO!

どこまで

583 ノーマルだっつってんだろうがYO!

そりゃ…いつちー?

584 >>1

見ちゃった

585 ノーマルだっつってんだろうがYO!

見ちゃったか

586 ノーマルだっつってんだろうがYO!

聞きたくない、だけど聞いちゃう(ビクンビクン

587 ノーマルだっつってんだろうがYO!

おう、おいちゃんらに教えてみ

588 >>1

か、完全にプライベートのそれまでしらべられてりゆ

589 ノーマルだつってんだろうがYO!  
 590 ノーマルだつってんだろうがYO!  
 591 ノーマルだつってんだろうがYO!  
 592 ノーマルだつってんだろうがYO!  
 593 ノーマルだつってんだろうがYO!  
 594 ノーマルだつってんだろうがYO!  
 いやあー、きついっす

その後、阿鼻叫喚の書き込みが続いた。



寄りかかった厚い壁は、まるで障子紙のように不安だった。

そこら中に亀裂やヒビが入り、倒壊寸前の廃墟ビル。

5〜6階辺りだろうか、瓦礫で周囲からの視線は全て遮られ、盾として活用する予定の大黒柱に隠れ息を吐く。

「つつても、この程度じゃ穴あきチーズになるのが関の山か」

長らく付き合ってくれている刀剣型デバイスを抱えながら、青年はこれからの手順を考察していた。

あちらは格闘よりの万能型、こっちはほぼ近接オンリー。

射撃、速度、機動力はあちらが上、馬力と装甲はこちらが上。

互いに得意な近接戦闘を避けて撃ち合う、こっちの勝利が0なので却下。

正々堂々正面から突撃、それが出来てれば今のような状況にはなっていないので却下。

長期戦に持ち込み、隠れながら隙を伺う…今がそれだ。

遮蔽物のない空中戦では機動力の差を埋められない、マツハで蜂の巣確定。

盾はある、だが矛が届かない。

射程が足りない、ちよつとや少しじゃなく、致命的なまでに。

「不器用だしなあ、俺…」

分かっていたことだ、今更ぼやいたところで始まらない。

『提案』

「おう相棒、いつになく静かだから本気で棒になつたのかと思つたぞ。どんな素敵な作戦を考えてくれた？」

『白旗』

まさかの敗北宣言、愛刀の癖に情けないぞへし折つてやろうか。

「いや、まあ、正直相性悪すぎて泣けてくるが…」

固定砲台や、広範囲攻撃なら切り払つて前進すればいい。

最悪被弾覚悟で突っ込めばなんとかなる、たぶん、きつと、メイビー。

「しかし相手は速いのなんのって…確かに降参するべきかねえ、他の連中リタイヤしてっし」

無論、相手方も残りは彼女だけ。

ギリギリまで粘って負けましたというなら、まだ言い訳も立つがー

「いやダメだ、無理だ、普通に負けるならともかく降参なんてした暁にはただでさえボロくずのプライドが消し飛ぶ」

男としての自尊心、なけなしの矜持。

これが無くなったら本気で死にたくなる、自宅で首吊るか、高層ビルから飛び降りたくなってしまう。

他人からすれば逆にこっちが金を払うレベルのガラクタで、自分にとっては文字通りの命綱。

「カートリッジは残り三つ、【雲耀】！ あっちは幾つだ？」

『恐らく二つ、身を隠す寸前での弾幕射撃にて使用を確認』

『初撃を防ぐために一つ、牽制&目くらましに一つ、本命に最後の…足りねえ』

『肯定』

「ルール確認、リタイヤ済みの連中から拝借できるか？」

『全員撤収済みのため不可』

「dsyn」

パラリと、砂埃が降ってくる。

同時に伝わって来る衝撃、だんだん近づいてくるこれは…

「あ、やべ」

直後、顔面ストレスレところに雷の槍が着弾する。

もう少し休ませろよとボヤキながらも、雨霰と降り注ぐ弾幕を切り払う。

どうするべきか、こちらが勝利するための要素は何か。

必要なのは三つ、機先、間合い、そして破壊力。

自身の接近を気づかせず、斬撃が届く距離まで近づき、初撃で切って落とす。

ガキンツ！

心臓目掛けて飛んでくるものを叩き落とす。

ガキンツ！

背後から飛んでくるものを蹴りで軌道をずらす。

ガキンツ！

もはや全方位からの攻撃を、円を描くように切り払う。

『こちらの勝利条件を満たすには、三次元による空中戦では不可能』

『擬似的な平面状態を作り出し、「初速」にて「初撃」を取る必要有り』

砂煙が視界を奪う。

同時に静電気が弾けるような、産毛が逆立つ感覚。

理論はできた、立証はこれから、実践は同時に。

さあ斬り伏せよう。



「バルディツシュ」

『Yes. sir』

カートリッジを二つ使い、ザンバーモードへと変形させる。

これで手持ちは全弾消費、どうせならもつと節約するべきだった。

「バルディツシュ、これで終わらせよう」

先ほどのフォトンランサーによる制圧射撃、手傷を負わせることすら出来ていない。

それは確信している、彼はダメな男だが「その程度」なら出来るだろうと。

砂煙で姿は見えない、ダメな男だが作戦でも立てているのだろうか？

無駄だ、時間の無駄、何故なら彼はどうしようもなく駄目な人間なのだから。

なのはも、どうして分かってくれないのだろうか？

どうしようもなく駄目で、このまま甘く接し続ければきつと腐り落ちてしまう。







「うん、二人共々苦勞だったな」

クロノ・ハラオウン提督は、上機嫌に義妹と友人を労った。

彼が艦長を務めるアースラメンバーと、武装隊による模擬戦は両者引き分けで幕を下ろしたのだ。

今回の裏では色々と動いているらしいが、そこら辺は知ったことではない。

自分とフェイトが戦えば、少なくともどちらかが大敗する可能性は低いと踏んだのだろう。

結局は最後の一撃で両者ノックアウト、引き分けという理想的な幕切れ。

機嫌がよくなるのも頷ける、酷い男だ。

「最後、何したの」

刺すような…むしろ抉るくらい鋭い視線をぶつけてくるのは、フェイト・T・ハラオウン執務官。

彼女から最後に笑顔を向けられたのは、はて何年前だったか。

「カートリッジをザンバーに放り投げて、その衝撃で飛んだ」

爆発はカートリッジを魔力刃で破壊したことによるもの（爆発するよう細工はしたが）。

移動と目くらましを同時に行い、予想外の所から機先を制したはずだったが……  
「まさか待機中のフォトンランサーをバルディツシュが操作するとは思わなんだ、とほほ」

保険のため待機させていた魔力弾、それを主の危機にいち早く反応したバルディツシュが射出したのだ。

攻撃はほぼ同時、互いに撃墜判定をくらって引き分け。

なんとも締まりのない終わりだこと。

「……ダメ……なの……ブツブツ」

すかさず闇魔帳に今回のことが記載される、悲しいね苦しいね泣きたくなるね。

クロノの方に視線を向けると、まったく仕方がないなと苦笑していた。

今度、あることないこと奥さんに告げ口してやろうと思う。



フェイトの借りているマンションの一室、机の上で乱雑に散らばっている写真の山。  
幼い頃の、数少ない共に写った写真。

少年だった彼だけはハサミで切り取られ、写真はアルバムに挟まれている。  
だが挟まれているそれに、持ち主たる少女は写っていない。

切り取られた「二人」は、今も一緒に引き出しの中で寄り添っている。

もう偽装でいいよもう／アリサ

149 >>1

もう偽装でいいよもう

150 ノーマルで有り続ける勇氣

イツチ…

151 ノーマルで有り続ける勇氣

諦めてしまわれたか

152 ノーマルで有り続ける勇氣

何があつたし

153 ノーマルで有り続ける勇氣

諦めんなよどうしてそこで r y

154 ノーマルで有り続ける勇氣

イツチー折れてしまうん？

155 ノーマルで有り続ける勇氣

はいはい、んじや報告よろ

1 5 6 >> 1

金持ちの片割れの荷物持ちとして同伴

←

終始ラブっぷりを語られる

←

なんかもうすごい勢いでメンタル削られた  
しにたい

1 5 7 ノーマルで有り続ける勇氣

おう：

1 5 8 ノーマルで有り続ける勇氣

幸せそうな奴ら見てると死にたくなるよな

1 5 9 ノーマルで有り続ける勇氣

リア充共、死すべし！

1 6 0 ノーマルで有り続ける勇氣

というか、そこまでくると友人やってて辛くねえ？

1 6 1 >> 1

いやだつてあいつら悪くないし

とういか悪いの俺だし：

162 ノーマルで有り続ける勇氣

改めてイツチは人がいいのが理解できた

163 ノーマルで有り続ける勇氣

(こういう奴が損するんやなって)

164 ノーマルで有り続ける勇氣

(ファ○チキください)

165 ノーマルで有り続ける勇氣

(こいつ、直接脳内に：!?)

166 >>>1

偽装でも見かけはモテてるしい、なんかもういいかなって

167 ノーマルで有り続ける勇氣

彼女いらんの？

168 >>>1

ほしい

169 ノーマルで有り続ける勇氣

はや!?

170 ノーマルで有り続ける勇氣  
イツチー神速のインパルスやね

171 ノーマルで有り続ける勇氣

真面目な話、今のままで彼女なんて作れへんで

172 ノーマルで有り続ける勇氣

一度、離れるのも手じゃないかな

173 >>>1

そうだx

174 ノーマルで有り続ける勇氣

うん？

175 ノーマルで有り続ける勇氣

アレ？ イツチ書き込みミス？

176 >>>1

トラブル発生、ちよつと離れる

177 ノーマルで有り続ける勇氣

あいよー

178 ノーマルで有り続ける勇氣

気をつけてなー

※しばらく書き込みが続き

227 >>1

夢を忘れちゃいかんのだよ！



「ぐっはっ!？」

最後の一人がアスファルトの地面に叩きつけられ、気絶した。

「折角の有休に地元に戻ってきたと思えば…」

周囲にはガラの悪いチンピラが10人弱倒れている。

手には鉄パイプ、ナイフ、割れた酒瓶などが握られており、ミッドなら傷害未遂で豚箱に叩き込んでいるところだ。

「派手にやったわねえ〜」

アリサ・バニングス、なのはとの喧嘩で距離が縮まった幼馴染の一人。

かつては小柄な少女だった彼女も、今は成熟した美女へと成長した。

ぶっちやけそのたわわに実ったメロンは素晴らしいと——ゲフンゲフン。

「誘拐にしては素人だな、近くに移動用の車かアジトがあるか：アリサ、安全な場所に移ろう。俺は残りを潰してくる」



転がった鉄パイプを拾い上げ、さあ掃除の時間だと意気込む青年をアリサが止める。

「いいわよ別に、そういうのは警察に任せればいいでしょ」

「こつちじゃ一般人なんだからね」と、鼻先に人差し指を突きつけられたら言葉が出ない。

最近どうにも荒事が多いからか、思考が即逮捕に繋がってしまいうようだ。

「ほら、買いい物が終わってないんだからさっさと行くわよ」

「いやいやいや、危ないから帰ろうや!？」

「その時は守ってくれると思ってたけど?」

小悪魔の笑みを浮かべ、言外に信頼していると云われてしまうと弱いのだ。

いつになっても、男は女に勝てないものだ。



久々に取れた休暇、どうせだからと親に顔を見せようと海鳴へと帰省したまでは良かった。

親父は海外出張、お袋はそれに付いていったらしく。

その旨を伝えたメールは、数週間前に送られていたようだった。

はい、仕事が忙しくて見てませんでした。

家に帰っても食料などあるはずもなく、トボトボとスーパーに買い物に向かったら…

「ちよつと帰つてるなら言いなさいよ、丁度いいから付き合いなさい！」

同じく買物物に來ていたアリサに捕まり、こうして荷物持ちをさせられているわけだ。

彼女も春からは華の女子大生、それに合わせて親友の月村すずかとルームシェアをい実家を離れるらしい。

そんなわけで事あるごとに俺を連れて小物やら家具やらを見に誘われ：いや荷物持ちをさせられている。

お前なら電話一本で最高級の奴が届くだろうに：

二人だけの空間で、その豊かな果実を育んでいるのか！

夢のキャンパスライフ、桃色の共同生活。

対してこっちは尻の心配をしながら、メンタル削って仕事ばかりの灰色生活。

うわ、泣けてきた。

重い溜息とは裏腹に、アリサは楽しみにシヨツピング。

そこへガラの悪い連中が登場、誘拐なのか、それとも単に女目当てか。

色々騒いでいたのを無視して離れようとすれば、武器を持って襲いかかってくると

きた。

もうね、日頃のストレスが弾けたよ。

裏路地に誘い込み、全員KOにしてやったわ!

いつから海鳴は無法地帯に：ああ、いや、元からか。

そうこうして荷物持ち兼ボディーガードとして一日が終わりました、まる。



この男はどうしてこうあたしを誘惑するのだろうか。

暫くぶりに顔を出した幼馴染は、相変わらず男としての警戒心が足りない。

逆ナンを食らったらホイホイついて行きそうだ、危なっかしくて見てられないわ。

そのくせいざとなったら勇敢な番犬に早変わり。

柴犬の可愛さとドーベルマンの忠誠心を兼ね合わせるとか反則だわ：

あたしはアリサ、アリサ・バニングス。

今はまだ幼馴染の友人、「まだ」ね。

あいつが海鳴に帰ってきてきているという報告を受けると、すぐにナチュラルメイクを済

ませて迎えに行った。

案の定、ご両親が出張に行っているのを忘れていたのだ。

本当、どこか抜けているというかなんというか：かわいい。

すずかの実家に用があつて動けない、たまには独占してもバチは当たるまい。

小物と日用品、そこらへんの趣味はあいつにお任せ。

だって、あんたが使うものなんだから。

もちろんあたしが選ぶことも多い、というかもっと服装にも拘るべきでしょ。

背広以外は全部セール品ばっかり着てるのだ、デザイナーに特注してやりたいところだが今は我慢。

服を選ぶのは「妻」の仕事、それは後々の楽しみだからとっておきたい。

ああ、でも、やっぱり着きたい——首輪。

きつと似合う、似合うのだ、絶対に。

あんたが、わたしの首輪を着けてくれたら、うんと甘やかそう。

蕩けるように、溶けるように、混ざり合うように。

すずかも一緒だ、きつと幸せな未来が訪れる。

大丈夫、安心して？

悩むことなんてない、戸惑う必要もない、全部あたしたちが与えてあげる。

だからちようだい？

あんたの全部。

あたし達に、ちようだい？

欲望が渦を巻く、このまま持ち帰ってしまいたい衝動が抑えきれない。

あいつの腕を取り、抱きしめる：ほんの少しだけ我慢できそうになった。

あは、顔真つ赤にしちやつて可愛い。

可愛い、可愛い、可愛い。

愛しい貴方、もう少しだけ待っていて。

必ず、ムカエニイクカラ。



巨乳つて素晴らしい。

鋼の精神力で愚息に血が集まるのを堪え、なんとか己を制する。

もう手を出しちやつていいのではないかと、悪魔の自分が囁くのだ。

天使はこう返す、金持ちなパパンに社会的に殺されるぞと。

おっぱい、おっぱい、おっぱい、

童貞にこれはきつい、生殺しもいとこだ。

ああくおっぱいが大きくて可愛くて料理が美味しい人とかいないかなあゝ

周りにいつぱいいるけど全員百合なんだよなあゝ

あ、なんかゴリツと何かが削れた感じがする。

そもそも俺なんで我慢してるんだろ。

そうさ、俺だつて幸せになつてもいいと思うんだ。

出世して、いい感じの嫁さん貰つてゴールインしてもいいじゃないか！

「なあ、アリサ。俺もつと頑張ってみるよ」

「うん？ まあ、努力するのはいいんじゃない？（可愛い可愛い可愛い可愛い可愛い可愛い！）」  
そうだ、何を諦めていたんだ。

俺だつて頑張ればなんとかなるさ、きつとそうだ！

やったるで、俺は絶対にかわいこちゃんをゲットするのだ！

これが何をもたらすことになるのか、神ならぬ青年に予見することなど出来なかつた。

# 修道服って何であんなにエロいんやろな／カリム

463 >>1

修道服って何であんなにエロいんやろな

464 ノーマルだって男だもの

それな

465 ノーマルだって男だもの

神にささげた裸体、エロい、エロくない？

466 ノーマルだって男だもの

うん…うん（確信）

467 ノーマルだって男だもの

のっけからイッチが欲望ダダ漏れな件について

468 ノーマルだって男だもの

イッチ、その考えに至った経緯をkws k

469 ノーマルだって男だもの

kws k

470 ノーマルだって男だもの

k w s k

471 >>1

以前友人の紹介で教会に顔出したことがあったんよ

そのあともたまにお呼ばれして手伝いとかしてる

でだ、こう若いシスターさんが屈んで作業してると、こう、みつちりと浮かんでくるんだなあ

472 ノーマルだって男だもの

B B A じゃないだど!?!?

473 ノーマルだって男だもの

若い子か!

474 ノーマルだって男だもの

このイッチの反応からして可愛いぞ!

475 >>1

A A ランクといたところかな

476 ノーマルだって男だもの

(周りはSだけど百合だもんな)



477 ノーマルだって男だもの

(イツチ、妥協することを学んだか)

478 ノーマルだって男だもの

(Lチキください)

479 ノーマルだって男だもの

(こいつ、直接脳内に)

480 >>1

そこのお偉いさんから紅茶と菓子をご馳走してもらうのだけど、そっちも美人!

茶も菓子も美味いし、いう事はないのだが…

481 ノーマルだって男だもの

おう、どうした?

482 ノーマルだって男だもの

まさか…

483 ノーマルだって男だもの

あ(察し)

484 ノーマルだって男だもの

死んだ目

485 >>1

いや、そっちは百合じゃないと思う、たぶん

だけど子供の頃から見た目が全然変わらないのよね

486 ノーマルだって男だもの

ああ、そこは気にしなくてもいい

周りに何人かいる

487 ノーマルだって男だもの

そう、老いてもなお美しいとかいうけれども、むしろ熟れてからが魅力が上がるもの  
だ。

488 ノーマルだって男だもの

人妻、未亡人、いい言葉だ

489 ノーマルだって男だもの

感動的だな／主に下半身に

490 ノーマルだって男だもの

だが無意味だ つ鏡

491 ノーマルだって男だもの

ウワアア——。。(、旦、)。——ン！ああああん

492 ノーマルだつて男だもの

言うなよ…

493 ノーマルだつて男だもの

希望を抱き続けたつていいじゃないか…！（血涙）

494 >>>1

なんとかしてセクハラ疑惑に発展させないよう、見続ける方法はないものか  
その後、あーでもない、こーでもないと議論が続くのであります



「ごめんなさいね、わざわざ来てもらっちゃつて」

そう言つて紅茶を淹れるのはカリム・グラシア、聖王教会の重鎮にして八神はやての友人。

相も変わらぬその美貌を向けられて、鼻の下が伸びない男は少ない。

類に漏れず青年もいやあくとか言いながらデレッテレに顔を弛緩させていた。

「ギリツ…」

隣に座るはやてちゃん、顔が能面みたいになつておりますわよ？

いつもならばヴォルケンリッターの面子が護衛に就くのであるが、たまたま教会の方に顔を出すつもりだったため同伴。

しかし妙だな、何故か室内が異様に寒い……うーん、風邪でもひいたか？

レリックやら新部隊やらの確認を込めた会話。

そこらへんは自分が口出すことではない。

暇を持て余しつつ、窓から見える中庭で掃除をする数人のシスターたちが目に留まる。

塵取りを置き、身を屈めるため素敵な光景が現出するのだ。

おお、肉厚の尻が修道服の上からでもクツキリわかる……！

だがこのまま見続けてはセクハラとして訴えられ、俺の人生と評価は地に落ちる。

そのための新兵器、技術部の知り合いに頼んで作らせた高性能サングラス!!!

これを着けていれば視界はそのまま、視線を隠しつつ、望遠、赤外線、魔力探知など様々なオプシオンも付くのだ。

正直それを覗き目的で使っている自分が恥ずかしくもあるが、それはそれ。

俺は気にしない、そうだろう？

「どうされましたか？」

そこをカリムの側近であるシスター・シヤツハに尋ねられた。

危ない危ない、一瞬心臓が飛び出るかと思った。

「いや、何度見ても見事な庭だなと」

「ええ、シスターたちが毎日掃除に精を出していますから」

ふう危ない危ない、なんとか誤魔化したようだ。

シャツハはカリムの護衛でもあり、あのトンファーで頭をぶつ叩かれては堪らない。

「こんな平和な時間が、もつと続くといいんだが……」

なんかそれっぽい事言つて、俺はまた尻を眺めるのだ。



青年とシャツハが窓際で警戒（片方は覗き）をしている中、はやてとカリムはにこやかに

「なあカリム、——くんを呼んだのはなんで？」

「ふふふ、久々にお話が聞きたかったの……はやて、そんなに怒らないで」

——談笑してゐるわけねえべや、

カリムはいつもと変わらぬ微笑を浮かべているが、はやての方は感情の欠片すら感じさせない能面。

しかし腹の中は嫉妬と疑念が、マグマのように煮えたぎっていた。

「はやて、私は貴女の事が大好きよ。それは決して変わることはないわ……でもね」

彼のことよ、同じように好きなのよ。

そう語る予言の騎士の眼は、幾度となく見てきた物と同様の輝きを宿していた。

カリム・グラシア、彼女の持つレアスキルは文字通り未来予知。

情報は断片化しており、また具体的に何が起こるかは不明という代物であるが、教会・管理局両方にとって極めて重要なものだ。

だからこそ親しい友人はともかく、異性というのは極めて少ない。

たまたま彼女に近づいた少年が、勇ましく成長し、それを異性として見ている。

彼でなくても良かっただろう。

少年以外の、誰でも良かったのだろう。

麻疹のようなものだ、今までいなかったらそれを唯一と思いつくのも仕方がない。

しかし、それは悪いことか？

間違っていると、誰が決めた？

別に愛情を独占したいわけではない、親しき彼女から奪いたいわけでもない。

ただほんの少しだけ、それを自分にも向けて欲しい。

愛してほしい、傷つけて欲しい、自分に彼を刻んで欲しい。

ただそれだけ、それだけの慎ましやかな願い。

「彼は強いわ、体も、心も」

「なにより他者を惹きつけるカリスマ、上に立つべき素質を持っている」

本人が聞けば必死に否定するだろうが、彼女たちの中では真理だ。

故にはやては頷く、だからこそ自分が相応しい地位を用意して…

「でも私ならもつと早く、多く彼にあげられる」

「ツ…！」

「ねえはやて、私は貴女の味方よ？」

「貴女は私を利用していいの、彼のためなら幾らでも利用していいの」

「はやてなら、それが出来るでしょう？」

カリムは動けない、地位と権力を引き換えに自由を奪われたのだ。

互いを利用し合い、愛する男に望むものを。

これは、青年である必要はない。

青年が選ばれたのは偶然だ。

しかし、この世において偶然とは起きた時点で必然であり。

申し出を受けることも、また必然なのだから。

「ところで、今夜あたり誘えないかしら」

「羊水腐るまで寝とけ」

# 殺意の波動つてああいうもんなんやろなって／シグナム

188 >>1

殺意の波動つてああいうもんなんやろなって

189 ノーマルでござすぞ

い つ も の

190 ノーマルでござすぞ

最近慣れてきた自分がいる

191 ノーマルでござすぞ

おうイツチーまあたFか？

192 ノーマルでござすぞ

懲りないねえ

193 ノーマルでござすぞ

俺、美人にコロコロされそうになったらおっぱい揉むんだ

194 ノーマルでござすぞ

三審蹴っ飛ばして即アウトです



195 >> 1

今回はポニーデカパイ侍だよ、なんか怖い、目が怖い

小指とか足とかそういうのに殺気キラキラの視線飛ばしてきてこわい

196 ノーマルでござすぞ

痴漢撃退法

197 ノーマルでござすぞ

お触りマンの小指を思いつきりつまむのです

198 ノーマルでござすぞ

イタアイ

199 ノーマルでござすぞ

ITAXAI

200 ノーマルでござすぞ

ンンンギモヂイイイイイイイイイイイイイ

201 ノーマルでござすぞ

(マゾは) ないです

202 ノーマルでござすぞ

つ乗馬用ムチ

203 ノーマルでござすぞ

つロウソク

204 ノーマルでござすぞ

つアイスピック

205 >>1

俺なんかしたかなあ

206 ノーマルでござすぞ

でっばい見すぎで起訴

207 ノーマルでござすぞ

谷間に指突っ込むのはNGですか

208 ノーマルでござすぞ

NG

209 ノーマルでござすぞ

NG

210 ノーマルでござすぞ

NG

211 ノーマルでござすぞ

N  
G

2 1 2 ノーマルでござらずぞ

M  
G

2 1 3 ノーマルでござらずぞ

N  
G

2 1 4 ノーマルでござらずぞ

おおい、マスターグレート (M G) が混ざってんぞ

2 1 5 &gt;&gt; 1

( ; 皿 )

2 1 6 ノーマルでござらずぞ

ん?

2 1 7 ノーマルでござらずぞ

おい、イツチー?

2 1 8 ノーマルでござらずぞ

貴様、まさか：

2 1 9 &gt;&gt; 1

(▽、\*ゞ) テヘッ

2 2 0 ノーマルでござすぞ

やったのかあああああー！！

2 2 1 ノーマルでござすぞ

う、羨ましいいいいいいいいいいい!!?

2 2 2 >> 1

事故ですううううううう！ 曲がり角でなんかこうズポツって入っちゃったんで

すうううううー！！

2 2 3 ノーマルでござすぞ

ゆ、許せねえ

2 2 4 ノーマルでござすぞ

そんなワクワク体験ありえねえ…

2 2 5 ノーマルでござすぞ

柔らかかった？

2 2 6 ノーマルでござすぞ

圧は如何で？

2 2 7 >> 1

アレに挟まれてなら死んでもいいかなって

以降の書き込みにおっぱいの豆知識が多数書き込まれた



時空管理局・本局トレーニングルーム。

様々な訓練用機器が立ち並ぶその一角に設けられたスペース。

二人の男女が己の得物を構え、身じろぎ一つせずに対峙していた。

東側には青年、西側には烈火の将・シグナム。

観戦している局員たちも固唾を飲んで見守っている。

どちらも剣術の達人、静動の移りを見逃せば勝利はない。

時計の秒針が発する無機質な音。

空調の音。

局員らの息遣い、

そして己の心音。

全てが、重なる――

「私の勝ちだな」

シグナムの一撃が青年の剣を叩き飛ばしたことで、幕が降りるのであった。

シャワーを浴びてくるとクールに去っていくシグナムを目で追う…

おっぱいも反則だけど、尻も戦術レベルの破壊力だぜ。

危うく折られかけた小指を撫でつつ、青年は他の局員たちに交ざり先ほどの模擬戦について談話することにした。



熱めのお湯を頭にかぶり、火照った体の汗が流れていく。女性としての魅力を備え、戦士としての肉体を併せ持つ彼女の眼は葛藤と期待に揺れていた。

あと数センチずれていれば、青年の指は砕けていた。

無論、ミッドの医療技術ならば折れてもすぐに完治するだろう。

それを踏まえての訓練……だが。

「また、強くなっているな」

初めて戦ったのは闇の書事件、それからもずっと走り続ける青年を見ていた。

だからこそ、分かる。

いつか己を超えて、その先へと駆け抜けるといふ未来が。

感慨深い、それもある。

少し寂しい、それもある。

だが、だがだ、なによりも。

いつか、こうして自分と対峙してくれなくなるのではと。

それが怖い。

それが、辛い。

シグナムは己に女性としての魅力を感じていない。

だからこそ剣しかないのだと、それだけなのだ。

青年からすればむしろ魅力的すぎて鼻血が出るレベルなのだが、そこは置いておく。

幼く未熟な少年期、それを経て飛躍する青年期。

喜ばしい、友として、先達として、そして師として。

本当に、成長を喜んでいるのだ。

しかし、しかしだ…

「お前は、私から離れていくのか…？」

前に立つこともなく、横に並ぶのでもなく、小さくなつていく背中を見ているだけなのか…？

——あの手足を切り落としたら、お前は止まってくれるか？

「ツ—」

ガンツと、思い切り頭を壁に叩きつける。

何を考えた、何を考えたのだ剣の騎士！

お前は主の思い人を、友を、彼を傷つけるといふのか！？

情けない！

情けない！！

情けないぞ烈火の将！

なんと不埒な女だ、シグナム！

不埒に思いながら、唾棄すべき願いを未だに捨てきれんのか!?

震える肩を抱き、お湯と共に流れるものが本心をさらけ出す。

シグナムよ、弱きものよ、ヴォルケンリッターの恥さらしよ。

どう足掻いても、この身の「女」は彼を求めてやまないのだ。



メイドさんがなあー俺にもなー欲しいなあー／すずか

695 >>1

メイドさんがなあー俺にもなー欲しいなあー

696 ノーマルとは宇宙の統一基準

イッチの欲望は服装なのだろうか

697 ノーマルとは宇宙の統一基準

メイド、いいよね

698 ノーマルとは宇宙の統一基準

ミニスカじゃない、ロングでいいんだ

699 ノーマルとは宇宙の統一基準

機関銃か、ナイフか、それが問題だ

700 ノーマルとは宇宙の統一基準

>>699 そんなおっかないメイドいやどす…いやどす

701 ノーマルとは宇宙の統一基準

イッチーはいつものだけど、今回はなんでまたメイド？

702 >>1

友達のとこに飯くいに行ったら、何故かメイド姿でお出迎えされてもうた  
いやね、マジでこうご主人様プレイがね、破壊力がね！

703 ノーマルとは宇宙の統一基準  
もげろ

704 ノーマルとは宇宙の統一基準  
もげろ

705 ノーマルとは宇宙の統一基準  
もげろ

706 ノーマルとは宇宙の統一基準  
腐れろ

707 ノーマルとは宇宙の統一基準  
枯れ落ちろ

708 ノーマルとは宇宙の統一基準  
その子も百合でねーの？

709 >>1

んだんだ、でもマジで堂に入ってたからねー

- 710 ノーマルとは宇宙の統一基準  
ご主人様、なんかこう響きがエロい  
711 ノーマルとは宇宙の統一基準  
メイドといえば巨乳  
712 ノーマルとは宇宙の統一基準  
貧乳もいいぞ！  
713 ノーマルとは宇宙の統一基準  
抱擁感を感じさせるでっばいに一票  
714 ノーマルとは宇宙の統一基準  
メガネ、メガネはないのですか!?  
715 ノーマルとは宇宙の統一基準  
ケモ耳メイドは、めめしか？  
716 ノーマルとは宇宙の統一基準  
ケモ耳にはあえて和服を押し  
717 ノーマルとは宇宙の統一基準  
和風メイド、そういうのもあるのか…？  
718 ノーマルとは宇宙の統一基準

それは女中さんではなからうか

719 >>1

これで百合じゃなければなあ、求婚不可避なんだけどなあ

720 ノーマルとは宇宙の統一基準

それな

721 ノーマルとは宇宙の統一基準

それな

722 ノーマルとは宇宙の統一基準

百合はなあー

723 ノーマルとは宇宙の統一基準

LGBTに理解はあっても大多数じゃないんだよなあ

724 ノーマルとは宇宙の統一基準

そんなだから喪男が生まれるんだ！

※その後も皆でメイド談義がスレを熱くさせていった

◆◆

「いやあく悪いなあ、<sup>っ</sup>馳走になっちゃって」

海鳴市の高級マンション、その一室でコース料理とばかりに揃えられた見た目も味も

素晴らしい品々。

それを余すことなく平らげると、メイド服姿の月村すずかは微笑みながら皿を下げていく。

「気にしないでいいよ、食材とかノエルが定期的に送ってきちやうから食べきれなくて」  
メイド喫茶などであるミニスカートではなく、丈の長いロングスカートにエプロンドレス、フリル付きのカチューシャ。

清楚なイメージを抱かせる古典的なメイド服。

しかしながら一部が巨を超えて爆とまで成長した彼女が着込めば、一気に男の情欲を唆らせる魔性の色香を放つのだ。

「旦那様、お食事は気に入って頂けましたか」

「もう大満足っす」

男の料理など、焼く、煮る、揚げるの三択。

それに比べてどうだ、味もさることながら美女が作ったというだけで価値は天まで届くほどだ。

「……ごめんね、少し外しても大丈夫かな」

デザートの特マトシャーベットの頬張りながら問題ないと返し、すずかは部屋を出て行ってしまふ。

そういえば、今日はアリサはいないのだろうか？

窓から見える夕焼けをぼんやりと眺めつつ、青年は煩惱を打ち払うべく食に没頭することにした。



「はあ、はあ、はあ…！」

完全防音を施された寝室、そこで行われる行為を待ちきれないと息が荒くなつていく。

棚の隠し金庫に暗証番号を入力し、目当てのモノを取り出した。

そこには三重にパック閉じされたハンカチが一つ。

よく見ると乾いた赤い汚れがついている…赤黒く、絵の具のそれではない。

精巧なガラス細工を扱うかのようにハンカチを取り出し、汚れた部分が鼻に当たるよう押し付けた。

大きく、ゆっくりと深呼吸。

同時に脳髄を駆け巡る快楽信号が、脳内麻薬を多量に分泌させていくのだ。

「~~~~~ツ、あ、ふ、ああ、すご、あふ」

腰砕けになりベッドへと崩れ落ちるすずか、その表情は「とろける」といわんばかりに快楽に溺れていた。

小学生の、卒業間近の辺りだろうか。

卒業式の準備のため、カッターを扱っていた際に青年が怪我をしてしまったのだ。止血に用いたハンカチ、完全に乾ききり臭いの類など存在するはずがない代物。しかしわかるのだ、自分には。

夜の一族、俗に言う吸血鬼。

血を吸り、200年の時を生きる怪物。

それが自分だ。

それが、月村すずか。

この事を知っているのは、家族や姉の恋人である高町恭也、そして親友の一人であるアリサだけ。

伝えられるはずがない、自分が化物なのだとして言えようか。

愛する者の血を吸い、そして己の血を与える。

夜の一族にとってそれは至上の愛情表現であり、長き時を共に生きようと願う契り。素敵なことだ、想像するだけで体が疼く。

今もこうして残り香で己を慰めている通り、彼の血はすずかにとって麻薬同然。

ああ、ああ、ああ、扉を開いて襲いかかつてはくれないものか。

ベッドに押し倒し、力づくで純潔を散らして欲しい。

姉の方は逆に襲いかかるか、ロマンチックなシチュエーションを求めるが…すずかは乱暴にされる方が好みだった。

荒い吐息と朱に染まった頬が、なんとも妖しげな色気を醸し出す。

慰めようにもアリサから貞操帯を付けさせられ、鍵は実家に帰省している彼女の手の  
中。

壊そうと思えば出来ない事も無いが、そうしないのは彼への願い、

従僕の証たる首輪を付け、その鎖を彼の手に。

彼を主とし、その願いのまま全てを捧げたい。

端的に言えば、すずかは彼の雌犬になりたかった。

うん、どうしようもないマゾヒストである。

夜の街を露出散歩プレイとかしたがるタイプだ、恐ろしい。

息を整え、香水で臭いを誤魔化し化粧を直す。

そしたら見かけは。パーフェクトメイド、中身はDM吸血鬼。

来るべき未来へ備え、完璧な雌犬となるためにすずかは花嫁修業を行うのだ。

ハンカチをまた金庫に取め、彼の待つリビングへと戻る。

「ご主人様、どうかすずかを——」

欲望のまま、可愛がつてくさいます。



痛みは欲しくない、やわこくてきもちいのがいいんだ／  
 ヴイータ

1 >>> 1

痛みは欲しくない、やわこくてきもちいのがいいんだ

2 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

新スレ乙

3 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

乙

4 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

乙くだけどどうしたイツチ

5 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

痛みをくれ

6 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

サイボーグ忍者乙

7 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

ほう、どうしたねイツチ

8 ノーマルは痛みじゃ喜べないんだ

うむ、痛みは欲しくないなあMじゃないし

9 >> 1

最近半月に2〜3回くらいしごかれてる、ロリに

10 ノーマルは痛みじゃ喜べないんだ

ほう

11 ノーマルは痛みじゃ喜べないんだ

ナニをしごくだって!?

12 ノーマルは痛みじゃ喜べないんだ

ロリに…だと…

13 ノーマルは痛みじゃ喜べないんだ

事案発生、110不可避

14 >> 1

トレーニング的な意味だよ!

15 ノーマルは痛みじゃ喜べないんだ

なんだ、そつちか

16 ノーマルは痛みじや喜べないんだ  
 ロリに竹刀でぶっ叩かれるのか…ふう  
 17 ノーマルは痛みじや喜べないんだ  
 通報

18 ノーマルは痛みじや喜べないんだ  
 通報

19 ノーマルは痛みじや喜べないんだ  
 タイホ不可避

20 ノーマルは痛みじや喜べないんだ  
 (・ω・) そんなー

21 ノーマルは痛みじや喜べないんだ  
 しかしロリとはまた…詳細キボンヌ

22 >>1

そういうと思って纏めた

・相手、かなり長めの付き合いの合法ロリ／年齢は知らん  
 ・俺氏、暫く仕事やらで運動できず

・「そんな甘ったれた身体でどうすんだ！」ロリに一喝

・上記の通り半月に何度かしごかれるように

・ぶつちやけ辛い

23 ノーマルは痛みじゃ喜べないんだ

いいじゃん、運動不足解消できて

24 ノーマルは痛みじゃ喜べないんだ

通報されるリスクと健康のリターン、プラスでロリと戯れるのか…有りだな

25 ノーマルは痛みじゃ喜べないんだ

ご褒美じゃないか（憤慨）

26 >>>1

早朝からハーフマラソンします

27 ノーマルは痛みじゃ喜べないんだ

ん？

28 ノーマルは痛みじゃ喜べないんだ

え、朝から？

29 >>>1

後ろから自転車乗ってゲートボールに使うハンマー振り回して追っかけてきます  
ペース落ちたら背中をバシッと気合入れられます

終わったら連続50mダッシュ10回、10mシャトルラン20回

一通りの筋トレ5セットやって終わったらまたハーフマラソン

アツプにかなり時間使うから終わるのは夕方過ぎ

…休暇が潰れるんご

30ノーマルは痛みじや喜べないんだ

31ノーマルは痛みじや喜べないんだ

32ノーマルは痛みじや喜べないんだ

33ノーマルは痛みじや喜べないんだ

34ノーマルは痛みじや喜べないんだ

いやあ、無理っすわ

35ノーマルは痛みじや喜べないんだ

すまんイツチ、ちよつときつくね

36ノーマルは痛みじや喜べないんだ

ご褒美じゃねえ、リアルに拷問だ

37ノーマルは痛みじや喜べないんだ

イツチー陸上選手なん？

38ノーマルは痛みじや喜べないんだ

違う…あれ、違うよね？

39 >>1

たまに水泳だったりも追加するんご

40 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

無理だ

41 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

死ぬ

42 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

PCに触れられないとか発狂するわ！

43 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

たとえロリでも許されない

44 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

誰かハンマーに突っ込めよ！

45 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

シツ、やめとけやめとけ

46 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

いいんだよ、どうせロリの使ってるソフトなやつだ

47 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

俺も走ったらロリが付いてくるのか…？

48 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

閃いた

49 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

通報

50 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

通報

51 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

通報

52 ノーマルは痛みじや喜べないんだ

なんでや！

その後、トレーニングの豆知識が書き込まれたりしていた

◆◆

「はあ、はあ、はあ…つつあー」

ミッドの自然公園で滝のような汗を流す青年。

普段から訓練を欠かしていなかったのだが、最近はむしろデスクに張り付くことが増

えたせいか。

どうにもスタミナ面が弱まっている気がする、あくまで気分的に…イイネ？

「うーし、ちよつとはマシになったな」

「はあ…はあ…ち、ちつとは加減してくれ…」

出世するためには現場だけでは足りない、昇任試験合格のために色々とデスクワークが必要だった。

しかしそれが何処から漏れたのか、目の前の永年口りに嗅ぎつけられたのだ。

八神ヴィータ、赤毛の髪を二本の三つ編みに束ねた少女。

出会った9歳の頃から姿は変わらず、あの頃のまま口りだ。

「えーい、ちくしょう…」

基本の筋トレや走り込みだけならばともかく、魔法戦技のトレーニングも追加されれば流石にバテる。

なのはと同じく教導隊に属する彼女は、本業で得た技術と経験を基にトレーニングメニューを考えてくれた。

それだけでなく休暇や非番の時にはこうして付き合ってくれる…が、内容が濃すぎる。

ガチの鬼トレだ、しかもヴォルケンリッターの一人である鉄槌の騎士は気性も激し



い。

文句を言えばハンマー。

手を抜けばハンマー。

下手に休むとハンマー。

とにかく肉体言語でのみ会話してくるので、貴重な休みを潰されながらも涙を飲んで励むしかないのだ。

「ちと早いが夕飯行くか？ 奢るぜ」

「それならウチに来いよ！ はやても喜ぶしな！」

はやてのご飯はギガウまだぞ！と起伏の存在しない胸を張るヴィータ。

「いや、この前も世話になつたばかりだしなあ……」

「——来ないのか？」

冷たい、無機質な声音。

普段の彼女からは想像も出来ないほど感情のこもらないそれに、思わず顔を上げる。青だ。

光の届かない、海の底を思わせるヴィータの瞳。

波のない、流れのない、冷たい眼。

まるで尻に氷柱をぶつ刺されたかのような悪寒が走る。

「いや、そうじゃなくてだな。俺だって男なんだ、面子がある」

いつもいつも食わせてもらってじゃ情けないのだと、大げさな手振りで伝えた。何故だろうか、こうしなければ何か危険だと本能が叫んだ。

「ふう〜ん」

「でだ、どうせなら今日は俺が奢ろう！俺が八神家を夕飯にご招待だ！」

背中を流れる冷や汗の量がやばくなってきた所で、彼女の眼にいつもの熱が帯びる。

「しようがねえなあ、不味い店だったら承知しねえぞ！」

「そこは安心してくれ、前々からリサーチしてた店なんだ——祝い事とか、そういうのに使える馴染みの店にしようと思って」

そう、例えば彼女とか、恋人とか。

しかし今回ので使えなくなるな、まだ数回しか行っていないのが幸いしたか。

くそう、くそう、また探さなきゃいけねえじゃないか！

この後なのはとフェイトが襲来、給料日前の財布が大ダメージを受けたのは些細な話だ。



汗だくになって地べたに座り込む青年の姿に、ヴィータは内心満足げに頷いていた。

今回は前回よりも密度を上げた内容だったが、青年はそれをクリアしている。

次はこうしようか、それともああしようか、次々と試練を超えていく姿を想像するのはとても楽しい。

青年と出会ってから暫く経つが、彼の訓練を一番長く見てきたのは己だという自負がヴィータにはあった。

戦い方…というよりも、気質はシグナムの方が似通っているのだろう。

しかしこうして地道な訓練に付き合っている時間は、幼馴染のものは以上だと確信している。

思春期を迎えて成長していく幼馴染と過ごすのに気恥ずかしい時期もあったが、ヴィータは変わらない。

それが逆に功を奏したというべきか。

今も変わらぬ距離、変わらぬ時間、変わらない、変わらない、変わらない。

大切な時間。

いつもと同じく、夕飯に誘う。

いつもと同じく、彼は頷く筈——

「いや、この前も世話になったばかりだしなあ…」

どうしてそんなこと言うんだ？

はやてが喜ぶんだ。

はやてが嬉しいんだ。

あたしも嬉しいんだ。

いつも通りなのに、何故そんなこと言うんだ？

何かが急速に冷めていく。

冷たい、冷たい何かが全てを満たしていく。

すると大袈裟に身振り手振りで事情を話す青年。

なるほど、確かに面子は大事だ。

ベルカの騎士として、面子という代物の重要性は理解している。

男というのはそこらへんを気にかけて聞いた覚えもあった。

仕方がない、はやての料理が何十万倍も美味であろうが此処は青年を立ててやろう。

次は何をしようかな。

次はどれほど強くなつてくれるかな。

次は、次は、次は——なあ。

「お前はあたしから離れないよな」

# 注射やだなあ／シャマル

650 >>> 1

注射やだなあ

651 人目のノーマル哲学者

同意

652 人目のノーマル哲学者

上手い人は本当痛くないんだけどな。

653 人目のノーマル哲学者

ドジっ子は萌え要素、それを医学でやられたらたまつたもんじゃねえよ

654 人目のノーマル哲学者

なに風邪でもひいたん？

655 >>> 1

定期的健康診断受けてる、その時に採血されるんだけども…いや、上手いけどなんかね

針を刺されるって怖いやんガクブル

6 5 6 人目のノーマル哲学者

わかる

6 5 7 人目のノーマル哲学者

わかる

6 5 8 人目のノーマル哲学者

わかる

6 5 9 人目のノーマル哲学者

俺点滴ダメ、なんかこう入ってくる感じがいや

6 6 0 人目のノーマル哲学者

知ってるかいし、急性アル中になったら愚息に管差し込まれるんだぜ

6 6 1 人目のノーマル哲学者

ふあ!?

6 6 2 人目のノーマル哲学者

あー聞いたことあるわ

6 6 3 人目のノーマル哲学者

マジかよ…

6 6 4 >> 1

でも美人さんがやってくれるなら…：シャンプーのいい匂いがするんだよなあ！

665 人目のノーマル哲学者

病院行つてくる

666 人目のノーマル哲学者

風邪ひいてくるぜ

667 人目のノーマル哲学者

秘蔵の酒を開ける日が来たようだな…！

668 人目のノーマル哲学者

やめい！

669 人目のノーマル哲学者

やめなさいなwww

670 人目のノーマル哲学者

女医さんとナースどっちがいろいろ？

671 人目のノーマル哲学者

ナース

672 人目のノーマル哲学者

ナース



- 673 人目のノーマル哲学者  
ナース
- 674 人目のノーマル哲学者  
ばつかおめえ女医さんだろ
- 675 人目のノーマル哲学者  
俺も
- 676 人目のノーマル哲学者  
私も
- 677 人目のノーマル哲学者  
おいどんも！
- 678 >>1
- ナースの知り合いは流石にいないなあ
- 679 人目のノーマル哲学者  
女医はいると
- 680 人目のノーマル哲学者  
そうか（青龍刀
- 681 人目のノーマル哲学者

そうか（機関銃

682 人目のノーマル哲学者

そうか（ダイナマイト

683 人目のノーマル哲学者

イツチ、君はアレだろう？

美人さんなんだろう！

いけない診察してるんだろう!?

684 人目のノーマル哲学者

ギルテイ

685 人目のノーマル哲学者

ギルテイ

686 人目のノーマル哲学者

ここで終わってもいい、（リア充を滅ぼすため）ありったけを……

687 >>1

おちつきたまへ

688 人目のノーマル哲学者

すごくおちついた

689 >>1

なんかこう、恋愛対象じゃねえのよ

こうあれよ、近所に住んでるおねーさんのな

690 人目のノーマル哲学者

それ十分対象じゃないですかね

691 人目のノーマル哲学者

むしろ覗き穴から着替えみちやうパターンよね

692 人目のノーマル哲学者

というか下着をドロップしてにやんにやんですよね

693 人目のノーマル哲学者

アウトー

694 人目のノーマル哲学者

アウトー

695 人目のノーマル哲学者

セーフかアウトかといえばアウトです

696 人目のノーマル哲学者

なんでや!?

※その後白衣とハイヒールの関係性で盛り上がっていくのでした。



「はい、今日はこれでおしまい」

医療局の処置室では定期診断を終えた青年が、制服に袖を通していた。

空間ウインドウで記録を保存している女医——ヴォルケンリッターの湖の騎士、シャマル。

彼女は湖面の如き穏やかな笑みを浮かべつつ、問題箇所がないか確認を行っている。

「うん、どこも異常はなしと。だけど無茶しちやダメよ?」

以前、任務中に野生の竜種とかち合つて大怪我をしてからというもの定期的なメデイカルチェックを受けている。

いやあ、あの時は死ぬかと思った。

なのはが撃墜された時とほぼ同時期だったため、病室でお互い動けない体を愚痴ったものだ。

当時は思い出し、口元を引きつらせているとシャマルが正面に立っていた。

椅子に座っている青年の頬を、シャマルの細い指先が伝う。

「また、傷が増えてきてるわ——もう少しだけでいいの、自分を大事にして」  
壊れないように、傷つかないように、慈愛の言葉が投げかけられる。

青年の所属する武装隊は、基本よほどのことがない限り出動することはない。

だが、そのよほどの事が起きれば最前線に出張るのだ。

高位魔導師である青年の体は、否応なしに傷ついでいく。

それが辛いのだと。

それが悲しいのだと。

今も変わらぬ愛情に、こそばゆそうに頬をかく。

「それでも、俺は行くよ」

涙を見るのは好きじゃない。

誰かが悲しむのは好きじゃない。

痛いのも、辛いのも嫌いだけど。

それでも――

「俺が体を張れば、ほんの少しだけでも涙が流れないなら」

それでいいと、胸を張ろう。

「まったく、しようがないわね」

湖の騎士、ヴォルケンリッターの癒し手は。

せめて傷が早く消えるようにと、その技を振るうのだ。

いつか、青年が刃を収めるその日まで

なに？ たまにはいい話で終わろうと思ったのに気になるの？

このままシャマルさんのいいお姉さん的なお話で終わりたくないの？  
好きだねえ、まったく。



「健康状態よし、身体的異常箇所はなし、ストレスによる消耗が見られど軽微」  
与えられたデスクで、シャマルは青年の診断結果に目を通す。

注いだばかりのコーヒーカップからは湯気が登り、傍らには幼い頃の青年と、主であり家族であるはやてと三人で撮った写真が飾られていた。

「シグナムもそうだけど、もう少しみんな落ち着いてもいいじゃないの」  
しようがないなど、困ったように眉をひそめる。

その水草すら魅力的に見えるのだから、美人というのはいいものだ。

恋人、旦那、愛しい人、色々な呼び方、愛し方がある。

しかし何処までいっても、シヤマルにとつて青年は弟……いいや、許されるならば息子のような存在だった。

はやては娘であり、二人は愛しい子供。

腹を痛めて生むことの叶わなかった、大切な、大切な我が子達。

その成長に喜びを。

我が手から離れることに寂しさを。

二人が結ばれることに愛しさを。

それ故に、もう少しだけ青年に穏やかな日々を送らせてもいいではないかと。

早く早く、二人が結ばれますように。

愛子たちの結晶が、愛の象徴が宿りますように。

——それを産み落とす瞬間を、「自分の子宮」にて産み出す瞬間が待ち遠しい。

愛しい息子、愛しい娘、あななせ自分が本当の母親でなかったのか。

片方の母となれば、もう片方を諦めねばならないのか

血縁なき母ゆえに、二人が結ばれる事実がもどかしい。

だかもし、二人の子供——受精卵を受け取り、代理出産を行うとすれば。

息子青年であり、娘はやくでもあるその子を産み落としたならば。

逆説的に二人を産んだということになるのではないか！

あの子達の母になれるのではないか！！

ああ、なんと素晴らしいことだろう！！！！

息子と！

娘と！

その子供の母となれるのだ！！！！

この事を、はやてに伝えてある。

自分の捻くれた思いを、娘に伝えた。

最初は驚きこそすれ、はやては頷いた。

構わないが、彼にも相談しようと。

彼が承諾すれば、自分は構わないと。

「まっただかな、まだかなあ〜」



いつ伝えるかは悩ましい。

もしかしたら断られるかもしれない。

悲しいけれど、それはある種の反抗期と思えばむしろ嬉しいことだ。

話をしよう。

話をしよう。

聞いてくれるまで。

ゆっくりと、話をしよう。

きつとわかってくれる。

あの子はとてもしいい子だから

だから…

「私をお母さんと呼んで？」

# 部下が自分よりも仕事が出来て辛い／ギンガ

593 >>1

部下が自分よりも仕事が出来て辛い

594 ノーマル? YESだね

辛いな

595 ノーマル? YESだね

うわー

596 ノーマル? YESだね

あー

597 ノーマル? YESだね

あるある

598 ノーマル? YESだね

なんかこうねー劣等感がねー

599 ノーマル? YESだね

部下「(こいつこの程度の事も出来ないの?)」

600 ノーマル? YES だね

数年後には上司になつてゐるんですね、わかりたくない

601 ノーマル? YES だね

( ; ; )

602 ノーマル? YES だね

( ; ; )

603 ノーマル? YES だね

( ; ; )

604 >>>1

知り合いの娘さんなんだけどね、もうマジバリバリキャリアウーマンかつてのぐらゐに仕事ができちゃつてね。

むしろ俺のほうが教わりそうな勢いですわ (震え声)

605 ノーマル? YES だね

また 女 か

606 ノーマル? YES だね

あ (察し)

607 ノーマル? YES だね

いつもの

608 ノーマル? YES だね

花束巻いてきますた(百合)

609 ノーマル? YES だね

美人だな(確信)

610 ノーマル? YES だね

そしてゆりーんだ(確信)

611 >>1

やめてえ! マジだったら怖いの!

612 ノーマル? YES だね

おーイツチがトラウマ発症しとるぞ

613 ノーマル? YES だね

ぜつてえー裏だとあのクソ上司って罵ってるぞ、俺は詳しいんだ!

614 ノーマル? YES だね

ハイヒールで踏んでくれないだろうか

615 ノーマル? YES だね

はい現捕

6 1 6 ノーマル？ Y E S だね  
もしもしK察ですか

6 1 7 ノーマル？ Y E S だね

1 1 0 をダイヤルするんだ！

6 1 8 >> 1

というわけでご機嫌取りをしたいのです、上司的な範疇でなにすればいいのですか？

6 1 9 ノーマル？ Y E S だね

残業を強要しない！

6 2 0 ノーマル？ Y E S だね

休み時間に飲み物を奢る！

6 2 1 ノーマル？ Y E S だね

休暇申請にとやかく言わない！

6 2 2 ノーマル？ Y E S だね

性的な目で見ない！

6 2 3 ノーマル？ Y E S だね

率先して仕事をする！

6 2 4 ノーマル？ Y E S だね

イツチ、俺らにそういうの期待しない方がいい

625 ノーマル? YESだね

うん、無理だ

626 ノーマル? YESだね

(ゞノ・▽・、) ムリムリ

627 >>1

ええい、つかえねえーなてめえら!

女相手に何も浮かばないのか、浮かばねえよ俺も使えね!

628 ノーマル? YESだね

d s y n |

629 ノーマル? YESだね

そんなもんさ

630 ノーマル? YESだね

しかしキャリアアウーマン、真面目なできる女

631 ノーマル? YESだね

パンツスーツ

632 ノーマル? YESだね

飲み会の帰り、酔った美人を抱えて

633 ノーマル? YESだね

ぐへへへへへ

634 ノーマル? YESだね

欲望!

635 ノーマル? YESだね

やーねーもう男なんだから

636 ノーマル? YESだね

嫌いですか?

637 ノーマル? YESだね

好きです

638 ノーマル? YESだね

好きです

639 ノーマル? YESだね

もう嘘じゃないっす

640 ノーマル? YESだね

スラー○ダーク!!!

641ノーマル？YESだね

天才ですから

その後はスーツに合う理想の要素について書き込みが続いた



時空管理局武装隊第1課、管理局が「武力」による「鎮圧」が必要であると判断した事態にのみ動く強襲部隊。

腕利き揃いの中、青年は今日も一番早くに出勤した——と思っていた。

「おはようございます、先輩」

青い髪をリボンで纏めた女性、ギンガナカジマが凛々しくモーニングコーヒーを淹れてくれた。

彼女との付き合いはそれほど長いわけではない。

入局当初は地上の捜査官として活動していたのだが、本人は武装隊への配属を強く希望していた。

ご両親が管理局員、父親は陸佐、魔力適正及び、指揮官適正、判断力、処理能力全て優秀。

そんな彼女が本局武装隊に配属されたのは、今から1年ほど前のことであった。

比較的年齢が近いこと、父親であるゲンヤナカジマ三等陸佐の元部下に八神はやて



がいたこと。

その他諸々を考慮して、ギンガは青年の部下となった。

知り合いの娘さんということもあり、青年は気さくに彼女と接した。

ギンガもまた青年を先輩と慕い、関係は良好である……が青年の内心は複雑だった。

「本日のスケジュールと資料を纏めておきました」

「午後からの演習訓練ですが、調子の上がつている局員を私個人の見解で選抜していません」

渡された資料は見やすく正確だ、ここらへんに性格が出るのだろう。

選抜した局員には何名か「いいんじゃないかな」と思っていた顔がある。

そこに盲点だった技能持ちなどが事細かに記されていた。

優秀なのだ、物理的戦闘能力以外でギンガに負けている自信があった（あつちやダメでしように）。

仕事を教えていたのは初期の初期、元より捜査官として薰陶を受けていたギンガは武装隊でもその才能を發揮していた。

気が付けばおんぶにだっこ、むしろ俺が使われているような状況。

ただサインして戦っただけなのではないかと、自己嫌悪に陥る。

さらに青年が出世を目指すのは出会いを求めてという不純な理由。

ひたむきに努力するギンガを見るのが辛い、そんな自分が情けない。

俺ではなく彼女が出世した方がいいのではないか、青年のメンタルにダメージ。

「ありがとうナカジマくん、朝早くからすまない」

待機要員の交代が始まってすぐなため、青年とギンガ以外の人影はなかった。

「先輩だって早いじゃないですか、これくらい平気です」

「ははは、後輩には負けていられないさ」

正直なところ寝ていたいのが本音だが、彼女に失望されると思うのは辛かったのだ。

考えすぎといえばそこまでだが、そこは男の小さなプライドでしかなかった。

むしろ上司が朝早く出ているから彼女に早朝出勤させているのではないかと、逆にダ

メージを受けるくらいである。

所詮は上司と部下、野郎と乙女、どうするのが最適なのか判断に困るのだ。

仲がよい異性はゆりーんか、あるいは年上が多く。

同性の局員たちと違い、気軽に誘うのものはばかれる。

となると、やはり迅速に仕事を片付け負担をかけさせないくらいが精々。

情けなくて涙が出る、なんとか自分がかんがうのか自分が恥ずかしい。

「いかにいかに、朝からブルーになるのはいかに」

頭を振り、ネガティブな思考を振り払う。



「大丈夫か、よく頑張ったな」

満面の笑みと優しく撫でてくれた手から伝わる熱。

不安と恐怖で固まっていた心が解けた。

その後すぐにスバルを探しに行った先輩の後ろ姿忘れることはない、絶対に。なにより、先輩は私を私として初めて見てくれた。

いいや違う、先輩を通して私は私個人を初めて認識したのだ。  
ギンガⅡナカジマは普通の人間ではない。

戦闘機人実験体、「母」と呼ぶ個体の遺伝子より生み出された「人モドキ」。

私は代わりだった。

「娘」の代わり。

「母」の代わり。

「姉」の代わり

子供が生まれなかったナカジマ家での「娘」としての代用品。

「母」が死んだのでその役割を代行する代用品。

血縁の存在しない妹に接するための「姉」の代用品。

だがあの時、あの人の目には「私」がいた。

要救助者として、代用の存在しない「私」がいた。

先輩を通して私は私を認識し、ギンガリナカジマは生誕したのだ。その後はどうしようもなく先輩を知りたかった。

名前を、姿を、知りたいものが多すぎて知恵熱が出るほど。

先輩への恋慕は何かの代用品なのかもしれない。

親愛、憧憬、感謝、挙げればキリがない。

でもそれは間違いじゃないのだ。

「代用品」が「偽物」かと問えば、否である。

元がなんであろうと私は先輩を愛し……いやまだ早い。

まだ先輩にとって私は後輩だ、部下だ、恋を抱いてもらえてない。

お互いに「恋」することで、「愛」し合うのだから。

だから、「まだ」これは「愛」じゃない。

だから、「愛」に近づけるのだ。

「だからさ、君はほんの少し目をつぶってくれるだけでいいんだ」

職務を妨害し、先輩に危害を加えようとする男がいる。

目の前に、私の前に。

「聞き遂げてくれれば出世は思いのままだ、あんな力しか能がない男よりも」

誰だったか、こいつ。

そう、高官の息子、ドラ息子、能力に反比例して自己顕示欲が異常に発達している塵芥。

先輩は素敵な人だ、こんな塵芥と比べることすら愚かしい。

そんな先輩を思う人は多い、こいつはそれが気に入らない。

一般家庭に生まれた才人を蔑む愚物。

要らない、必要ない、先輩にコレは必要ない。

「——分かりました」

「あははは！ 分かっているじゃないか、では早速」

先輩は優しい人だ、だから私が全てを片付ける。

「貴方は必要ない——先輩の道に要らない」

ギンガの瞳は、「金色」に輝いていた。

フアンタジックな夢から覚めたときの虚無感  
は異常／オ  
リヴィエ？

670 >>1

フアンタジックな夢から覚めたときの虚無感  
は異常

671 夢もまたノーマル

あー

672 夢もまたノーマル

わかる

673 夢もまたノーマル

あるよね

674 夢もまたノーマル

夢：無敵のヒーロー

現実：一般ピーポー

675 夢もまたノーマル

そんなもんよね

676 夢もまたノーマル

いっちーどげな夢ー

677 夢もまたノーマル

まーぶる的なヒーローか

678 夢もまたノーマル

呪われた指輪的なファンタジーか

679 夢もまたノーマル

ファンタジックって言ってるし後者だろ

680 >>1

留学と称して隣国へと向かうお姫様と王子様の物語

くくの、護衛役やってた夢だった

681 夢もまたノーマル

ピンポインツ

682 夢もまたノーマル

乙女なゲームかな

683 夢もまたノーマル

脇役主人公ですねわかります



684 >>1

というより護衛視点で映画観てる気分だったなあ

迫り来る野盗をぶちのめし、武闘派な王子と友情を育み、お姫様に仕えつつメイドに  
デレデレしてた

685 夢もまたノーマル

ほげー

686 夢もまたノーマル

ほほう、なんとなくいい感じ？

687 夢もまたノーマル

まあ夢なんてそんなもんか

688 夢もまたノーマル

(これはイツチの願う理想の世界なのではあるまいか)

689 夢もまたノーマル

(シッ、言ってやるなよ)

690 夢もまたノーマル

(リアルがクソだからしょうがないね)

691 >>1

でもなんかどつかで聞いたような感じなのよな

692 夢もまたノーマル

なんとなく聞いた、見たシナリオを夢で再構成したとか

693 夢もまたノーマル

あるある、ホラー映画とか見たあとに寝るとそんな感じで夢に出る

694 夢もまたノーマル

主演：おれ！

695 夢もまたノーマル

助演：おれ！

696 夢もまたノーマル

監督：おれ！

697 夢もまたノーマル

その他全部おれ！

698 夢もまたノーマル

パーフェクトだ！

699 夢もまたノーマル

駄作間違いなし

その後は好きな映画のシチュエーションで盛り上がりました。



最近、奇妙な夢を見ている。

いや内容は王道なファンタジーだ、普段のはSF的なニュアンスなのでファンタジー。

剣と魔法の世界、姫と王子の物語。

奇妙というのは、同じ内容のそれを毎晩続けてみているから。

同じ内容というのも語弊がある、同タイトルのシリーズを続けて見ているのだ。

夢の中では凡庸な騎士、留学のため隣国へと送られる姫君の護衛。

名前は：はて、なんといったか。

どうにも夢を見ているときの事はあやふやだ。

まあ、夢というのは実際そういうものだが。

はてさて、今夜はどうなるのやら：



「姫様！　どうか、どうかご再考を！」

旅支度を済ませた少女——オリヴィエの前に跪く騎士。

「ベルカの安寧を願う姫様の思い、某風情には測りきれぬ苦悩がございましょう！」

しかし、それでも騎士は主君たる少女に願う。

「ゆりかごに乗ればどうなるか、考えるまでもありませんね！」

「物言わぬ人形、ただの兵器となりましょう！」

「どうか、どうか再考くださいませ！ 某は貴女様の剣であり盾！」

「お望みとあれば万の兵を切り捨て、千の軍を薙ぎ払ってみせます！」

騎士の懇願にオリヴィエは首を振った。

「貴方の忠心に助けてもらってばかりでしたね、幼き頃にこのシュトウラへと来てから  
もずっと」

「ですが、私は私の為すべき事を為さねばなりません——今まで、本当にありがとう」

騎士は泣いた。

己の無力に泣いた。

世界の無情さに泣いた。

あの日、雪の降るあの日から。

生まれた時から両腕と母親を亡くし、留学という名の人質として送られた少女。

少女の護衛という名目で付けられた、無名の騎士。

あの方の剣であれば良かった。

あの方の盾であれば良かった。

栄達も、誇りも、名誉も、何もいらなかった。

ただ、彼女が幸せであってくれればそれで：

それから少女は、オリヴィエは、聖王女は、ベルカの戦争を終わらせるべく。

決戦兵器「ゆりかご」の核となった。

その後、騎士はシュトウ王より皇太子の側近としての役を与えられ。

彼と共に自国の防衛がため、奮戦する事となる。

自暴自棄になりかけていた騎士を救ったのは、古馴染の女性であった。

かつての主君の義手を作り、彼女の友でもあった黒髪の麗人。

元より近い仲であったが、日々傷つく騎士を慰めんがためにその身を捧げたのだ。

いつしか二人は惹かれあい、新たな命が芽生えた。

そんなある日のこと——全てが、終わる。

主君であり親友でもあった霸王クラウスの戦死。

封印した「ゆりかご」が突如として暴走、騎士はそれを止めるため単身「ゆりかご」へ

と突入。

そして——この後の夢を、青年は見る事がなかった。

夢などそんなものだ。

夢とは、そんなものだ。



どうして？

どうして？

どうして？

どうして？

どうして貴方とリッドがそこにいるの？

どうして彼の隣に貴女がいるの？

どうして幸せなの？

どうして子供がいるの？

私は産めないのに。

彼と一緒にいれないのに。

なんで？

なんで？

なんで？

私は頑張ったよ？

痛いのも耐えたよ？

貴方が喜んでくれるから、頑張ったんだよ？

自分を捨てたのも、貴方がずっと忘れないでいてくれるから。  
なのに何で？

どうして私の傍にいてくれなかったの？

なんで？

なんで？

なんで？

貴方は私の騎士なのに？

嘘だ。

嘘だ…

こんなの嘘だ！

要らない、貴方が見てくれない世界なんて要らない！

もう 要 ら な い ！

◆◆

燃える。

国が燃える。

人が燃える。

全て燃える。

かつて聖王の領地であった全てが燃える。

怒号。

悲鳴。

絶叫。

「何もかもが、最後は灰となって消えていく。

主の力を失った「ゆりかご」が、地中へと消えていくのだ。

玉座には二人の影。

一人は騎士。

右腕以外の四肢を失いながらも、玉座に座る少女の心臓に剣を突きたて、覆いかぶさ

るように事切れていた。

一人は少女。

心臓を貫かれたというのに穏やかな笑みを浮かべ、騎士の背中に両腕をまわして果てた。

ああ、まるで愛し合っているかのようだ。

ああ、まるで求め合っているかのようだ。

そして「ゆりかご」は姿を消す。

聖王と騎士を玉座に残し、眠りにつく。



聖王家は消えた。

シユトウラも戦火に消えた。

妻は子供と共に放浪の旅に出た。

そしてベルカも消える。

全てが灰に。

全てが炎に。

これはそういう物語。

こういうの達人っていうんだな／ヴィクトーリア

5 4 4 ミツド激戦区

こういうの達人っていうんだな

U R L ~ ~ ~ ~ ~

5 4 5 ミツド激戦区

なにこれすげえ

5 4 6 ミツド激戦区

詳細求む

5 4 7 ミツド激戦区

k w s k

5 4 8 ミツド激戦区

k w s k

5 4 9 ミツド激戦区

k w s k

5 5 0 ミツド激戦区

1 : 金髪幼女が街中で誘拐？されかける

2 : 発見した男性がそばにあった店頭とかに置いてある人形（そこそこ重い）を蹴り飛ばして動きを止める

3 : 同じくそばにあった鉄パイプを槍の如く振り回して圧倒、鎮圧  
相手魔導師のうえに拳銃まで使ったけど普通に勝ってる

5 5 1 ミッド激戦区

最近物騒だな

5 5 2 ミッド激戦区

映画の撮影じゃなくて？

5 5 3 ミッド激戦区

ちよつとニユースになってるよこれ

5 5 4 ミッド激戦区

あ、幼女ガン泣き

5 5 5 ミッド激戦区

鉄パイプの人、局員かね？

5 5 6 ミッド激戦区

ほいね、終わったあとの対応がスムーズだし

5 5 7 ミッド激戦区

魔法だけじゃないんだな、管理局すげえ

5 5 8 ミッド激戦区

いやいやいや、こんなの出来るのごく一部だから！

5 5 9 ミッド激戦区

魔法でなにかしら強化してんじやねこれ

5 6 0 ミッド激戦区

街中で使うのつてすつげー多い書類書かなきやいけないはず

5 6 1 ミッド激戦区

たぶんけど魔法使ってないよ

5 6 2 ミッド激戦区

マジ？

5 6 3 ミッド激戦区

人形蹴り飛ばしからの流れが早すぎる、ここまで早いと発動おつつかね

5 6 4 ミッド激戦区

しつかし勇氣あるよねこのひと、というか判断力？

5 6 5 ミッド激戦区

公務員としてはあまりよろしくない

566 ミツド激戦区

偽善ぶった管理局員らしいな

567 ミツド激戦区

「偽善ぶった管理局員らしいな」キリッ

568 ミツド激戦区

管理局アンチ乙ー

569 ミツド激戦区

悪者捕まって、女の子無事でえがったやんけ

570 ミツド激戦区

ほんと物騒だよなあー

※とある掲示板より抜粋



やあみんな、俺です。

参っちゃうね、よりにもよって首都のど真ん中で誘拐だよ誘拐。

咄嗟にそこら辺にあつたので鎮圧しちゃったけど、俺あんな風に槍とか使えたっけ？

被害者の女の子も保護者の所に無事送り届けたらしいので、万事解決！

とはいかないんだよなあ。

ぶつちやけると謹慎くらいました、だいたい2週間くらい。

えつとねー軽はずみな行動と独断専行、その他諸々あるけれど一番デカいのはあれ。

地上の、首都クラナガンの、「陸」のお膝元で勝手な真似は許さへんでつてことだろうなあ。

「海」、本局が地上の人員根こそぎ吸い上げてるから地上とは仲が悪い。

の○太とジャ○アンみたいに劇場版で親友的なそれじゃない、犬猿の仲、ガチで。

地上の治安が悪かったり局員の消耗が早いのも、本局が人員吸い上げてるからで。

しかも明らかに地上のこと軽んじてるって感じに受け取ってるから最悪。

本局からしても広大な次元世界をカバーするには人員がまるで足りてない。

足りてないなら犯罪者だろうが人材不足の地上だろうがお構いなしに揃える。

だって足りないから、数が、人手が、マンパワーが。

次元戦争が終わって100年…まだ1000年だ、たった1000年程度しかたってない。

たかだか1世紀分の時間しか経ってない、薄氷の上に作られた平和。

それを守るために命懸けで戦う管理局。

たまに偽善者だとか、管理局は上から目線でどうたらとか聞くけど。

そのままにはできないじゃん。

そのままにしてたらもう一回クリーククリークだよ。

管理局無いほうがいいとか言ってる奴、無くなったらお前がどうかしてくれんのかって話。

おっと、脱線してたな。

要するに本局武装隊の俺が、地上で目立ってやったのはよろしくない。

事前に報告だったり許可だったり指示だったりを受けずに、勝手に行動した。

しかも魔導師＋拳銃の凶悪セットに鉄パイプ。

ダメダメダメのペケ三つ。

下手すれば降格、さらにいえば懲戒免職もありえた。

怪我人がなかったのが唯一の救いだったわけで。

いやあ、ほんとすんません。

さあ自宅謹慎だと食料を買い揃え、背中に影しよって帰路につこうと思いきや。

「○○様ですね、お嬢様を救って頂いた件で当家より是非ともお礼をしたいのですが」

なんか執事風のおんちゃんにこやかに出迎えてくれました。

なんでも助けた女の子が、ベルカ系列のいい家な「ダールグリユン」のお嬢様だったわけで。

親父さんが娘命な人らしく、直接礼を言いたいから屋敷に来いやあ！と。

俺に謹慎命じた上司、にこやかにGOサイン。

あ、はい、行きます行きます。



「先生！ っ教授願いますわ！」

頑丈なベルカ系の騎士甲冑を纏う少女、ヴィクトーリアⅡダールグリユン。

青年が助けた女の子。

彼女と向き合う青年は、貸してもらった長柄の模擬槍を構えております。

どうしてこうなったのだろうか。

端的に言えばダールグリユン当主、ヴィクトーリアのパツパに娘の指導を任せられたのです。

え？ 何でそんな事になってるのかって？

それは青年の方が聞きたいだろう。

お礼の言葉やら高いワインやらを振舞われて、すっかり上機嫌になった所を、執事さん含めた武闘派配下共と戦うことになり（なぜ!?)

酒の勢いと酔いから勝ってしまったのだ、しかもそこにあつた武器を全部使って。

刀剣類は元より、槍、槌、無手から弓にエトセトラ。



気づけば満足げに頷く当主。パツパとお目々キラキラなお嬢さん。

翌日から謹慎の期間、ヴィクトリアの屋敷に滞在することになりました。

お嬢さんの家庭教師として、だ。

わけがわからないよ。

まあ酒も飯も美味しいし、家具はすつげえ高いし、至れり尽くせりはまさにこの事。

しかしあれだな、パワータイプの電気属性ってかなり新鮮だわ。



私はその日、運命と出会いましたわ。

失礼、名乗りが遅れました。

ヴィクトリアアールダールグリユン、ダールグリユン家次期当主。

雷帝ダールグリユンの血を（ほんの少し）引く私は、魔法戦技の競技者でもあります

の。

12歳で早くないかと？ そんな事はありません。

先祖伝来の鎧と武技、この身に流れる雷帝の血。

大人にも負けはしない、そう思っていましたわ…しかし、それは慢心でしかなかった。

首都クラナガンで何気なく家の者から離れた、私を含めて誘拐が起きるなど考えても

いませんでした。

突きつけられたナイフの感触、冷たい殺気、それに呑まれ体は硬直する。

自分はこんなにも弱いのか。

自分はこんなにも脆いのか。

ああ、これから先どうなってしまうのだろう。

不安と恐怖に竦む私を抱え、誘拐犯は裏路地へ——飛び込んだ瞬間、目の前を犬を模した看板人形が通り過ぎた。

思わず瞼を瞑ってしまった自分を呪いたい、見ることが出来なかつたのだ。

私を救い出してくれた○○先生の雄姿を。

かつて書物で読んだ古代ベルカの騎士の如く。

物語のまま切り取ったかのように、淑女を救い出したあのお方。

安堵から堰を切ったように泣き出してしまった私を、先生は抱きしめ宥めてくださいました。

今思い出すと淑女として相応しくない行為でしたが、それはそれ。

後日、恩人に礼を言いたいというお父様に便乗して、先生に再会することができました。

○○、管理局員、お酒の席で私が知れたのはほんの少し。

ですがいいのです、これから知っていけばいいのです。

お父様も酔いが回っていたのか、随分と無茶な事を仰いましたわ。

「その腕を見せてもらいたい、ウチの者はどれも腕利きだ」

執事長含め、我が家に仕える使用人達。

戯れといえど負けはしない、そんな自信が伝わってくる彼らを一瞥。

「全員で来い」※表面上素面ですが酔ってます

流石にそれはと異論を挟む使用人たちであったが、当主の方は豪胆実に結構と快諾。

結果、先生は我が家に、ダールグリユンに勝利した。

胸の高鳴りが止まらない。

この人の事をもっと知りたい！

戦ってる姿を見たい！

そんな激情が胸を満たし、私はお父様にお願ひしました。

“このお方に鍛えて頂きたいのです”と。

お父様も少し悪い顔をしています、たぶん政治の話です。

深くは聞きません、興味がないので。

「先生！ 教授願いますわ！」

翌日から早速鍛錬に付き合って頂きました。

本来は「刀」を用いるそうなのですが、先生の槍術は古代ベルカ由来のそれに酷似し

ており。

即ち、私が使うものと同じなのです。

ああ、これは運命でしょう。

ああ、これが運命でなくてなんなのか。

互いに槍を振るう、それだけの時間が夢のようで。

少しでも長く。

少しでも強く。

先生、○○先生。

私を夢中にしたことは、安くありませんわよ。

## そしてまた愛に墮ちる／ヴィクトリア&amp;ジークリンデ

この人ならばと、確証のない期待感が私を動かしていた。

本邸から離れた別邸、最低限の人員しか待機していないそこには——彼女がいる。

「会って頂きたい人がいます…先生、私に付いてきてくれませんか」

執事のエドガーと共に、私はそう願ひ出た。

一人だけでは、言い出せなかった。

もしかしたら、否定して欲しかったのかもしれない。

この従者に、まだ早すぎるのではないかと。

しかしエドガーもまた同じ期待を抱いていた。

目を見ればわかる、漠然とした期待感。

先生からは、それを感じられたから。

だから、先生を、誘った。

今日この日を忘れることはないだろう。

この過ちを、短慮を、忘れてはいけなない。

右の頬、薄皮一枚“削り取られた”ため血が滲んでいる。

拭う暇もなく、獣と化した「彼女」が先生へと襲いかかった。

お願い、お願いします神様。

罰は受けます、何であろうと償いをします。

だから、だから――

「やめてジークウウウウウウーッ！」

私の親友を止めてください。

◆◆

どうしてこうなった。

もう一度言おう、どうしてこうなった。

屋敷に滞在してからちようど一週間。

ご機嫌な朝食を済ませ、書庫で難しい本を読んで頭が良くなったような錯覚を受けて

いた時。

「会って頂きたい人がいます…先生、私に付いてきてくれませんか」

どこか決意したような、覚悟を固めた様子のヴィクトーリアが訪ねてきたのだ。

後ろには執事のエドガーもいる、はてさて何がどうしたのやら。

断る理由もないので、でっかい屋敷の離れへと付いて行く。

うーん、此処もでかい。

俺の借りてるマンションなんて物置だぜ、こいつは。

離れの奥へ踏み込むと、そこには異様な光景が広がっていた。

“壊れている”。

壁も、床も、調度品も、ぬいぐるみと思わしき残骸も。

全て無残に壊されていた。

「ジーク、この方が昨日話した先生よ」

目を凝らせば隅に小さな影が見える。

影は——ヴィクトリアと同じくらいの、少女——が、座り、こんでいる

『僕は、貴方のためなら——』

「ぐっ……」

頭の中をノイズがかきまわす。

不快感は一瞬、立ちくらみなのか足元がふらつく。

すると、いつの間にか座り込んでいた少女が青年の足元まで来ていた。

身長差から少女は自然と見上げる形となり。

二つの視線が重なった——同時に慣れしたんだ感覚が青年の背筋を駆け上る。

“動かねば死ぬぞ”と。

後ろへ倒れこむように上体を反らすと、風切り音が鼓膜を叩いた。

右頬が熱い、神経が痛みを伝える頃には後転して距離をとっていた。  
両腕に手甲を付けた、ジークと呼ばれる少女から。

「ジーク、やめてえ！」

ああまったく。

どうしてこうなった。



『あの人は帰ってこなかった』

うるさい。

『どうして、あの人まで僕から離れていくんだ…』

うるさい……！

『どうして、どうして、どうして』

うるさい、うるさい！！

『どうしてどうしてどうしてどうしてどうしてどうしてどうしてどうしてどうして  
どうしてどうしてどうしてどうしてどうしてどうしてどうしてどうしてどうして  
どうしてどうしてどうしてどうしてどうしてどうしてどうしてどうしてどうして  
テドウシテドウシテドウシテドウシテドウシテドウシテドウシテドウシテドウシ  
ウシテ』



うるさいうるさいうるさい!!!  
知らん!

ウチは知らん!

あの人なんて知らん!

あんたなんて知らん!

黙れ!

いなくなれ!

ウチの中から消えろ!

小さい頃から延々と聞こえる「声」。

狂ったように、いや、狂いながら叫ぶ「声」が、ウチは嫌いだ。

最近はずむことがなく聞こえ続けている。

なんで?

なんで、こんなん、ウチが。

夢で見る騎士。

格好いいと、素敵だと感じた騎士。

【錯覚】だ。

この声のせいで、そう感じてるんだ。

ウチはお前じゃない、お前の愛してる男なんて知らん！  
ウチをお前にするな！

ウチを変えな！

お前じゃない、お前じゃない、お前じゃない！

当り散らすように周りを全て壊す。

受け継いだのは戦闘経験だけの筈なのに。

なんで、ウチだけ、こんな…

「ジーク」

ああ、ヴィクター。

堪忍な、また、壊してしもた。

堪忍、堪忍よ…

「ねえジーク、お屋敷に新しい先生がいらっしやってるの」

「強くて、優しく、きっと先生ならジークの力になってくれると思うから」

「会って、みない？」

先生、先生か。

ウチのコレを矯正しようと何人も指導者が来た。

でも、みんな最後は壊れる。

もういや、誰も壊したくない、傷つけたくないんや。

ヴィクターの優しさに縋る自分が嫌いだ。

壊すことしかできない自分が嫌いだ。

終わりにしよう。

これ以上、誰かを傷つけるならいつそ：

目をまたぎ、ヴィクターが来た。

エドガーと、もう一人。

新しい先生が、この…!?

見上げた時に見たその男は。

あの夢の中で見た騎士の面影を感じる、世界で一番見たくないそれだった。

理性を振り切る衝動が、両腕を覆う防御武装〔鉄腕〕を展開させる。

遠い何処かで、誰かの制止が聞こえたような。

危険を感じた青年へ追い込むように左拳を振り抜く。

スウェーバックで咄嗟に回避され、右頬の薄皮一枚を削る程度で終わってしまった。

コンマ数秒早ければ、忌々しいその顔を碎き壊せたのに。

「待て待て待て、落ち着け、すまない、何かしたか？落ち着いて話を」

死ね。

死ね！

死んでしまえ!!

消えろ！

消えるんや！

理性が追いつく前に。

衝動のままに。

ウチは目の前の男へと飛びかかった。

「うおおおおおおお!!」

血に、細胞に刻まれた戦闘経年。

エレミアの真髄——恐るべき戦闘論理が、12歳の少女を兵器へと変貌させた。

古代ベルカから受け継がれた兵器の連撃を、男は躲し続ける。

偶然ではない、この男も強者だ。

「落ち着け、アレだぞ、謹慎中とはいえ局員への傷害は重いぞ！だから待てて！」

再び顔面狙いの打撃を躲される。

当たらない要因は明白、顔面狙いを見抜かれていること。

そして身長差だ。

だいたい145程度の少女と比べて、青年のは190近い。

人体の最上部に位置する頭部を狙うには、少女のリーチは短すぎる。それなら足から先に壊してやる。

両足を壊して、両腕を壊して、イモムシみたいにしてから壊してやる。そうすればきつと終わる。

そうすれば、きつと声もなくなる。

そうすれば——

表情が抜け落ちた人形の相。

ああまたかと、青年は重い溜息を吐いた。

「来いよ、付き合ってやる」

そうか、死ね。

両手に魔力が集まっていく。

禍々しい破壊の力、触れたもの全てを壊す忌むべき力。

【殲撃】、拳に魔力を付与させることで破壊力を倍増させる魔力付与打撃。鉄腕の爪によつてもたらす破壊は、触れるもの全てを引き裂くのだ。

「ジーク、もうやめなさい！」

堪忍な、ヴィクター。

終わったら、壊してええから。

だから、堪忍——

無情なる殺意が、振り抜かれた

骨を砕く音——しない。

肉を引き裂く音——しない。

皮を千切る音——しない。

——え？

「あつぷ……」

肘？

打たれた？

軌道が逸れて

いつの間に？

「ねええだろぅがあああああ——————ツッ！！！！」

ゴイーン、いい音が出たね。

頭突き？ ヘッドバッド？ 痛い

涙目になって蹲る、痛い。

痛い。

「この馬鹿たれ！ あんなん食らつたら死ぬだろうが!? 死んだら痛いじゃすまねえんだぞ?!」

頬を引つ張られる、痛い。

「う、うるさい！ お前が悪いんや、お前が、いつもいつも！ 頭の中でうるさいんや！」

「はあ？」

「もうやだ、やだあ！ 何で、ウチ頼んでない！ 勝手に、ひぐ、えぐ」

うわああああああああん!!!

◆◆

いつだったか、カリムから聞いたことがある。

『古いベルカの家系は技術や記憶の伝承を行う場合があります、そのせいでトラブルを招くことがあるの』

またベルカか！？

ほんつとに、本当に要らん事かしねえなあおい!?

先程までの狂騒はなんだったのか、訳が分からず泣き喚く少女…ジーク? だったか。胸をなで下ろす二人を一瞥、どうやらこれは想定外だったらしい。

「はあ~~~~~」

なんか、どっと疲れた。

これはアレだ、闇の書事件が終わったときと似てる疲労感。

「——なんでこうなったのか、俺にはわからん」

「頭の中ぐちゃぐちゃになって、もう何もかも分からんで、だから暴れるしかなかった」

ああ、そつくりだ。

似てるよ、お前に。

あの日、小高い丘で、雪の中へ消えていった融合騎。

伸ばした手は、届かなかった。

この子も、そうなるのか？

…嫌、だな。

それは、よろしくない。

「なあ、名前教えてくれ」

「ひつぐ、じ、じーぐ、りん、ふぐ、で」

「ジジグリンフグデ？」

「ジークリンデ様です」

そうか、エドガーありがとう。

「ジークリンデ？ まあ俺もジークと呼んばせてもらうが…うん」

すまんかったと、赤くなった額に手を添え。



「知らん奴からあーだこーだ言われて、ガタガタ騒がれてるもんだわなあ」  
「だからよ、暴れたくなったら俺んどこ来い」

死なない程度には、付き合えるだろう。

不満や文句くらいなら、付き合えるだろう。

その程度しか、してやれんけど。

「根つこの所なんとかするのは、俺には無理だ……でもまあ、知り合いの知り合いに出来るやつがいるかもしれん」

それくらいなら、付き合ってやろう。

その程度なら、付き合ってやろう。

貧乏くじは慣れてる方だから。

「だからさ、俺のことはどんだけ嫌ってもいいからさ」

「友達を、泣かせないでやってくれ」

ジークに駆け寄るヴィクトリア。

泣き続ける親友につられて、彼女も泣いてしまっている。

もう少しスマートなやり方があったのかもしれないが。

「俺にしては上等な方か」

あーいてえ。

暫くして…

「や—————だ—————!!!」

「いやですわあ—————!!!」

それからまた一週間、比較的落ち着いたジークにも稽古を付けることになり。手間は倍増、疲労は10倍、生傷が増えた気がする。

ようやく職場復帰だと荷物を纏めていたら、捕まってしまった。頬を膨らませて腰にしがみつくとジークリンデ。

コートの端を握り締めて抗議するヴィクトーリア。

「いやや！ 先生はウチの先生やもん！」

「まだまだ教わりたいのです、先生は私とジークを見捨てるのですか!？」

「いやその、ねえ、俺も公務員だしさあ」

「管理局ブラックゆーやん！ 辞めたほうがええやん！」

「名案ですわジーク！ お金は私たちが稼ぎますから」

「ロリのヒモとか死にたくなるんですが…」

想像しただけで死ぬ、主に社会的に。

「休暇ができたなら様子見に来るから」

不満たらたらではあるが、納得はしたらしい。

二人をなんとか引き剥がし、それぞれの肩へと手を置く。「俺が教えられることなんて大したことじゃないが、いつだって応援してる。頑張れ」

中々に決まった挨拶だと自賛する青年は気づいていなかった。いや、青年が気づくはずがなかった。

二人の目の奥に、ゆらりと燃える何かがあることを。



先生、ウチな。

先生が助けてくれたから、今おるんよ？

先生が壊れんかったから、今おるんよ？

声も聞こえなくなった、せやけど今ならわかる。

教えてくれたんや、この人なら壊れへんって。

先生なら、ずっとずっと一緒にいてくれるんやって。

今までいろんなもの壊してたのも、きつと先生に見つけてもらえるための目印やったんね。

先生がいっぱい教えてくれたから。

今度は、先生にお返しするんよ。

だからもつともつと強くなって。

お金もいっぱい稼いで。

だから、先生。

もつともつと、教えて欲しいんよ。

全部全部、先生の全部。

知りたいから。



もう、ジークにも困ったものですわ。

あの時からずーっと先生にべったり。

私が、最初ですのに。

私が、一番弟子なのに。

…むふん、いいでしょう。

ジークと私の仲ですもの、許してあげる。

しかし気になって調べてみたら、管理局も手を広げすぎ。

そんなのだから先生が大変なのに、まったく。

これはいちはやく先生を指導者として誘致しなくてはいけませんわ。

いえ、どうせならば先生も選手として活躍なされてはどうか。

我ながら素晴らしい思いつき…だけれど、先生が領かないようでは意味がない。

無理矢理なんて絶対にダメ、まずは競技に興味を抱いてもらうのが先決。栄光の舞台で師弟対決、これほどに誉れ高いことはない！

ねえ、先生。

どうか、より高き場所へとお飛びください。

その為ならば、私の全てをお使いください。

ああ、きつと美しいだろう。

輝く背中を、その足跡を追い続けます。

私だけの、最高の英雄。

幸せな奴とか見たくない／ティアナ

775 >>1

幸せな奴とか見たくない

776 ノーマルよ大志を抱け

然り

777 ノーマルよ大志を抱け

然り

778 ノーマルよ大志を抱け

然りイイイイイ!

779 ノーマルよ大志を抱け

征○王乙

780 ノーマルよ大志を抱け

女体を征服したい

781 ノーマルよ大志を抱け

制服プレイ、いいですよ

782 ノーマルよ大志を抱け

恥ずかしながら、○○しちゃいまして

783 ノーマルよ大志を抱け

おいしいおいしい

784 ノーマルよ大志を抱け

いつちーがテンション低いのはいつものんだけど

785 ノーマルよ大志を抱け

おせーておせーて

786 >>>1

同僚と一緒に合コンいってー

人数が男奇数、女偶数、そこから導き出される答えは！

787 ノーマルよ大志を抱け

はいぼっちー

788 ノーマルよ大志を抱け

ぼっち確定

789 ノーマルよ大志を抱け

うわぁ

790 ノーマルよ大志を抱け

うわぁ

791 ノーマルよ大志を抱け

うわぁ

792 ノーマルよ大志を抱け

待て待て、男が多いと決まったわけでは…

793 ノーマルよ大志を抱け

イッチーの文面見ろよ、答えは出てるぜ…

794 >>1

くっそう、顔か、顔なのか！

795 ノーマルよ大志を抱け

気にするなイッチー

796 ノーマルよ大志を抱け

そういう事もあるよ

797 ノーマルよ大志を抱け

幹事が悪いよ幹事がー

798 ノーマルよ大志を抱け



普通は男女均等でしょー！

799 ノーマルよ大志を抱け

彼氏いるのに出るのもいるから

800 ノーマルよ大志を抱け

ここは古典的にお見合いでいこうぜ

801 ノーマルよ大志を抱け

そう、男同士でお見合いすればいいのよ！

802 ノーマルよ大志を抱け

そいつを連れて行け！

803 ノーマルよ大志を抱け

ええい、腐ったご婦人はお断りだ！

804 ノーマルよ大志を抱け

さて、腐男子の可能性もあるぞ

805 ノーマルよ大志を抱け

どちらにしろ発酵が過ぎたのはいらぬう！

806 ノーマルよ大志を抱け

さてイツチーそろそろ吐こうか

807 ノーマルよ大志を抱け

イツチーがそのまま終わるわけがない

808 ノーマルよ大志を抱け

いるんだろお、女の子がさあ！

809 >>>1

わかんね

810 ノーマルよ大志を抱け

(あ、画面の向こうで冷や汗ながしてんな)

811 ノーマルよ大志を抱け

つギロチン台

812 ノーマルよ大志を抱け

つアラリスの牡牛

813 ノーマルよ大志を抱け

つ鉄の処女

814 >>>1

まってまって、本気で記憶ないの！

いやね、自棄酒やってからの記憶があやふやなの！

815 ノーマルよ大志を抱け

ほんと〜？

816 ノーマルよ大志を抱け

ほんと〜？

817 ノーマルよ大志を抱け

自棄酒はあかん

818 ノーマルよ大志を抱け

若い時はいいんだよ（遠い目

819 ノーマルよ大志を抱け

健康診断：診療を受けろ：肝臓、う頭が

820 ノーマルよ大志を抱け

気づいたら手遅れなんだぜ（悲しい瞳

821 ノーマルよ大志を抱け

内臓は大事にしなきゃだめだぞ（キラツ☆

822 ノーマルよ大志を抱け

（；；；；）

823 ノーマルよ大志を抱け

( ; ; ω ; ; )

824 ノーマルよ大志を抱け

( ; ; ω ; ; )

825 ノーマルよ大志を抱け

( ; ; ω ; ; )

826 ノーマルよ大志を抱け

( ; ; ω ; ; )

827 >>>1

( ; ; ω ; ; )

その後は付け合せのツマミについて議論が白熱した



「ちくしょうめえらばつきやろおー!」

缶ビールを片手にべろんべろんに酔っ払う青年。

彼がクラナガンの危機を救った機動六課の一人と言ったら誰が信じるだろうか。

普段からここまで酔っ払うことはない。

端的に言えば、合コンに失敗したのだ。

嫌な予感はしていた。

幹事のミスで人数が合わず。

序盤から「何故か」特定の相手との会話が弾み  
中盤でもうほぼ相手が確定してしまった。

結果、最後には幹事を押しにかけて『俺が払うぜ』と言って解散。

「顔か…顔なのか…くそう、イケメン爆発しろ…」

機動六課が解散してから、以前借りていたマンションへ戻り、帰るとやっぱり一人ぼっち。

何故か父親代わりをしていたが、今となつてはいい思い出。

いい、思い出※百合つぷる第一話の回想シーンはいりまーす

「ぐす…やめよう、虚しい」

公園のベンチで缶ビールとフライドチキンを頬張る負け犬がそこにいた。

…やめよつかな、局員。

趣味の時間なんてないし、たまに取れる休暇もどこぞの赤毛ロリにしごかれるか、弟子らの指導で潰れる。

モテる男は時間を有効に使うって本で読んだけど、そもそも時間がほとんどないという話で。

睡眠不足になりながらも料理に励み／イマドキ男子は料理もお上手（？3000）

頭から煙を出しつつ雑学を収め／意外な所で知識を披露（?3300）

野外キャンプでもいち早く行動し／武装隊レンジャー訓練（?根性）

それでも尚、俺には足りないのか：

あの日、魔法と出会い、SF的な冒険譚を繰り広げ。

気が付けば、俺も大人になってしまったなあ（シンミリ

寝ちやおうかな、春先だけど風邪ひくかも。

でもまあ、いいか、入院して局員やめよう。

うへへへへ、いいかもなあ、うん、もうブラックは嫌だ。

というわけで、おやすみなさあ〜い。

「何をやってるんですか、こんな所で」

聞き覚えのある声がある、なんかこう「嘘だあ！」と狂気的なセリフを吐きそうな。

目を開けるとそこにいたのは髪を下ろしたティアナⅡランスターだった。

「ティアナか、久しぶり」

「ええ、かつての上司がこんな所で一人酒やってるなんて思いもしませんでしたけど」

効果は抜群だ！

「一人酒はまだしも、公園のベンチでリストラされたおじさんのような振る舞い」

クリティカル!!

「機動六課、武装隊、いえ管理局の英雄がこれだと余計に モテませんよ」  
フェイタリティ!!!

「と、ここまでにキツク言ってしまったので何処かいいお店で飲み直しなんてどうでしょう」

へんじがない。ただの しかばね のようだ

「どうにも一人で飲む気分でもないので、よろしければお付き合いますか」  
「行く」

いつの間にか微笑の似合う女性になったものだ。

行くか、うん、飲み直そう！

明日も頑張るぞ〜！



「ぐへへへへ、のめるぞお〜い」

「はいはい分かりましたから降りてください」

タクシー代を払い、この人のマンションの前に降りる。

青年は元々かなり飲んでたからか、赤いにやげづらで肩を借りている始末であった。

「いよつと」

弛緩している体が重い、肩を貸しているというより担いでいる気分だ。

筋肉質な分、こうなると運ぶのは一苦勞だ。

「こういう時、魔法って便利だわ」

本来ならば使つてはいけないのだが、局員権限ということだ。

カード型の施錠を外すと、ひとまずソファの上に寝かせることにした。

上着を脱がし、ハンガーにかけると目につくものは多い。

「竹刀に釣竿、バスケットボール、流行りの調理器具に、書道セット？ あ、茶道の道具もある」

多趣味、というかなんというか。

隠し本棚にはモテるための秘訣とかいう怪しげなタイトルがズラリ。

頭が痛くなってきた：

この人は、もう。

眠りこける、青年の頬に触れるような口づけ。

ああまったたく、厄介な人に惚れ込んでしまった。

『俺は射撃は下手くそだし、幻術なんぞできんし、そこまで頭が回るわけじゃない』

『出来るといえば、先頭に立って切り込むだけの鉄砲玉さ』

『お前にしか出来ない役目がある、仲間が出来ない事をお前がやるんだ』

『それがチームつてもんさ』



落ち込む私にそう語りかけた時、落とされたと確信した。  
我ながらチヨロイ。

「はい、お水ですからちよつとずつ飲んでくださいね」

冷蔵庫のミネラルウォーターのペットボトルを手渡し、体を起こさせて少しずつ飲ませる。

ふらつきながらトイレを済ませ、寝室で寝かせつけた。

「ちよつとやり過ぎたかしら…」

今回の合コンの仕込みをやったのは私だ。

なのはさん達のように幼馴染でもなければ、ギンガさんのように副官というわけでもない。

そうなるに必要なのは仲間だ。

私は積極的に交友関係を広め、その中から今回の合コンが耳に入った。

これだけ相手がいるのに合コンか…少々頭にきたので、色々と手を回して彼がハブラれるように調整した。

まさかここまで落ち込むとは予想外であつたが、偶然を装って誘い出す。

酔いが深すぎたからか、都合が良すぎるとは思わなかつたのだろう。

いや、素面でも思わないだろうな。

そこらへんの脇が甘いのだ、人が良すぎる。

とりあえず洗濯を済ませ、皺にならないよう服をたたみ。

シャワーを浴びる。

そこ、言っておくけど同意がないなら行為にまで発展させないわよ。

無理矢理はダメ、絶対。

だから裸でベッドに潜り込む。

彼も上は全て脱がせたから素肌がふれあい、心地よい熱と匂いに包まれていく。

同時に体をこすり合わせ、自分の匂いを残しておくのだ。

征服感と独占感が心地よい———だけど、右腕を見て、悲しくなる。

一見して普通の腕だが、義手だ。

魔力によって操作できる高性能義手、ゆりかご事件で彼は右腕の肘から先を失った。

私たちが脱出するまでの時間を稼ぐために、暴走した自立兵器ガジェットドローン  
足止めした。

ごめんなさい、痛かったよね。

この人の右腕はギンガさんが担うだろう、彼女ならば当然だとその役を全うする。

なら私が背中を支える、前に征くこの人の背中を見続ける。

だから振り向かないで———ずっと背中を見るから。

だから惑わないで——前だけを見ていて欲しいから。  
その為なら、何だつて出来るから。

テイアナ||ランスター、青年の起床する2時間前に起きると朝食の準備を済ませて意気揚々と出勤。

彼女は暫く絶好調だったそう。

ちなみに青年は二日酔いになりながら、何故か作られていたサンドイッチとスープを胃に放り込み出勤。

何故か、二日酔い以外では調子が上がっていた。

なぜだ？

# 作っても作っても足りねえ…／スバル

202 >>1

作っても作っても足りねえ…

【山盛りのシュークリームが空になった写真】

203 俺はノーマル王になる男だ！

今度はシュークリームか。

204 俺はノーマル王になる男だ！

外はサクサク、トロリとしたカスタードが美味そう

205 俺はノーマル王になる男だ！

生クリームは認めない

206 俺はノーマル王になる男だ！

なんでやあ！美味しいやろ！

207 俺はノーマル王になる男だ！

Wの俺に隙はなかった。

208 俺はノーマル王になる男だ！

なんかんやでイッチー器用だよね

209俺はノーマル王になる男だ！

気づいたら調理の腕がグレードアップしている件について

210 >>1

シユークリームは、まだ遠い：

しっかし、どいつもこいつも食い意地張りすぎい！俺の分ねえし！

211俺はノーマル王になる男だ！

戦争やでえ

212俺はノーマル王になる男だ！

最後の一個、これは逃せない

213俺はノーマル王になる男だ！

でも食い切ってくれると嬉しい

214俺はノーマル王になる男だ！

作つたのを一人で食う寂しさよ

215俺はノーマル王になる男だ！

彼女ほしいなー

216俺はノーマル王になる男だ！

諦めろん

217俺はノーマル王になる男だ！

所詮は喪男、限界がある

218 >>1

だが諦めん、諦めんど、諦められないのお！

219俺はノーマル王になる男だ！

応！

220俺はノーマル王になる男だ！

応！！

221俺はノーマル王になる男だ！

応!!!

222俺はノーマル王になる男だ！

(それだけ熱意があるなら…)

223俺はノーマル王になる男だ！

(やめてやれ、今は別の女に目を向けさせてやるんだ)

224俺はノーマル王になる男だ！

(百合はきついっすわ…)

225俺はノーマル王になる男だ！

(Lチキください)

226俺はノーマル王になる男だ！

(ファミチキじゃないのかよ!?)

その後、男一人でスイーツ店に入る心構えについて議論が続いた。



「ス~~~~バ~~~~ル~~~~!!!!」

「えへへ、ごちそうさまでしたあー！」

「ばつきやろおー！」

はい俺です、今日は聖王教会にお見舞いのため来ました。

途中でギンガの妹、スバルとぼったり会ってしまったので一緒に行くことに。

いつも世話になってるので、翠屋から技を盗んだシュークリームを持参。

教会の仕事に慣れてきたナンバーズ達とお茶会をする事になった

しかし、所用(小便)を済ませたら自分の分は残っておらず。

満面の笑みで追加を飲み込んだスバルのほっぺたを引っ張っているのだ。

「いいいいい~~~~ほうほうはんふあ~~~~い」

「作ってきた奴は食わなくていいとか思ってたんじゃないねえー！」

あと床に潜ろうとしてる6番目、尻をひっぱたくぞ！

まったくまったく、姉と同じで食い意地が張つてやがる。

「…ちよつと顔見てくるわ」

「あ、私もー」

スバルと共に彼女が眠る一室へと向かう。

イクスヴェリア、古代ベルカの王の一人。

【冥王】と称された幼い子供は、いつ覚めるかも分からない眠りにいつている。

彼女の持つ力的一端が騒動を引き起こし、青年もまたそれに関わってしまった。

「久しぶりーイクス、今日も気持ちのいい天気だよー」

眠るイクスへと語りかけるスバル。

この前何を食べた、こんな事があった、楽しそうに、眠る少女へと語っていくのだ。

壁に背をあずけ、眺めている。

正直なところ、俺という人間はツイている方だと思う。

こんな仕事やってれば不幸な話には困らない。

右腕だけで済んだ事もあり、死なせずに済めたケースも幾らかある。

これ以上を望むのは、罰が当たるかもしれない。

「ほら、一緒にイクスに報告しましょうよー」



そう言って、スバルは「左手」を掴むのだ。

「右手」は掴まない……というよりも、掴めない。

ゆりかごから逃げるスバルたちの時間稼ぎのため、とうかよく分からん幽霊に奪われた「右手」。

気にすることはないのに、こいつはいつもこうしてる。

「よおイクス、すまん……あー事務仕事ばかりだな」

苦手な事をやるのが増えた。

ただ刀を振り回すだけ、そう生きることが出来なくなっていた。

いや、それをしなくちゃいけない役目を受けたのだ。

「早く起きろよ、俺が爺さんになったら此処の階段が辛いからな」

言いたいことは言った、さあ帰るか。

また、「左手」を掴まれる。

「ちよつと、寄つてきませんか？」



まただ、また私は理由を付けている。

スバルⅡナカジマは、晴れることのない自己嫌悪に陥っていた。

この人の「左手」を取って、人気のないベランダで夕日を眺める。

気づけば日も傾き始めていたのか、時間が過ぎるのが早い。

「いい眺めだなおい、しかし夕日を見てるとカレーを食いたくなるな」  
チキンがいいか、ビーフがいいか、トッピングは何がいい？

他愛のない話が好きだ。

気楽で、気軽な感じが良かった。

貴方はきつと、私が「右手」の欠損について気にしていると思うんだろう。  
違う、違うんだ。

私はそれを「理由」にしている。

貴方に会うための、傍にいるための「理由」。

イクスへのお見舞いを「理由」に。

怪我の心配を「理由」に。

こうして、触れ合うための、「理由」にしている。

自分が嫌いだ。

こんな自分が嫌いだ。

自分のために、大事な人たちを「理由」にする自分が嫌いだ。

それでも、私はこの人から離れたくないのだ。

燃え盛る火の海、連れ出してくれた二つの星。

恋人なのかなと思った。

お似合いだなんて、そう思った。

『ギンガが連れて行かれたのはお前のミスだ、なにより真つ先に逃げるべきだった』

でも…

『お前が死んだら悲しいだろうが、俺も泣くぞ』

でも…

『いくぞスバル、切り込み役の底力を見せてやろうぜ』

気が付けば、惹かれていた。

離れたくないと、そう思ってしまう。

でも、でも、でも。

私はなのはさんが好きだ、ティアが好きだ、ギン姉が好きだ。

みんなが好きだから、独占したいけど、したくない。

気持ちを出したら、きつと今の時間は壊れてしまう。

だから、このままがいい。

「左手」に触れて、寄りかかる。

動悸が、強くなった？

女の子として、見てくれてるのかな？

このままがいいのに、違う自分が語りかける。  
特別になりたい。

この人の、ただ一つになりたい。

このままがいいのに、そう願ってしまおう。

壊れてしまおうだ。

壊れて、しまいたいな。

そうしたら、悩まなくていいのに。

貴方が壊してくれたら。

全部、貴方のために使えるのに。

私は、スバルⅡナカジマ。

今日もまた、私は「理由」を付けて寄り添うのだ。

同棲シミュレーションプログラム／なのは&ヴィヴィオ

?

652 いぎゆけノーマル快男児

【悲報?】高町なのは氏に男の影あり【朗報?】

【男女が寄り添って歩く後ろ姿／目線に影あり】

653 いぎゆけノーマル快男児

キタ——(。▽。)—!!

654 いぎゆけノーマル快男児

キタ——(。▽。)—!!

655 いぎゆけノーマル快男児

キタ——(。▽。)—!!

656 いぎゆけノーマル快男児

ウワアアアアア、(。▽。)—ノアアアアアン!

657 いぎゆけノーマル快男児

ウワアアアアア、（、口、）ノアアアアアン！

6 5 8 いざゆけノーマル快男児

ウワアアアアア、（、口、）ノアアアアアン！

6 5 9 いざゆけノーマル快男児

嘘だああー！！！！

6 6 0 いざゆけノーマル快男児

嘘だああー！！！！

6 6 1 いざゆけノーマル快男児

おめでとう

6 6 2 いざゆけノーマル快男児

おめでとう

6 6 3 いざゆけノーマル快男児

おめでとう

6 6 4 いざゆけノーマル快男児

この差である

6 6 5 いざゆけノーマル快男児

隣の誰だー!?

6 6 6 いざゆけノーマル快男児  
ラストサムライだ

6 6 7 いざゆけノーマル快男児

あ、知名度じゃダンチだけど有名な人だ

6 6 8 いざゆけノーマル快男児

このまえ公開演習で見た！

6 6 9 いざゆけノーマル快男児

リアル無双キャラじゃんかあー！

6 7 0 いざゆけノーマル快男児

なんだこの二人こういう仲間なんか

6 7 1 いざゆけノーマル快男児

全員武器をもてい！

6 7 2 いざゆけノーマル快男児

つ 刺叉

6 7 3 いざゆけノーマル快男児

つ 大槌

6 7 4 いざゆけノーマル快男児

つ 太刀

675 いざゆけノーマル快男児

つ 双剣

676 いざゆけノーマル快男児

モン○ンかよwww

677 いざゆけノーマル快男児

やめーやwww

678 いざゆけノーマル快男児

祝福しろ

679 いざゆけノーマル快男児

これで子供がいたりしたら…

680 いざゆけノーマル快男児

はは、まさか

681 いざゆけノーマル快男児

流石に(バノ・▽・) ナイナイ

682 いざゆけノーマル快男児

つ【子供を肩車する男の背中】



6 8 3 いざゆけノーマル快男児  
 6 8 4 いざゆけノーマル快男児  
 6 8 5 いざゆけノーマル快男児  
 6 8 6 いざゆけノーマル快男児  
 6 8 7 いざゆけノーマル快男児  
 6 8 8 いざゆけノーマル快男児  
 6 8 9 いざゆけノーマル快男児  
 6 9 0 いざゆけノーマル快男児  
 6 9 1 いざゆけノーマル快男児  
 6 9 2 いざゆけノーマル快男児  
 6 9 3 いざゆけノーマル快男児  
 沈黙の多いいんたーねっつです

◆◆◆その後、掲示板が瞬く間に埋まっていく瞬間であった

◆◆◆「同棲シミュレーションプログラム〜?」

どっかおかしいと思っていたが、遂に秩序崩壊したか管理局。

辞めなきや（使命感）

仕事終わりに洒落たバーへ連れてこられたと思えば、クロノが渡してきたのは資料の束。

また面倒な事やらせられるのかと中身に目を通すと書かれていたのがこれ。

【同棲シミュレーションプログラム】

「局員は日々激務に追われている」「追わせてる張本人が言う台詞か」「僕だって帰れてないからイーブンだ」

「続けるぞ、そんな状況なものだから出会いがない、長続きがしないと不満が出ている」  
「今すぐに改善できるわけがないし、ひとまず局員同士での出会いを推奨することでお茶を濁すそうだ」

「馬鹿じゃねえの?」

「僕もそう思う」

クロノは溜息。

「それでだ、ある程度のデータというか実験例は必要だとかで未婚の、適齢な局員同士による同棲実験を行うことにした」

「馬鹿じゃねえの?」

「僕もそう思う」

二人で溜息。

「で、なんで俺よ…」

「彼女がほしいんだろ？」

「いや、まあ、そりゃあ〜〜」

「要らないのか？」

「欲しい」

即答である。

「結婚はいいぞ、家族のためなら人一倍頑張れる」

「ほお」

既婚者の一言は無碍にできないだろう。

ふむほむほむ。

「相手は？」

「なのはだ」

「帰る」

「待て」

ふざけんじゃねえ、俺のトラウマを掘り返すつもりか!?

クソ、こんな所にいられるか俺は合コンリベンジに行くぞ!

「まあ待て、お前が何でそんなに拒絶するのは知らない」

「だが、こういう時に必要なのは気心が知れた関係というものだろう?」

∴

「実名が公表されることはないし、たった一週間だ、早いものだ」

∴

「ならフェイトに「なのはさんでお願いしやす」よろしい、では頼むツチ」

舌打ちしたな!?

舌打ちしただろ!?

フアー……ツク!!!

それから数日後。

一週間分の着替えなどを用意して、青年は高町家（verミッド）の前へとやってきたのだ。

来てしまった∴

来てしまったのだ∴

魔王の居城、幼馴染の住む家に。

「ルームシェアならぬシェアハウスか、いい家建てたなあ」

野郎の独り身と比べてよさげな外観。

これから住む、いや間借りする家。

インターフォンを押そうとして、躊躇う。

今更辞めるといふわけにはいかんのだろうか。

むしろ今すぐ辞表を叩きつけてスローライフに勤しむべきではないだろうか。よしそうしようと思つて背を向けると、扉が開く音。

「おかえり〜さあさあ入つて入つて」

エプロン姿のなのが青年の腕を引き、そのまま中へと。

ガチャン。

扉の閉まる音が、やけに大きく聞こえた。

夕飯の準備をしていたらしい、焼く前のグラタンが三人分並べられている。

ん？ 三人？

「飯は外で食つてくればいいのか？」

「これから焼くけど」

「いやだつて三人分しか……」

「フエイトちゃんは暫く出張でいないんだ」

あ、然様で。

「手伝う、何をすればいい？ そこそこ出来るようにはなつたんだ」

「ん〜それならサラダを作ってもらつていいかな」

予備のエプロンを借りて、キッチンで二人は料理を行っていく。

そういえば、子供の頃にも同じくキッチンで並んでいたな。

ホットケーキを作ろうとして大失敗。

よくわからん硬い物体を、二人して笑いながら齧っていた。

「懐かしいね」

「そうだな」

野菜を一口大に切っていく、ドレッシングはマスタードとオリーブオイル、りんご酢と塩コショウを少々。

いつも、お前の手を引いていた。

いつも、お前はついて来てくれた。

ああ、そうか。

俺はずっと、この時間が欲しかったんだ。

それを、忘れたくて。

「あのさ」

「ん？」

「私、同性愛者じゃないよ」

「ん、ああ、そうだな」

「信じてない」

「そんな事はない」

「本当？」

「ああ」

「やっぱり信じてない」

「…いや、俺は——」

近い。

いや、もう距離もなくて。

影が、重なる。

息を止めてた。

何秒経ったのか、頬を赤く染めて。

ゆっくり、離れた。

「それでも、信じない？」

「あばばばばばばばばばば!?!」

「誰にでも、するわけないよ？」

「君にだから、したいんだよ？」

胸に感じる、優しい熱。

胸元に顔を埋められ、頭は真っ白。

継るようで、縛るようで、震える肩が、小さくて。

「——本当の、家族になろうよ」

まづいまずい、これはまづいですよ。

止まらなーい、止まりませーん、もう無理でーす！

彼女の服に、手をかけ——

「ただいまあー！」

「お、おかえり…!!」

義理の娘、ヴィヴィオの帰宅で飛び上がった。

危なかった、危なかった！

本番おっぱじめるとこだったわあ!!!

チーン、オープンでグラタンができましたー

「…」

「食べるか…」

「にやはは、そうだね」

「??」

「ヴィヴィオ〜？ 今日からパパも一緒だよー」



「うん！ パパは私の隣だよ！」

座って座ってと、椅子を引かれて。

一週間の、家族体験が始まる。



「ん〜どうしよつかなあ〜」

まだ早い、パパとママが本当の夫婦になるのはまだ早い。

「んあ〜フェイトママはちよ〜つとこじらせてるから、パパが落としてくれるとして問題は八神司令かなあ」

ギンガさん含め、スバルさん、ティアナさんはOK。

ナカジマ家、及び教会のナンバーズもいけるはず。

パパのお弟子さんもたぶん堕ちてるから、接触が必要。

フェイトママはうん、いつかい屈服したらワンちゃんだから調整次第でいける。

やはり問題なのは八神司令だ、彼女と守護騎士たちをなんとかしなければキツイ。自分たちのテリトリーで完結する人たちだから、どうしたものか。

教会を経由して牽制しつつ、徐々に溝を埋めてくべきかな。

うんうん、パパならみんなお腹おつきくさせて大家族化できるってうん。

私はママが大好きで、パパも大好きで、娘として三人でいられたら嬉しい。

でもパパはうん、パパだから女の子をメロメロにしちゃうから。

だったらもう、みんなパパの嫁でいいんじゃないかな。

将来的に弟妹が増えそうだし、しっかりお姉ちゃんをやらねば（メラメラ

「あれ、いたんだ」

部屋の隅に、訝しげな表情で「右腕」を抱える何か。

そして消える、ただの幻。

幽霊なのかもしれないけど、どうでもいいや。

「オリヴィエも馬鹿だよねえ、一緒に逃げちゃえばよかったのに」

臆気な記憶、クローンとして受け継いだ記憶。

たぶんオリヴィエのだけだったら取って変わられたかもしれないほど、強い記憶。

耐えられたのは、騎士の血。

オリヴィエと混ざった、騎士の優しさ。

「んんん〜とりあえずフェイトママを焚きつけて、突撃からのベッドインで落としても

らおう」

パパならやれる、うん絶対。

ママたちが幸せでハッピー

大好きなパパが本当のパパになってくれて私ハッピー

パパは…うん、肩叩きをしてあげようっかな！

どうせなら誰も悲しまずに、ハッピーエンドがいいはずだから。

「みんなで幸せになろうよお〜」



「レイジングハート、防犯用スフィアの展開よろしく。【雲耀】はメール設定と処理の方  
お願い」

『Yes. master』

『承知』

彼が【自室】で荷物を纏めている間、大量に送られているメールを処分しなければ。

それにしても顔が熱い、羞恥心で爆発しそうだ。

「うわあ、これは正直引く」

私に378件、彼には500件近く送られていた。

相棒たるデバイスに頼んで非通知設定にしてもらっていたが、彼が気づいたら大変  
だった。

送り主は言うまでもない、あのボンコツゴールデンメス犬だ。

『なのは、あんな奴と一緒にいちゃ危険だよ！』

『ヴィヴィオが危ないよ！』

『メール見たでしょ、なのはに近づくな』

『絶対に許さない』

『返信しないの？』

『なのは、あいつ見てないのかな』

『返信してください』

『ごめんなさい』

『返信してください』

『怒ってる？』

『お願い、お願いだから返事してください』

『寂しい』

『やだ』

『ねえ、ねえ、ねえ』

『返事、ください』

適当に並べたらこれだ、どんだけメンタル弱いのだ。

そんなだからマッドを捕まえるのに、彼からのハグが必要なのだ羨ましい。

本当なら叩き出してやりたいのだが、ヴィヴィオの懇願でズルズルと。

出張先から帰ってくるな。



私も抱きしめるよ！

「なのはー本当にあの部屋使っているのいいのか？」

勿論、だって君の部屋だから！

最初からヴィヴィオと貴方と3人で暮らすために建てたんだもの！

「うん、この家は私たちの家なんだから」

おかえりなさいって、言ってる欲しい。

おかえりなさいって、言いたい。

「はは、一週間だけな」

ううん、これからずっと。

世界で一番、愛しい貴方と。

愛しい娘と一緒に暮らす。

私たちの家。

やべえぜこいつはグツドなアイデア頼む！／フエイト

666 >>>1

やべえぜこいつはグツドなアイデア頼む！

667ノーマルへの架橋だ！

おうどうしたイッチ

668ノーマルへの架橋だ！

ははん、さては知り合いにエロ本買ってるの見られたな

669ノーマルへの架橋だ！

クラスメイトがバイトしてる本屋で買ったときに虚脱感

670ノーマルへの架橋だ！

興奮するね！

671ノーマルへの架橋だ！

(\*、口、) ハアハア

672ノーマルへの架橋だ！

(\*) ㄩ、) ハアハア

6 7 3 ノーマルへの架橋だ!

(\*) ㄩ、) ハアハア

6 7 4 >>> 1

現在、Fが自宅にいます

6 7 5 ノーマルへの架橋だ!

6 7 6 ノーマルへの架橋だ!

6 7 7 ノーマルへの架橋だ!

6 7 8 ノーマルへの架橋だ!

6 7 9 ノーマルへの架橋だ!

撤収

6 8 0 ノーマルへの架橋だ!

逃走

6 8 1 ノーマルへの架橋だ!

ばつかおめえ呑気に掲示板見てる場合かあ!?

6 8 2 >>> 1

いやだつてめつちや落ち込んでたし



683 ノーマルへの架橋だ！

ええいこのいい人め！

684 ノーマルへの架橋だ！

うむう、いや待てもしかしてあるいは交渉可能なのでは？

685 ノーマルへの架橋だ！

ないな

686 ノーマルへの架橋だ！

無理じゃないかな

687 ノーマルへの架橋だ！

やめとけ

688 ノーマルへの架橋だ！

うん、無理

689 ノーマルへの架橋だ！

ムリダナ（・×・）

690 ノーマルへの架橋だ！

いくら美人さんでも百合はのー

691 ノーマルへの架橋だ！

遠目に見るだけなら、うん

692 ノーマルへの架橋だ!

メンヘラな時点でアウトや

693 ノーマルへの架橋だ!

せやかて工藤!

694 ノーマルへの架橋だ!

せやかて工藤!

695 ノーマルへの架橋だ!

せやかて工藤

696 ノーマルへの架橋だ!

>>693 | 695

おまいらケコー (A、) 人 (A、) ーン

697 >>1

とにかく一度は n

698 ノーマルへの架橋だ!

イッチー?

699 ノーマルへの架橋だ!

あれ、もしややばい？

700 ノーマルへの架橋だ！

いやいや、まさかねー

701 ノーマルへの架橋だ！

イッチー!?

702 ノーマルへの架橋だ！

イッチー!?

703 ノーマルへの架橋だ！

イッチー!?

704 ノーマルへの架橋だ！

イッチー死す

705 ノーマルへの架橋だ！

いやあ釣りだろ…釣りだよね (汗)

706 ノーマルへの架橋だ！

信じて待とう、おれらのいっちーを

707 ノーマルへの架橋だ！

(一人)

708 ノーマルへの架橋だ!

(一人)

709 ノーマルへの架橋だ!

(一人)

710 ノーマルへの架橋だ!

(一人)

711 ノーマルへの架橋だ!

(一人)

712 ノーマルへの架橋だ!

(一人)

713 ノーマルへの架橋だ!

冥福を祈るんじゃないませえん!

・ ・ ・

784 >>> 1

離れてくれないんだがどうしよう



同棲プログラムが終わり、久々に家に帰ることにした。

高町家から出るときに、いつてらっしゃいと云われたんだが…いやいや、ねえ？

たぶん夕飯はあつちだなと思いつつ、雨の中を傘さして歩いてたら。

マンションのすぐ近くでずぶ濡れになったフェイトちゃんがありました。

ごめん、色っぽいというよりホラー的にドキツとしたよ。

俺の声に反応せず、ただ焦点のあつてない瞳で見続けられるのはね、うん、怖い。

このままにするわけにもいかず、フェイトの手を引いて自分の部屋に。

半ば押し込むように風呂場に行かせたのだが…

服、どうしよう(汗)

女物の着替えなどあるわけもなく、Tシャツなどにかく羽織える程度のものを準備した。

シャワー音をBGMに、掲示板に助けを求めようとしたところで…

「あがった」

Yシャツ一枚のフェイトちゃん様が後ろに立つておおられた。

というか、なんでYシャツ着たし!?

用意はしたけどさあ、他にもあったと思うよ!?

そもそも何で一枚だけなの!? ジャージの下もあったよね!?

お前さんのダイナマイトボディに湯上りしつとりの状態でその格好されたらさあ!?  
危険なんだよいろんな意味で!

「お、おう、とりあえず座って」

お互い向き合いながらフローリングの座り込む。

シャンプーの匂い、浮かび上がる黄金率の体。

だというのに光のない双眸が俺を射抜く。

いかななあ、もしや今日こそ命日になるのか…

「メール、出なかった」

メール?

ああ、そういえば最近見てないな。

みんな? 着信拒否になつとる。

「すまん、なんか変なところ操作してたみたいだ」

通信端末をピコピコと…わーい、山のように送られてくるー

愛されてるねえ、泣きたいくらい。

顔を上げると、スレスレの距離にフェイトの顔があった。

怖い、光のない目が怖い!?

「いっちゃうんだ、母さんと同じようにいっちゃうんだ」

金縛りにあつたかのように、動けない。

「なのはを連れてつちやうんだ、遠いところに連れて行くんだ」

細い指先が、首へと

「…わたしを置いていくんだ」

「違う!!!」

衝動的に、彼女を抱きしめていた。

在るはずの熱が、何処かへ消えていくような感覚。

「俺は此処にいる、なのは達も此処にいる——お前も、此処にいるんだ」

胸の中で藻掻く彼女を抑えながら、けして離さない。

消えてしまいそうで。

壊れてしまいそうで。

気づけば、フェイトはもう暴れていなかった。

引き剥がそうとした両手は、ガラス細工を扱うように、遠慮がちな仕草で胸に当てられ。

疲れたように、安心したように、瞼を閉じていた。

「フェイト、お前は此処にいるんだ…此処に、いるんだよ」

寝息をたてるフェイトを起こさぬよう、ベッドに運びながら額に浮かぶ汗を拭う。  
豊かなお餅を潰しているせいで、元気になってしまった愚息を鎮めなければ。

◆◆

暖かい。

暖かい。

心臓の音。

息遣い。

彼の命が、此処にある。

やめて。

やめて。

やめ、て。

離れられなくなる。

どうやっても、どうしようもなくなってしまふ。

熱が、体に染み渡っていく。

君がいないと、どうにもならなくなってしまふ。

なのはの居た場所に、割り込んで。



全部、全部、全部包まれてしまう。

目を開けると、知らない天井。

知らないベッド。

でも、知ってる匂い。

着ているシャツも、知ってる匂い。

窓を見ると夜明け前なのか暗く、ベッドのある寝室を出ればソファの上で眠る君。

メールが返ってこなかった。

君にも、なのはにも、ヴィヴィオには届いても心配で。

エリオとキヤロにかけても、返事が来ても何処かに穴が出来たように不安で。

家に帰らず、何故か君のところに来ていた。

嫌っていたはずなのに。

嫌いな、はずなのに。

「寝てる…」

指で頬をつく。

少し硬い、男の人の肌。

抱きしめられた。

いいのかな、居ていいのかな。

私は、居ていいのかな。

…?

あれ、なんだろ。

寒い。

こんな格好だから、仕方ないけど。

寒い。

触れて欲しい、熱を伝えて欲しい。

「きやつ」

眠る君の手が伸びて、抱きしめられる。

「んくさむ…」

抱き枕にされてしまった。

暖かい。

君の体温が、心地いい。

あんなに感じてた嫌悪感が、消えている。

むしろ、もつと傍にいて欲しい。

ああ、そうか。

「嫌だったんだ、置いてかれるのが」

お願いします。

傍にいさせてください。

貴方と、なのはと、一緒にいさせてください。

今までのことを謝ります。

なんでもします。

だから…

「ふえいと〜」

！

「ここにいるぞ〜ムニヤムニヤ」

——うん、此処にいるよ。

此処に、いるよ。

愛しています。

愛させてください。

その後、添い寝されて一部がピンピンになりながら動けなくなってしまう天国と地獄状態になるのはどうでもいい話。

※おまけ



## サ○ヤ人つて下まで金色になんのかな／リインフオーズ Ⅱ&アギト

729 >>1

サ○ヤ人つて下まで金色になんのかな

730 人めのノーマル求道者

産毛も金色になりそう

731 人めのノーマル求道者

あのオーラは産毛だった：!?

732 人めのノーマル求道者

ラージャン乙ー

733 人めのノーマル求道者

赤くなったり青くなったりするののか

734 人めのノーマル求道者

いきなり下世話な話すこ

735 >>1

昔はフュージョンの練習してたなあ

736人めのノーマル求道者

あるある、指が中々揃わなかった

737人めのノーマル求道者

かめはめ波と波動拳は誰もが通る道

738人めのノーマル求道者

ヨガファイヤ：

739人めのノーマル求道者

体が伸びるインド人は帰ってどうぞ

740人めのノーマル求道者

ヨガはゴム人間を生み出す秘術だという可能性が微レ存

741人めのノーマル求道者

ヨガってつまるとこ解脱するための修行法だから間違ってるじゃない件

742人めのノーマル求道者

解脱したらおにやによことニヤンニヤンできないじゃないですかやだー！

743人めのノーマル求道者

御免だね

744 人めのノーマル求道者  
うーん、この煩惱の塊

745 人めのノーマル求道者  
でもインドってチート英雄多いよね

746 人めのノーマル求道者

そりゃ元ネタからしてぶつとんでるし

747 人めのノーマル求道者

神様もすげーの多いし

748 人めのノーマル求道者

なんか話ずれてるぞ

749 人めのノーマル求道者

そうそう、もつと馬鹿な話しようぜ！

750 >>>1

【急募】修羅場の回避方法

751 人めのノーマル求道者

死ねばいいんじゃないかな

752 人めのノーマル求道者

死ね

753 人めのノーマル求道者

相手が居る時点で重罪なんだよなあ

754 人めのノーマル求道者

これが二人以上だったらもうもぐしかない

755 人めのノーマル求道者

もごう（思考放棄）

756 人めのノーマル求道者

ついに馬脚を出したなアホがア！

757 人めのノーマル求道者

つぎロチン台

758 人めのノーマル求道者

つ絞首縄

759 >>1

ノンノン、ちっちゃな子供の話し

760 人めのノーマル求道者

うーん…ぎるてい？





そこで一体のユニゾンデバイスが熱烈抗議していた。

リインフォースⅡ、どこか彼女の面影を感じさせる身長30cm程度のリアル妖精。目元に涙を浮かべ、駄々っ子の如く腕を振り回す姿は実に愛らしい。

抗議を受けている対象は苦笑いだが。

よお俺だ、ところで今の俺を見てどう思う？

“金色”の髪、三対六枚の炎翼、身にまとうバリアジャケットはまさしく「王」。

『へへん、バツテンチビから文句言われる筋合いはねえーよ！』

「融合」したユニゾンデバイス、アギトの声が頭の中に響く。

うん、なんだ。

ユニゾンしちゃいました（笑）

烈火の剣精アギト、JS事件において共犯していたユニゾンデバイス。

隔離施設での再教育も終わり、司法取引により保護観察も兼ねて当初ははやてが預かる予定だったのだが…

「あたしにはロードがいるんだ！ あの人の所がいいんだ！」

と、駄々をこねられました。

いやねーゆりかご戦の時にさ、勢いで合体しちゃって。

まさか所有者扱いされるとは、いやはや。



シグナムも、なにか足りない。

消えたはずの古きベルカを感じさせる、この青年と出会ったのは運命だ。

あの時、旦那と旦那の友達の命を救い。

一人の戦士としての役目を終わらせ、新しい道へとつないでくれた大恩人。なのに、なのに、あたしはこの人を守れなかった。

迫る機械人形共を相手に、最後まで戦い続けたこの人を守れなかった。

無くなっちゃまった、大切な腕が、あたしの力が足りなかったから。

いやだ。

いやだ…

いやだ…

見捨てられたくない。

捨てられたくない。

頑張るから、頑張るから、あたしのロードでいてくれ。

バツテンチビなんかより、ずっと働いてみせるから。

全部燃やすよ。

敵は、傷つける奴は全部

いっばいっばい、頑張るから。

我が主、どうか貴方の剣であることをお許し下さい。



不満です。

すつごく不満です！

おかしいです、アギトちゃんはいきなり横から出てきたお邪魔虫です！

ラインだつてちゃんとユニゾンできます！

確かにラインははやてちゃんや、守護騎士のみんな専用調整されてるですよ？

でも、少しずつゆつくり入っていけば慣れていくものなんです！

寝ている時に専用のプログラムを構築して、ちよつとずつ中に入って練習してるんで

すから！

すつごく気持ちいいんです、はやてちゃん達とは違う別の感覚。

アギトちゃんも気持ちよさそう、でもそれはずくつとラインが慣らしてきたからなの

に！

お邪魔虫！ お邪魔虫!! お邪魔虫!!!

むう、だけどいいです。

これから遠くないうちに、家族になるつてはやてちゃんが言ってきました。

家族、すごくいい言葉ですよねえー

家族になったら、守護騎士と同じだからユニゾンしていいですね！

ユニゾンデバイスの経験は、リインの方がずーっとずーっと多いですから溶け合いますよ！

だから、一緒になりますよ！

そう、一緒になろう。

あの日、雪が降るあの日のように。

伸ばした手が届かず、涙を流させてしまった過ち。

幸福であるが故に、過ちであるあの日を繰り返すことはない。

もう泣かせせはしない。

もう、傷つけさせはしない。

優しい君を、リイン／私が守る。

猛きロードに炎の導きを

優しき君に祝福の風があらんことを

## 夜天の書の闇・前編／八神家

瞼を開いたら知らない天井が見えた。

「知らない天井だ……」

昨日は……うん？　昨日？　あれ？

此処何処？

霧のかかる記憶を引き出すと、最後は……そうだ、八神邸で夕飯を食って、そこで……いつも使わせてもらっている部屋ではない。

見渡せば金かかってますと分かるような調度品に、自室の倍はあるであろう広い間取り。

しかもこのデザイン、ヴィクターのこの屋敷にあったのと似ている……ベルカのものだ。

思わず身を起こそうとして、ようやく気づく。

「アイエエエエエエエエエエー！　手錠!?　足枷!?　拘束ナンデ!？」

金属製のブロックのような手錠と足枷。

渾身の力を込めてもビクともせず、魔力も使えない。

A M Fのように魔力を阻害するための、言うなれば凶悪犯用に作られた拘束具だ。問題は、何故にそれが俺に付けられているのかだが…

明らかな高待遇と拘束の事実があまりにもミスマツチ。

混乱する青年であったが、そこで部屋の入り口である扉が開かれたのだ。

八神はやて、昨晚もその腕によりをかけて作られた食事は絶品だった。

ああ、いい嫁さんになるとも言った気がする。

そんな彼女が、喜喜満面とばかりに笑みを浮かべて入室してきたのだ。

「はやて!? た、助かった、これを外してー」

何故に上着を脱ぐのですかな？

あの、その、たわわに育ったものが見えそうで、ああ、おやめくださいお客様！

生睡を飲み込む青年を横目に、はやては獲物を見つけた狼の如く動けぬ青年の上へと

覆いかぶさった。

健全な青少年ならばこのあとの展開を想像するのは容易いことだろうさ。

「んふふく♪ めんなあ、痛いところないかなあ」

首筋に顔を埋めながら、耳元で囁かれる。

とろけるような、煮えたぎるマグマを薄い氷で覆い隠すような感覚。

直感的に青年は思った、食われると。



「はやて！ 悪ふざけはやめ」

「同棲プログラムにい、フェイトちゃんを部屋に連れ込んだんやって？」

「——悪いこや」

触れるような頬への口づけ。

ベルトを外され、ズボンに手がかけられる。

「わあ——————！！？」

「大人しくしいや、天井のシミ数えとれば終わるよって」

「いやあ——————！ 男の人呼んで——！」

「あんたがその男の人やろうが！ それに」

「私と守護騎士のみんな、滅茶苦茶にしていんよ？」

…

「組み伏せてえ、強引に散らして、自分のやって証を刻んでええんよ？」

…いや、それは、その。

……………いや、いや、でもなあ。

「い、いかんいかん！ それはだめえ！」

いけませーん！

いけないのでえーす！

というか、そんなエ○同人みたいなことあつてたまるかあ！

惑わされるな愚息！ 鎮まりたまえ鎮まりたまえ！

プルルルルルルル。

呼び出し音、舌打ちをすると。

「また後でな」

そう言つて部屋から出ていった。

ふーーーーーーー

落ち着こう、落ち着こう、落ち着こう。

うん、まあ、なんだ。

たぶん俺を拉致（推定）をしたのは、八神はやてで間違いない。

んで、彼女は俺に好意を抱いている：LIKEではなくLOVEの方で。

勘違いの類か、誰かに脅迫されてという話でなければ、だが：

「でもこれはちよつち無理だわ」

尊厳というか、このままでは飼い殺しルートでエンディングを迎えてしまう。

言うまでもなくBADだ、そもそも守護騎士が賛同しているのか？

いくら忠誠心に満ち満ちていたとしても、これには反対するはずだ。

『聞こえているか…？』

「その声、ザファイラか!？」

念話をしてきたのは盾の守護獣ザファイラ、我らが忠犬ザファイラ!

『主はやてと俺以外の守護騎士がすまない、だが皆の思いも汲んでやって欲しい』  
幼い頃に両親を亡くし、最愛の家族の一人を失った少女。

気が遠くなるほどの長い時を経てようやく呪いが解けた騎士たち。

どれほど心押し殺してきたのか。

どれほど、どれほど…

「いやまあそこはいいんだ（よくないけど）、とりあえず此処は何処で早く助けてくれ」

『ベルカ領の騎士カリムが所有する屋敷の筈だ、すまんが俺は力になれない』

「…理由は?」

『主たちに何をされるか分かんではないか』

この駄犬がああああああ————————!!!

てめえ結局はビビって安全圏にいるだけじゃねえか毛皮削ぐぞ!?

『貴様には分からんのだ…光のない瞳で悶々と悩む主たちを知らんから…というわけで、協力はしないが邪魔もしない』

頑張れよと、駄犬は念話を切った。

うあああああああああああ!!!

ガチャリツ、再び扉が開かれると思わず身が竦んでしまう。

しかし予想に反して入ってきたのはシグナムであった。

「すまない、こんな事になってしまおうとは…」

おお、なんとということだ。

さすがはヴォルケンリツターのリーダー。

感動でむせび泣きそうだが、さあこの拘束を解いてくれ。

「ああ…わかつて、いる…」

そういえば鍵穴ないしなあ、これどうやって外すん？

「難しい、な…仕方がない、動くな、よ…」

あの、シグナムさん？

なんでレヴァンティン構えてるの…!?

「案ずるな…私の腕は知ってるだろう…大丈夫、痛くはしない…大丈夫だ、血はすぐに止まる…シヤマルもいるから」

いやあああああああー！

ちよつとちよつと、落ち着いてよシグナム！

俺右手義手だからさあ！ 最悪片方だけでいいからさあ！

いやあー！ 足にロックオンされちゃってるうー！

車椅子生活はいやあー!!!

「大丈夫大丈夫だいじょうぶだあー!!!」

「ここだあ!」

振り下ろされる刃の軌道に合わせて、両足の僅かな隙間を沿うように当てる。

股間の愚息が双子になりかけたが、寸での所でシグナムの肩を蹴飛ばして難を逃れた。

よし、足はこれでOK!

座り込んだシグナムは目を泳がせ、今にも死んでしまいそうなほど青白くなっていた。

「わたしは、主の、だが、いや、すまない、ごめん、ちがうん、だちがう、すまない」  
明らかに動揺している、心配ではあるが今がチャンスだ。

青年は部屋を飛び出し、屋敷の通路を走り出した。

「出口、いや先に雲耀がいる、この手枷つけたままで戦えるわけがねえ!」  
角を曲がり、階段を駆け下り、さあどうしたものかと頭を悩ませ。

「——なにしてたんだ、そこで」

鉄槌の騎士が立ちふさがった。

騎士甲冑を纏い、凶器のハンマーを担ぐ姿に何一つ揺らぎを感じない。

あかん、あかんでこれは。

覚悟決まってるやしやる、シグナムみたいに迷っていいない。

腕は枷付き、魔力は封じられ、手元に武器はない。

…やばくね、これ。

## 夜天の書の闇・後編／八神家

走る、走る、走る。

背後から迫る脅威から、ひたすらに疾走する。

振り返っている余裕はない、あのロリハンマーはいつものように怒声をあげず静かに追い込みに来ているのだ。

ひい！ 今玉がすぐ横飛んできたア！

追いかけてつことが始まってどれほど経っただろうか。

ヴィータに発見されて、屋敷内を鬼ごっこ。

数分なのか、それとも数時間なのか、緊張感と恐怖で時間の感覚がない。

スタミナはあとどれだけ保つ？

そもそも、もうすぐ後ろにいるのではないか？

浮かんでくる不安を押し殺し、すぐ先の角を曲がったところで。

踏みしめたはずの床がなかった。

「ッ、何処行つた!？」

鉄槌の騎士は声を荒げるも青年の姿はなく。

歯ぎしりをして周囲をさがす以外でできなかった。



「危なかつたわねえ〜」

手枷が外され、愛刀が手元に戻される。

「ここまではいい、しかし問題なのは…」

「どういう、つもりなんだ」

湖の騎士、シャマルが自分を助けたことだ。

空き部屋なのか、転移させられた先には物がなく。

いつものように、ニコニコと朗らかな笑みを浮かべるシャマルがいる。

それが、逆に不気味だ。

「はやてちゃんに賛同したのは事実よ、実際に止めなかったもの」

でも、と悪戯が成功したような笑み。

「貴方を助けない理由もないのよね、協力はするし邪魔もするけど、今のヴィータちゃんだと怪我じゃ済まないと思つたから」

「それはどうも…」

いやはや、どうしたもんかねこれは。



「理由…」

「??」

「何でこうなったのか、説明の一つは欲しいんですがねえ」

それともそうねと、シヤマルはこれまでの経緯を話した。

つまるところ、はやては焦っていた。

なのは同棲プログラムという悪法（はやて談）で先んじて。

フェイトは俺から家に連れ込んだと思い込んでしまった。

どうやって情報を得たのか、特にフェイト…とにかく、彼女はもう我慢の限界だった。

ここはもう監禁してでも彼を守らなければと、だったらちゃんと五体満足拘束なしで

守ってくれ。

「あ~~~~~はあ、なるほど」

これは、アレかなあ。

もしや俺の周りって、けっこう危ない状況なのでは？

今更な真実にたどり着きながらも、出てくるのは深い溜息ばかりである。

「んじや、俺は行くよ…誰かに仲立ちしてもらって話を進めようと思う」

「あらそう？ なら怪我しないようにね」

あんたはどっちの味方なんだい…

「私ははやてちゃん娘と貴方息子の味方よ」

ううん、なんか妙なニュアンスがあつたような…まあいいか。

まあいいか。



部屋を飛び出し、窓を突き破る——つたように見せかけるため、そばにあつた置物を投げ込んで破壊。

代金はあいつら持ちだ、緊急避難でF.A.

しばらく身を潜め、玄関ホールに急行。

よし、これで脱出——

「行かせへんよ」

四肢を拘束する魔法の鎖。

夜天の主、八神はやて。

SSランク魔導師にして、守護騎士たちを従えるもの。

「はやて、とにかく落ち着いて話し合おう！ お前の気持ちは十分に」

「十分？ なにが？ まだ全然や」

ヴィータが、シグナムが、シャマルが後に続く。

今はいい駄犬以外の守護騎士たちが揃い、脱出の可能性がさらに下がっていく。

「ロードー！」

ぬお!? 何かが頭の上に乗った。

アギトだ、姿が見えないと思えば。

「はやてちゃあーん、ごめんなさいです〜」

「バツテンチビに捕まるアギト様じゃねえんだよ！ ロード、ユニゾンしてはやく逃げ

ようー！」

いや、そう思っただけどね。

このまま逃げると後が怖いのよねえ。

「逃がさない、渡さない、もう二度と手放さない。絶対に、絶対に絶対に」

「はやてが望んだ、なら騎士が応えるだけだ、絶対逃がさねえ」

「すま、ない、すまない、すま、な、いすまな、いすまな」

「あらあらまあまあ」

「逃がしませんよおー！」

「ロードオー！」

うーん、このステレオ感。

「なんで、離れようとするん…？ 全部、全部あげるからあ！ だから、ずっと一緒にい

てやあー！」

「欲しいものは全部あげる！ 望むものも全部！ それが、それが」

うーん…

でもなあ。

「俺は、お前らとは違う」

家族は全員健在だし。

なにか厄ネタ抱えてるわけでないし。

右腕はなくしたがそれでも健康で。

悪くない人生を送ってると思う。

求められるのは悪い気分ではないし。

美女に囲まれた生活も悪くないよむしろ嫌いじゃないよ大歓迎だよ。

でもなあ。

なにを勝手に俺の人生決めてるわけ？

魔法と出会い。

傷つき、傷つけ。

勧められ、指図され、流されてきたかもしれない。

でも最後は自分でそうだと決めた。

最後は自分で選んだ選択に従ったのだ。

「俺がどう生きて、どう死ぬかは俺が決める」

愛刀を引き抜く、たとえ相手が誰であろうとそれだけは譲れない。

それを譲れば、俺は俺でなくなるのだ。

「シグナム、お前はそれでいいのか？」

「あ……」

「主の過ちを正してこそ騎士だろう？ 俺を傷つけたことを悔やんでいるんだろう？」

「なら清算すればいい、正しき行いで差し引きゼロだ。そうだろ？」

「し、しかし、私は、主はやての……」

「ああ、わかっている——はやてを救うために、俺を助けてくれ」

口が回る。

いつもと違い、何かがとり憑いたかのように。

「シヤマルさん、どうか手を出さないでくれないか？」

「私は、はやてちゃんの味方なのだけど？」

「俺の味方でもあるんだろう」

「ふふふ、そうね」

シヤマルは数歩下がり、静観の構え。

シグナムは瞳に理性と使命に燃える意思が宿る。

「リイン？」

「ビクッ」

「お前は、誰の刃だ？」

「り、リインは、はやてちゃんの」

「ああそうだ、マイスターは、はやてだ——なのに俺が使うのは、不誠実ではないか」

「あう、あうあ…」

「リイン——君は、誰の刃になりたい？」

危機的状况、絶体絶命から一転。

戦力は、五分と五分。

特別な言葉を紡いだわけではない。

ただ、ただ否定できない青年の言葉が夜天の主から騎士を引き抜いたのだ。

ああ、それはまるでかの騎士の如く。

「——ええなあ、無茶苦茶にしてほしいわ」

「してやろうか、死ななければ」

え？ この後？ たぶん愛やらなにやらで目が覚めてチョークスリーパーでもくら

うんじゃない？



「はやてちゃん、そのチョコカーどうしたの？」

「ん〜ちよつとイメチェンちゅうか、う〜ん」

「所有物の証、かな」

# 最近どうにも私物がなくなるんだ／セイン+オットー+デイド

670 >>1

最近どうにも私物がなくなるんだ

671 ノーマルという概念

いじめか

672 ノーマルという概念

かわいそうに

673 ノーマルという概念

気にすんなよいつちー

674 ノーマルという概念

これは気になるあの子のリコーダーを盗みたくなくなるとい  
う感じのフィーリングが微  
レ存

675 ノーマルという概念



ねえーわ

676 ノーマルという概念

ねえーわ

677 ノーマルという概念

ねえーわ

678 ノーマルという概念

ねえーわ

679 >>1

ねえーわ

680 ノーマルという概念

いやあないっすわー

681 ノーマルという概念

具体的にどんな具合で？

682 >>1

いや大したもんじゃな、歯ブラシだったりYシャツだったり

全部新品に取り替えられてる

683 ノーマルという概念

うーん

684 ノーマルという概念

これはどういう…

685 ノーマルという概念

いやあ普通に古くなったのを捨てられたのでは？

686 ノーマルという概念

歯ブラシはともかくシャツもか？

687 ノーマルという概念

新品のを捨てられたぞ

688 ノーマルという概念

靴がなくなったこともある

689 ノーマルという概念

ノートがバラバラになつてたぞ

690 ノーマルという概念

やめよう、闇が深い

691 >>1

いやあ金払わなくていいのかなあつて

692 ノーマルという概念

悠長だなー

693 ノーマルという概念

そうだと、変なことに使われてるかもしれないぞ

694 >>1

野郎のを何に使うんだ???

695 ノーマルという概念

確かに

696 ノーマルという概念

美少女ならともかくなー

697 ノーマルという概念

せやせや

698 ノーマルという概念

閉廷

◆◆ この後、寝巻きに丁度いい格好についての議論が続くのであった

◆◆ 「ほい、頼まれてたもんだ」

聖王教会の宿舎前で、古くなった衣服が入った包みを渡す。

受け取ったのは長い茶髪にカチューシャをつけた修道女。

元スカリエツテイ一味の一人、ディードだ。

「ありがとうございます、最近はお古着でぬいぐるみを作るのが流行っているもので」「まあ、捨てる手間が省けてこっちはいいんだけどよ」

別に野郎のを使うこともないんじゃないかと思つたが、男性用の衣服の方が作りやすいらしい。

正直なところ人形云々はまったく分からんし、困るわけでもない。

「折角ですのお茶を飲んでいかれませんか？ 先日良い茶葉を頂きましたので」

「あーいや、実はこのあと仕事で「急速潜行ー」ぬおおおおおおおおおお！」

突如視点が急落し、豊満な胸部を見上げる形になってしまう。

原因は分かりきっている、腰にしがみつき地面にまで沈みこませた不届きものがあるからだ。

「セイー————ンツ！ おま、やめえい！」

「飲んできなよー減るもんじゃないし、どうせだつたら教会に就職しちゃえばー？」

ディードの姉、セインが能力を用いて自分ごと体を地面に沈ませたのだ。

「アホ言うなや、だー沈むー!? ディード、助けてくれー！」

しかし両手を取ったあたりで赤面して動かなくなり、偶然通りがかったオットーに救われて事なきを得たのだった。

「飲んでいくといいよ、最近ディードも練習してるみたいだから」

救い主からの提案もあり、穏やかなティータイムを堪能するのであった。

ちなみにこの後何処から聞きつけたのか、カリムとのお茶会に参加することになり。

そこから八神家まで輸送されるコースが完成してしまうのであった。

「貞操の危機だよ！」



日も沈み、どっぷりと夜が深まった時間。

元戦闘機人の姉妹3人は、今日の収穫を三等分し堪能していた。

言うまでもない、彼の古着である。

ディードは残り香を感じる布を使ってティンベアを作成 ※ドジっ娘なのか黒い髪

の毛が混じってしまいましたよ！

オットーは自分用に採寸して普段着にするようだ。 ※やはり匂いが気になるのか

しきりに鼻を鳴らしている

セインはとうとうと完全に寝巻きに役立てている ※寝るときは下着を履かない主義

らしい

「しかし危うい状況です、誰かが彼の部屋から物を盗み出しているようで」  
「うん、そういうのはいけない事だと思う」

「うんうん、セインねーさんもよくないと思うよー」

もぞもぞぐりぐり、セインは先程から身を揺らしている。

はて、何か湿った音が聞こえるが気にしない方向でいくとしよう。

「あの方は陛下の御父上、つまり私たちが仕えるべきお方です」

だから「お手つき」されてもいいのではないか。

すました顔のディードの鼻から赤いものが滴った、このむつつりめ。

あの日、後にJ・S事件と呼ばれるようになる騒動が起きてから。

彼は自分たち元ナンバーズの社会復帰に尽力してくれた。

個人的にスカリエツティという人物と仲良くなったこともあるが、なにより今までそ

れ以外の生き方を知らなかったナンバーズを不憫に思ったこともあり。

なにより可愛い子に親切するのは男としてありだと思ったから。

創造主たるスカリエツティ以外にまともに交友に入る男性は少なく、比較的（外見上

は）年が近いこともあり。

彼女たちは少々いきすぎた愛情を宿すことになる。

これに対してマッドサイエンティストは

「正氣にて大成なしというじゃないか、ハーツハツハツハツハツハツハ！」  
とのことらしい。

いつでも体はウエルカムで、ドクターを産む予定であつた場所は彼限定に早変わり  
まあつまるところ。

一人でも手を出せば、他の子達が一気になだれ込んでくるのは間違いないだろう。

# 【悲報】首都で辻殴り騒動勃発！／アインハルト

50 アブノーマルという異端児

【悲報】首都で辻殴り騒動勃発！

51 アブノーマルという異端児

い つ も の

52 アブノーマルという異端児

うん、いつもなんだすまない

53 アブノーマルという異端児

首都なのにこの治安の悪さ

54 アブノーマルという異端児

でもレジアス中将いないとさらに倍率ドンという

55 アブノーマルという異端児

あの人いつかハゲンじゃね？

56 アブノーマルという異端児

ヅラに一票



57 アブノーマルという異端児

植毛技術の高さ

58 >>1

今北産業、辻殴りとはなんぞや？

59 アブノーマルという異端児

最近著名な格闘家とかが路地裏で襲われてる

被害者は全員仮面をつけた女にやられたそう

60 アブノーマルという異端児

おい格闘家

61 アブノーマルという異端児

その割にはあんまニユースになんないね

62 アブノーマルという異端児

いつもの

63 アブノーマルという異端児

いつもの

64 アブノーマルという異端児

みんないつものだと思って反応しねえーって

65 アブノーマルという異端児

死人は出てないからその分もあんのかねーつと

66 アブノーマルという異端児

大の大人が女に負けたってのもさあ

67 アブノーマルという異端児

プライドもそうだけど格闘家だと収入にかかわるし

68 >>1

こわいわあゝ

69 アブノーマルという異端児

しかし女格闘家…仕返し…複数…閃いた

70 アブノーマルという異端児

閃くな

71 アブノーマルという異端児

いかんよそれー

72 アブノーマルという異端児

脳内にとどめときー

73 アブノーマルという異端児

しかし肉厚な太ももはいいよね

74 アブノーマルという異端児

ばつかおめえー割れた腹筋だよ

75 アブノーマルという異端児

うーんこのアブノーマル

76 アブノーマルという異端児

セクシヤルな感じで男的にセーフだからOK

77 アブノーマルという異端児

アウトだよ！

その後は格ゲーの女キャラで求めるべき要素について盛り上がった



辻斬りならぬ辻殴りに遭遇してしまった。

うん、自分でも正直ナンセンスな表現だとは思う。

テレビで何度かインタビュウを受けていた格闘家、それが顎にいいのを貰って倒れ伏す現場に居合わせてしまったのだ。

ああ、9歳だった頃を思い出す。

下手人は仮面をつけた十代後半の女性。

対峙するのは缶ビールが入ったビニール袋をぶら下げる俺。

証拠隠滅のためこちらに殴りかかった女の顔にビールをぶしやー。

視界を潰したところを足払い、格好つけて鼻先にデコピン。

完全に決まった、アクシヨン俳優も目じやないと自画自賛。

うつとりしていると女の顔が耳まで赤くなり、そのままバタンキュー

結果、明らかに中学生程度の女の子に変わってしまったとき。

テ○マクマ○コン、テクマ○マヤコ○、大人のレディーになあれ

さあて整理しよう。

場所：路地裏

倒れてるの：男と少女（ビールに酔った？）

俺：久々の休暇

……………

救急車を呼び、少女を抱えて家路に急いだ。

うん、すまない、面倒だったんだ。

温くなったビールを冷蔵庫に放り込み、少女をソファに寝かせる。

とりあえず起きたら事情を聴いて家に帰そう、そう思つて椅子に座ったままウトウト。

結果、こちらを覗き込む少女の顔がドアップ。固まった、流石に反応に困ってしまう。

「も、申し訳ありません」

すぐさま土下座に入る少女、見下ろす俺。

あ、これ最低な画面だわ。

宥め、諭し、なんとか土下座をやめてもらう。

そこで見たのだ、青と紫の虹彩異色。

何故か、それが妙に懐かしくて。

気づけば、お互いに見つめ合っていた。

あ、これやべえ画面だわ。

インスタントのコーヒーを勧め、少女：アインハルトの事情について話してもらうことにした。

一言で言えば、またベルカだ。

また、ベルカなのだ。

記憶の継承、ジーク同様アインハルトは深い部分で影響を受けているように見える。

霸王クラウス、何処かで聞いた名だ。

彼？の無念の記憶、戦闘経験を引き継いだ結果。

このような辻殴り凶行へと走ったのだ。

強くなりたい、大切なものを守るくらいに。

だから実戦を求め、挑んできたのだと。

俯きながら呟くアインハルトに、俺は：

ムニーーーーー

「ひゃ、ひゃんへふは？」

両頬を痛くない程度に引っ張った。

「あのさあ、事情は理解できたがやり方考えろよ、な？」

どっかのジムやら道場に通うなり、やり方なんぞ幾らでもある。

なんかどつと疲れた、窓の外は暗闇、夜が明けたら家に送ってやろう。

こっちは休暇なのだ、面倒ごとは

「ご、ご迷惑をかけた身で図々しいことを承知していますが、お願いがあります！」

「わ、私のお師匠さまになってください！」

◆◆◆  
あ、流れ星。

それは、きつと運命だったのだ。

遠い遠い先祖の記憶。

大切に、同時に苦い記憶。

私はハイデイ・アインハルト・ストラトス・イングヴァルド、古代ベルカの王族の直系子孫。

【霸王】クラウド・G・S・イングヴァルトの記憶と技術の継承者。

彼の、クラウドの無念がこの体を突き動かす。

何人もの武道家に勝負を挑んだ、だが何かが足りない。

それどころか拳を振るう度に、何かが欠けていくように。

間違っている、そんな事は分かっている。

でも、それでも。

そんな時に、私はお師匠さまに出会ったのです。

かつての盟友にして、好敵手、無二の腹心。

記憶の果てに刻まれた騎士の面影を感じさせるあの人。

マスターと出会っていないければ、きつと私は堕ちるところまで堕ちていただろう。

衝動的にマスターへの弟子入り、今思えば顔から火が出そうだ。

いや、振ったビールの中身を浴びせそこからの足払い。

自然体にてくりだされた妙技、目指すべき強さの片鱗をあの方に見た。だから問題ないのです、問題ないですね、問題ありません。

マスターはいつも忙しい中、時間を取って稽古をつけてくださいます。

申し訳ない気分にもなりますが、反面とても嬉しいのです。

記憶の継承、親は理解を示してもどこか遠慮がちに：いえ、忌避しながら私と接していた。

友達を作らず、ただ一人修行をする私は、孤独だった。

でも、マスターはそんなダメな私を叱ってくれた。

諭し、怒り、道を示してくれたのです。

よくやってるなど、褒めてくださいました。

初めて、叱ってもらえたのです。

初めて、褒めてもらえたのです。

だから、だから私はもつともつと努力して。

ダメな私がマスターの自慢になれるように。

マスター、もつと叱ってください。

マスター、もつと褒めてください。

マスター



マスター

マスター

「あくアインハルト、少し相談があるんだが」

はい、なんですかマスター

「知り合いが格闘技のコーチをやってるんだが、一度そつちを受けてみないか？」

え？

「いつも見てやれるわけじゃないし、同年代の女の子も何人か指導を受けてるそうだし」

マスター？

「そうだな、名ばかりの先生だが実は大会で優勝してる奴が教え子にいるんだ、そつちは」

どうだ？」

どうして。

私は。

マスターの。

「お前はきつと強くなれる、だからその、なんだ…アインハルト？」

ああ、そうなんだ。

私がダメだから、マスターに教わるには未熟過ぎるから。

「ありがとうございます、是非紹介してください」

「お、おお、勿論だとも」

「頑張ります、マスター」

強くならなきや。

強くなれば、また叱ってもらえる。

強くなれば、また褒めてもらえる。

勝つんだ。

勝つて、勝てば、きつと。

ねえ、マスター。

一緒に指導を受けれる人たち。

壊しちやったら、叱ってくださいね。

◆◆

君は、望む全てを持っていた。

力も。

知恵も。

彼女からの愛も。

彼女は、オリヴィエは、いつも君を見ていた。

どれだけ近づこうとも、オリヴィエの心は君だけのものだった。

妬ましい。

憎らしい。

何度、取つて代わりたいたいと思つたことか。

何度、君になりたいと思つたことか。

悍ましく、醜い自分を、君は友だと、主であると。

誰よりもオリヴィエを思う君に、嫉妬する己。

嫌いだ。

嫌いなのだ。

こんな自分が、君の友である資格などない。

女なら。

異性なら。

友ではなく、ただの男と女なら。

こんな醜い自分でも、君と共に歩けたらどうか。

今際の際に見た、霸王の夢。

## 修羅場／なのはちやんとはやてちゃん

時空管理局・本局食堂。

管理局員は常に激務に追われている。

そのため本局ではある程度の娯楽設備は揃っており、なにより食事には一層力を入れていた。

多種多様の人種、文化を内包するため特定の食材などがないとストレスになるのだ。

日本人は米を食わなきゃやってられないというものも、けして少数ではない。

食事とは単なるエネルギー補給ではない、食事とは文化なのだ。

味、食感、香り、盛り付けから完食に至るまでの過程。

さらに共に語り合う友人、家族、恋人との会話。

ただの栄養を摂取するだけでは、あまりにも勿体無いとは思わないかね？

なあ、その男をはさんで強烈なプレッシャーを放ってる二人。

時間にして深夜明けの、利用する局員が少なくなる辺り。

夜間担当の調理師は嫌な顔一つせず鍋を振り、眠たげにコーヒーをすすする局員たち。

彼らは徹底して無関心を装っていた、生命にダイレクトで干渉される案件だからだ。

「——くん、今度の休暇なだけど」

青龍の方角、管理局の白い悪魔〜！

「ほんでなあ〜新しい家具買うつもりなんやけどアドバイスが欲しいんよ〜」

白虎の方角、蘇りし夜天の王〜！

「むしやむしやむしやむしやむしや」

黄龍の位置——我らのイツチー

なんとかしろよ、おい。

互いに男の方にはか目を向けず、男は一心不乱に食事に勤しんでいる。

ここで彼をヘタレとか、根性なしと罵るのは簡単だ（やった瞬間ブレイカーになるだろうが）。

だが魔王の放つ魔力で空間が軋み、夜天の周囲は軽い霜がはじめていた。

なにか言えるか？ 無理無理無理の大三元。

しかし行動しなければならぬ、そのためには動く活力が必要だ。

つまり男は今戦っているのだ、現状を打開せんがための準備。

標的を打ち抜くために、弾倉に弾丸をぶち込んでいる最中なのだ！！

「——あ、はやてちゃん居たんだ」

「なのはちゃんやんか、気づかんかったわー」

しかし、状況は第二段階へと移行していたあー………！

「はやてちゃん、ダメって言うわけじゃないけど佐官が食堂を利用するのはやめた方がいいんじゃない？」

「ほら、みんな萎縮しちゃって食べづらいよ」

にこやかに毒を吐く魔王、魔王の毒霧攻撃だあー………！

「せやなあ、だからちよつとお誘いに来たんやけどデスクにおらへんかったんよ」

「いくら仲がええからって、職場での異性交遊はよろしくないやないの？」

「公私混同」はあかんわあ、ちゃんと公私は分けへんとねえ」

牽制と見せかけたハードパンチ、いいやまだジャブレベルなのかあ!?

「むしやむしやむしやむしやむしや」

ここは様子見、状況を見守るのですね！

ちなみに周りの人達はなれた御様子、だつて彼らだけじゃないものね！

昔から女の戦いは苛烈なのだから。

関わらないように目を背け、さっさと食事を終えるしかないのだ。

「公私混同かあ、はやてちゃんつてば冗談が上手いよねー……くん」

「私情で部隊を立ち上げて、人事も身内に限定して」

「ちよつと「私」が入りすぎじゃないかなあ」

あ、室温が何度か下がったぞい。

見てみて、熱々のコーヒーが冷め切つて霜まで出てきちゃつた。

「——言うやんけ、ガツツリ私情入りまくつとるくせに」

「そりゃあ尽力させられた側からすれば、ねえ」

あ、空間が、空間が歪んで見えるよ。

へイイチチー、完全に失敗したつて顔でいるけど大丈夫ー？

こつから挽回できるー？

「……」

いざ衝突かと思われた：その時、イチチが箸を置く。

「はやて、来週の午後に時間を作つてくれ。家具を見に行こう」

!!! ええよ、一緒に見に行こな！

先ほどの能面から一点、花が咲いたように微笑む八神陸佐！

おつと、なのはにだけ見える角度で勝者の笑みを浮かべたぞ！

魔王降臨まで、あと5, 4, 3, 2

「なのは、次の休暇に海鳴に帰るつもりなんだが一緒に行くか」

タイムアップまで1秒、そこで導火線が踏みつけられるうううう——！！

「久々に翠屋のシュークリームが食べたくなってさ」

実家訪問↓家族への改めて紹介↓もはや勝ち確なのは。

「うん、ヴィヴィオも連れて行こうね♪」

勝者と敗者が逆転、はやての口元は引きつっているも彼の腕を胸元にキープ。

お互いに譲れぬラインを再確認したところで：

「じゃ、仕事が残ってるから」

「ここでイツチが逃げる、ええい臆病者ー！」

魔王と夜天は視線を合わせず、そのまま食堂から出て行った。

はあ、やっと終わったと食事を再開する局員たち。

「ねえ、今度の休暇なんだけど」

「おや、どうやら別口の修羅場が残っているようだ」



## 修羅場／フエイトちゃん＆ギンガちゃん

管理局特別演習場、廃墟を再利用したここでは武装隊とクロノ率いるクラウディアメンバーとの実戦演習が行われた。

ひと目で激戦とわかるほどに一帯は破壊され、両陣営の局員たちは皆大の字になって地面に横たわっている。

「うーい、お疲れー」

「「「うーいーっす」「」」」

本来ならば尻を蹴り上げて整理させるべきだが、今回ばかりは大目に見よう。

本音を言えば自分だってそうしたいが、立場というのは難しいものだ

生傷に土埃で汚れた体を無理やり立たせ、演習での採点を行わねばならない。

「先輩、これをどうぞ」

同じく土埃に汚れたギンガがスポーツドリנק手渡してくれた。

彼女も疲労を隠しきれていないが、副官として情けない姿は見せられないとビシッと決めている。

「今、大丈夫かな？」

そこへ金色の死神が舞い降りた。

「ん？ フェイトか、どうした？」

「えつとね、さっきの演習で君の意見も聞きたくて…」

「ハラオウン執務官、申し訳ありませんが先にこちらの」

「???」 ギンガには聞いてないよ？」

ピシリツという、ガラスに輝が入ったような音が聞こえた気がした。

倒れていた部下たちは慌てて立ち上がり逃げ出す。

そう、もはやここは爆心地にほかならない。

巻き添えはごめんなのだ、チクシヨームエ！

「私は、本演習での運行に関わる実務を担当しています。意見すべき立場だと判断しますが」

「もう終わったし、硬いことは要らないと思う」

「こちらにも予定があります、お引き取りください」

先程まで熱を帯びていた体が冷たい、完全な不意打ちだ。

右手側にはバチバチ帯電しはじめる執務官、左手側には瞳が金色に染まる副官。

どこかでゴングが鳴り響いた。

「いい加減にしてください執務官、いくら「ご友人」といえど先輩の事情も考慮に入れてください」

「そういうギンガもただの「部下」でしょ、そこまで言う必要がある？」

「あります、私は先輩の「副官」ですから」

おーつとギンガさん、大きな胸をドーンつと張って唯一無二の立ち位置をあつびる。

執務官、青筋ビキイッ

「ふーん、でも結局は部下だしさー」

「プライベートに一々踏み込んでくるのは、やり過ぎじゃないかなー」ただの部下」なのに」

おーつとここで冷たい嘲笑、打って変わって副官アイからライトオフ。

どうやらお互いにエンジンが温まってきたようですね。

さあ生々しいキャットファイトがはじま

「いい加減にしろ」

「ここで沈黙を貫いていたイツチが起動！

「そこまで言い合うことはないだろう、この後のミーティングで話せばいい」

「でも…」

「しかし…」



さあーてどうしたもんかなあーと遠い目をしていると…

視界の端にクロノ提督を発見。

助ける、アイコンタクト。

これにサインすればなど、義妹の名が既に入っている一枚の書類を見せる。

ああ、どうしたもんかなあーと空を見て。

どうしたもんかなあーと声に出すしかなかった

# ウチの上司が辞表叩きつけて失踪したンゴ／シユテル

日付が変わってからおよそ一時間。

青年は一人デスクで報告書を作成していた。

階級が上がれば給料だけでなく責任も増える、責任が増えればやることも増える。

無心で仕事をこなしていると、ふとこんな考えが浮かぶのだ。

何でこんな事やってんだろ…と。

必要だから、仕事だからと自分を誤魔化すことが多くなり。

今もまたそういうものだと自分自身で思考を断ち切る。

そこに端末の放つ電子音が響く、メールの着信。

二件あったメールの差出人は別人だが、結果は似たようなものだった。

【結婚しました】

こういった内容への反応は様々。

おめでとうと祝福する奴。

恨めしいと悪態をつく奴。

へえーそうなんだと流す奴。

しかし添付された写真を見れば誰もが目をそらすだろう。

死んだ目で相手の女性と腕を組み、彼女のお腹が大きくなっているのを見たら絶対に目をそらす。

中学時代の同級生、武装隊で新人だった頃の先輩、おっと再び着信。

：同じ内容で別部署に異動した後輩からだった、何これレ○プ目腹○テが流行ってんの？

しかも目が死んでるのが全部男だっていうのが、ねえ？

「大切な人とこうして結ばれて幸せです」

「全てはあの日、先輩から指導を受けられたからこそ」

「経験を積み、生まれてくる子に恥じないよう」

「手作りのケーキを作りましたので」

最後あたりの文章が引つかかり、目を凝らす。

「たいせつなひと」

「すべてはあのひと」

「けいけんをつみ」

「てづくりの」

目を凝らす。

「た」

「す」

「け」

「て」

………写真の中の後輩をもう一度見る。

目が死んでる、どこか助けを求めていそうな彼を。

すかさずメールを削除した。

ふうー

重いため息、何気なく天井を眺め。

このままでは自分もこうなる、脳裏を走る確定的予感。

とりあえず今ある分の仕事を終えると、引き継ぎ用の資料作成に取り掛かる。

懐に辞表を忍ばせて

◆◆

1 隻の名無し船

ウチの上司が辞表叩きつけて失踪したンゴ

2 隻の名無し船



うん？

3隻の名無し船

(\*・D・)？

4隻の名無し船

えつとどゆこと？

5隻の名無し船

引き継ぎとかは？

6隻の名無し船

全部終わってる、一ヶ月念入りに準備してたつぽい

7隻の名無し船

えー

8隻の名無し船

えー

9隻の名無し船

えー

10隻の名無し船

別にいいのでは？

1 1 隻の名無し船

なんだ、ちゃんとやらずに失踪はいかんけど。

1 2 隻の名無し船

それに合わせて部下は各部署のお偉いさんに尋問を受けています

1 3 隻の名無し船

1 4 隻の名無し船

1 5 隻の名無し船

1 6 隻の名無し船

1 7 隻の名無し船

1 8 隻の名無し船

1 9 隻の名無し船

なんで？（三代目感

2 0 隻の名無し船

行方知らず↓情報を持っているのは部下↓尋問

2 1 隻の名無し船

ごめん、意味わかんない

2 2 隻の名無し船

自分でもわかんない、飲みに誘われたと思っただらいつの間にか尋問に変わっているらしい

23隻の名無し船

あのーもしかして、失踪したのって武装隊のあの人？

24隻の名無し船

トップエースのハーレム築いている

25隻の名無し船

なんで？

26隻の名無し船

遠目で見るとハーレムだけどき、近くによると悲惨だぞ

27隻の名無し船

普通にいい人なんだよなあ

28隻の名無し船

いい人だから弾けたのでは？

29隻の名無し船

あれ、ラブな副官さんいなかったっけ？

30隻の名無し船

辞表の事実を聞きつけて、その後俺らから情報絞り出していったわ

3 1 隻の名無し船

あちやー

3 2 隻の名無し船

寿退社になるかー

3 3 隻の名無し船

せやなー

3 4 隻の名無し船

それで、どうしたいん？

3 5 隻の名無し船

目撃情報があったら教えて欲しい、できればすぐに

3 6 隻の名無し船

無理やろ

3 7 隻の名無し船

いきなりだなあ

3 8 隻の名無し船

なして？

39隻の名無し船

今夜が俺の番なんだ(汗)

40隻の名無し船

どんまい

※局内掲示板で書き込まれたスレの一部を抜粋。

※辞表届は上司が青年を退室させた後に破り捨て、長期療養として受理した。



ざくりと鍬で土を掘り返し、種を蒔き、水を注ぐ。

燦々と輝く太陽から降り注ぐ陽の光は、麦わら帽子を被っていてもきついと感じさせるほど強いものだ。

腰に下げた水筒から水を飲もうとするも、中身は既に空。

「あつついなあ」

この星「エルトリア」に来てから何度目かの暑いを眩くしかなかった。

辞表を提出し、自由だあーと適当な荷物だけを鞆に突っ込んだのが数日前。

これまた聞いたこともないような星に向かう巡航船に乗り込み、突然の機関不良による事故。

自分以外の乗員を脱出艇に放り込み、自分が乗り込む直前までは覚えている。

気が付けば荒廃した大地、巡航船の残骸、軽く焦げた自分。

何か悪いことしたかなあと、空を見上げていた――

「どうぞ？」

濡れた水筒を胸に押し付けられた。

幼馴染と同じ顔、しかし髪は短くどことなくクールな印象を受ける女性。

かつてマテリアルと名乗り、敵対・共闘した彼女。

シュテル・ザ・デストラクター、星光の殲滅者が同じく麦わら帽子を被ってそこにいたのだ。

「まさかお前らにまた会えるとはなあー」

とある戦いによって得た縁。

死にかけの星を救うため、仲間と共に旅立った彼女と再会できたのは驚きだった。

「耕運機のパーツが揃ったので、早速修理にかかりましょう」

「あいよ」

「お昼はディアーチエの作ったお弁当があります」

「いいねえ、なんかスローライフっぽくて」

「そうですか」

気楽だ。

なんというか、凄いい気楽。

ギスギスとした空気に悩むことなく、畑を耕す日々。

もう暫くはこうしててもいいかもしれない。



荒廃した星、エルトリア。

あの双子からの要請を受けておよそ10年、まさか彼と再会できるとは思わなかった。

同じくらい的身長は、彼のほうがずっと伸びていて。

大きな体、大きな腕、偽物の手、変わったところは大きい。

「直りました」

つい最近まで使用していた耕運機を修理し終わると、彼は頬を赤らめてそつぽをむいた。

汚れるのでシャツとズボンだけのラフな格好のためか、程よく育ったシユテルの肌がよく見える。

私で欲情している、ということか。

それはとても——都合がいい。

「見たいのなら、見せてあげますよ？」

アホかとさらに顔を赤くして、道具を片付ける彼。

可愛い、そう感じる思いは自分のものだ。

あの日からずっと、かつて少年だった彼との日々だけが胸に残った。

自分は高町なのはのコピーのようなもの、だが胸に芽生えた思いは自分だけのものだ。

会いたいと、思っていた。

好意に近いものがあつた。

でももう二度と会うことはないだろうと、そう思っていた。

「でも会ってしまった」

抱えていた気持ちは、大きくなっていた。

封じ込めて、閉じ込めて、二度と出さないようにしていたのに。

開いてしまったから、溢れ出して歪んだのだ。

今すぐにも愛を囁いて、粘膜的な接触で数日間過ごしてやりたいくらいに。

これはバグか？ 致命的な故障か？ 知ったことか。

とりあえずは——如何にして彼との間に子供を作るかですね

彼の性格を考えれば、責任を取ろうとするだろう。

既成事実で縛り上げ、そこからズルズルと引きずり込めばいい。



そう思えばアダムとイヴのようでどことなくロマンチックだ。

焦りは禁物ともいうが、双子や同じマテリアルたちがいつ行動を起こすかわからない。

彼という男はどことなくフェロモンを垂れ流している、孤独な質の人間ほどよく効くタイプ。

好意を抱いたらズルズルいく、罪作りの人なのだから。

「なのはや、ミッドチルダの搜索隊が編成される可能性もある……このままでは分が悪い」  
なにせ自分が知らない間が存在するのだ、絆という意味での戦力差は大きい。

邪魔するものは焼き尽くす、そこそが殲滅者。

力と知恵で、欲するものを手に入れるのだ。

## ずるい／レヴィ+ディアーチエ?

※今回は掲示板要素はありません

こつちに来てから一ヶ月程度、そこまでくると頭も冷える。

そろそろ連絡入れたほうがいいのだが、繋がらない。

んゝこれはあかんくさい。

どうしたもんかなど、耕した畑（じやがいも予定）から離れようとしたとき。

「どおーん！」

「おおっと！」

水色の弾丸が背中に飛び乗ってきた。

雷刃の襲撃者こと、レヴィ・ザ・スラッシャー。

天真爛漫をそのまま形にしたような元氣ハツラツの女の子…なのだが。

「こらあ！ その格好で動き回るんじゃない！」

「えゝこつちの方が涼しいよー」

元となったフェイトと同じく、スーパーダイナマイトボディである！

ただでさえグンバツボディを体のラインがモロに出るレオタードレベルのタイツ姿。息子がビルドアップしちゃうでしょ！

「むふふ〜逃がさないぞ〜」

背中の上で手足を巻き付けさせ、肉感たっぷりな体を固定。

何が楽しいのか、鼻先を首筋に埋めている。

「…」

下半身に力を込めて血流を阻害するくらいしか出来ず、雑念を振り払うべくおんぶの体制でクルクル回転。

そうなればますます二つの肉まんが押し付けられる、自爆してんじゃねえよ！

ばくだんいわ状態の青年であったが、神は彼を見捨ててはいなかった。

「（こらそこ）お！暇であるのなら昼餉の準備を手伝うのだ！」

マテリアルのリーダー格、闇統べる王ことロード・ディーアーチェ。

全員の胃袋を掴んでいる彼女に一喝されたら従うしかない、塩ごはんでは午後の作業を乗り越えるなど不可能。

ブーたれるレヴィイを降ろし、三人で調理場へ向かうのであった。



ディアーチェは内心で怒っていた、プリプリだ。

配下であるレヴィに鼻の下を伸ばし、あのような破廉恥な行為にふけている青年を怒っているのだ！

「(だ、男女があのような、あのような破廉恥な…破廉恥な!)」  
頬が赤くなり、熱がこもっていくのが分かる。

王である自分を辱める要因ともなった青年を怒鳴りつけてやろうと口を開くが…

「…むう」

すぐ隣で野菜を洗っている者の横顔を覗くと、怒気が霧散してしまう。

正直、自分が今抱えている感情はきつとバグかなにかだ。

出会ってすぐに敵対し、そしてすぐに別れた。

短すぎる、あまりにも儂い思い出。

だからバグだ、気のせいだ、一時の病気。

なのに…

『なんとかしてみせる、信じろ!』

勢いまかせの、思慮もなにもない子供の戯言。

それなのに、それなのに。

「ディアーチェ?」

「む…」

思考を断ち切られたかと思えば、すぐ目の前に顔がドアップ。

「な、な、なんなのだ!?! いきなりなんだあ!?!」

「いや、さつきから声かけてたんだが…」

「そ、そうか…ええい、さつきと済ませるぞ!」

軽く手を振り、その拍子に互いの指先が触れ合った。

チヨコンつと擬音がつく程度、それだけでデИАーチエは赤面する。

聞統べる王の恋愛偏差値は、まだまだ未熟のご様子です。

メキヤリッ

ゴキリッ

彼女は見ていた。

瞬きせずに、揺らぎもせず、ジツと見ていた。

物陰から、他の皆を呼んできたと報告しようとして。

夫婦のように寄り添う様子を、見ていた。

おかしいな。

なんか、おかしいぞ。

痛い。

胸の奥が、痛い。

苦しい。

キリキリする。

気持ち悪い。

見ていたくない。

でも目が離せない。

おかしい。

おかしいよ。

あんなに、好きだって伝えようとしてるのに。

どうして君は気づいてくれないの。

ほかの人に近づかないでよ。

ボクのことだけ見てよ。

触れてよ。

傍にいてよ。

メキヤリツ

ゴキリツ

壁を〔掴み〕、〔筆る〕。

何かが、暴れだそうとしていた。

王様から彼を奪わなければと。

奪って。

奪って。

与えて。

貰って。

愛して。

愛されて。

そうだと思いますぐ「レヴィ、味見するかー？」

「するー!」

背中に抱きついて、あーんしてもらおう。

あれ、さつきまで何してたんだっけ?

んーまあいや。

だーいすき!



## 修羅場、そして帰還／フロリアン姉妹＋ユリー？

※今回も掲示板要素はありません

フロリアン姉妹の妹、キリエは不満があった。

彼女は自動作業機械ギアーズ、即ちロボットである。

しかし見た目は紛れもなく美少女であり、質感も体温も人間と変わらない。

加えてバツグンワガママボディ（自称）の持ち主なのだから、そんな自分に体を押し付けられて

グラつとこない男はいない！（推定）

そのはずなのに：

「いやあーしかし、だんだん暑くなるなあ〜」

背中に胸を押し付けているというのに、顔色一つ変えてない青年が気に食わなかった。



エルトリア再生のため働き始めておよそ三ヶ月。

たまには休んだほうがいいと、湖に釣りに来たのだが：

「ちよつとキリエさん、重いんだけど」

「女の子に重いかかデリカシーなさすぎいい！」

何故かそれにキリエも付いてきて、背中へ胸を押し付けながら釣り糸が揺れる様子を覗いていた。

そこで顔色一つ変えずに釣り針に餌を付けようとする青年に対して、上記の如くキリエはご立腹。

女としての魅力が通じてないことが不満、劣情を催した青年が彼女らを襲わないかという不安。

前者はともかく、後者についてはこの三ヶ月一切その手のアクションがない。

そもそも女性関係に疲れた末に逃げ出したというのに、逃げた先で致すという考えはなかった。

なにより経験上、下手に反応するとからかわれるのがオチだという考えから無反応の構え。

実際には下半身に流れる血流を止めんと、筋力を総動員させているのだが：

安心すれば不満が顔を出す、まともな恋愛経験などないなんちやつてギャルはハリボテの余裕を

見せつつ唸っていた。

「(ここで退いたら女が廃る!) ねえーねえー釣れないのー?」

「(シャンプーの匂いと柔肌が…) 釣りなんてのはそんなもんさ」

キリエがさらに密着させれば、鉄の意志で青年が耐える。

耐えれば耐えるほど意固地になって、これぞ幸福の生殺しスパイラル。

「こらあー! な、ななな、何してるのー!」

幸福と地獄がブレイクダンスしているところに、救いの主参上。

長い髪を三つ編みにしたお姉ちゃんこと、アミティエが顔を真っ赤にしてこちらを指差していた。

「キリエ! な、なにをは、はしたないことを!」

「えーお姉ちゃんってばかたあーい」

「キリエ!!!」

「はあくーいっと」

「ごめんねーと小悪魔(内心赤面) 気味に微笑むキリエが歩き去るが、姉の矛先は青年へと向かう。

「君も! キリエの悪戯に付き合う必要なんてないですよ!」

「はっはっは、いやはや面目ない」

一部分の硬化を解除させつつ、頬をかく青年。

「(こ、このままでは間違いが起きてしまう…)」

アミティエもまた、まともな男性経験などない。

経験豊富を装う処女ビッチとどっちがマシかは不明だが、その知識は創作物によるものが大半。

しかし長女として、過ちを見過ごすわけにはいかないのだ。

「ほ、本当に、お互いに好きあって、その、いるなら！私は何も言いませんけど！言いませんけど！こ、こういうのはダメです!!」

「だからもし！耐えられなくなったら私が！「はいストップ」もぎゅ」

お弁当に渡されたサンドイッチを彼女の口に突っ込む。

「年頃(と言つていいか分からんが)の女性がそういうことするのはNG、自制は効きませんんで勘弁してください」

「…私じゃ、不満ですか」

「いやだから、そういうのじゃなくて」

むしろバツチコイだが、多少…多少？トラウマになっている青年としては曖昧な表現で留めるしかなく。

アミティエも女性として魅力がないと言われれば、それはそれで不満が出るので。

「勿論、貴女も素敵な女性ですから。ほら、そういうのは困るというか」

——などと抜かせば、集音機能をフルに使ったキリエが面白くない。

その日からフロリーアン姉妹との奇妙な張り合いが始まってしまっているのであった。



「どうしてこうなったんかなあ」

お前の自業自得やぞ。

青年に対する女の魅力分からせ勝負は、時が経つごとに姉妹喧嘩の延長から変化してきていた。

というのも、要所要所で青年が最適解というべきか、パーフェクトコミュニケーションを連打していたからだ。

時には、姉として毅然とせねばならない彼女を（居候として）慰めたり。

小悪魔な彼女を包容力で（居候として）受け止めて諭したり。

あの性格的にも戦闘力的にもヤバ過ぎる女性陣を宥めるため、自然と磨かれたスキルを發揮されてしまったのだ。

年下を相手する（意味深）事が増えたためか、あるいはハーレム推奨娘の義父ポジになつたためか、青年には「父性」が宿ってしまっていた。

フロリーアン姉妹にそれがクリティカル、その結果：

「キリエ、今は私の時間なんだけんど…」

「お姉ちゃんこそ、邪魔しないで」

ドロツドロの昼ドラ展開が、エルトリアでも再展開されてしまったのだ。

おい、どうすんだよ（呆れ）。

そろそろ寝ようかとしてベッドに入ると、アミテイエがお酒でもどうかと誘い。

アルコールが回り始めると、アミテイエが徐々に距離を詰めつつ服を…といったところでキリエが乱入。

こちらが強めの酒を片手に、青年の手を取ると自分の方へ引き寄せる。

そうなればアミテイエが蕩け始めた表情を硬質化させ、青年を抱き寄せるのだ。

おっと、鍛え抜かれた体がミシリツと音が出たぞお？

お互いに下着姿のまま火花を散らす姉妹を横目に、青年は死んだ魚の目で天井を見上げていた。

やっぱ無人世界が無難だと、二人に気づかれぬよう部屋の外へ出られないものかとドアに視線を向けると…

(? ● ? | ? ● ?)

(? ● ? | ? ● ?)

ハイライトOFFのシュテル&レヴィがドアの隙間から覗いてました。

ホラーかな？

王様は赤面しつつプルプルしながらこちらを覗いている、王様マジ天使。

「どうしてこうなったんかなあ」

お前の自業自得やぞ。



「うーん、どうしたものでしょうか」

夜食の麻婆豆腐を食べつつ、恋愛原子核（病み）の様子をカメラで覗き見るのはユリ・エーベルヴァイン。

かつては闇の書事件に続く事件の中核にいた彼女は、真黒い笑みで修羅場を眺めていた。

「今のままでも十分に面白いんですけど、もつとこう広く…：どうにかしてミッドと連絡が付けば」

もし、今の状況を彼女らに見せられれば…

もし、勘違いした彼女たちを説得、あるいは逃げ出そうとすれば…

「——ああ、見てみたアい（ニチャア）」

こちらは未だにロリなためか、邪悪な笑みがおつそろしいこと。

「よおーし、なんとかやってみせましょう」





さあ、そしてここで一つクイズといこう。

キッチンで料理をしているのは、いったい誰なのだろうか

考える。

考えて。

考えた。

その結果…

「寝よ」

現実逃避<sup>先送り</sup>することにして、布団を被った。

「ご飯できたよー」

# R T A風ホモくんの押し付け前編／なのは？

555 機めのゲーマー

もう無理い！フラグ管理無理！なにこのクソゲー！

556 機めのゲーマー

シナリオはいいんだ、グラフィックもいいんだ、システムもいいしやり込みもあるんだ！

557 機めのゲーマー

それを全て覆すレベルのフラグ管理の難易度よ

558 機めのゲーマー

好感度上げてスキルを入手 わかる

好感度上げまくって専用ルート入る わかる

気づかぬ間に他のキャラが好感度上がりすぎて病む これがわからない

559 機めのゲーマー

特定ルートを狙ってさあいくぞといったところで修羅場よ…

560 機めのゲーマー

下手に邪険にするとほかにも波及する始末

561 機めのゲーマー

なんだこのクソゲー！

562 機めのゲーマー

キャラゲーとしては破格なのよなあー

563 機めのゲーマー

【朗報？】運営の出した結論が意味不明【悲報？】

「URL」

564 機めのゲーマー

なにこれ

565 機めのゲーマー

えっと、NTRとかそういうのはアレなんで

566 機めのゲーマー

運営無能

567 機めのゲーマー

はー萎えるわ、ばっかじゃねえの

568 機めのゲーマー  
ハーレムを、ハーレムを諦めない…



748 機めのゲーマー  
生いつてすんませんしたあ！

749 機めのゲーマー

神DLCでしたわ（手のひらくるー

750 機めのゲーマー

ええやんなんぼなん

751 機めのゲーマー

今週中は無料、それ以降はワンコインやぞ

752 機めのゲーマー

フラグ管理めっちゃ楽

753 機めのゲーマー

ハーレムとかクソやわ

754 機めのゲーマー

ワイ女キャラで攻略開始、これで通算100回めのリメイク泣きそう

755 機めのゲーマー

女キャラは無謀やぞ

756 機めのゲーマー

この先は地獄だぞ

757 機めのゲーマー

地獄が怖くてっキャラゲーできるかあ！

758 機めのゲーマー

海外勢で無理やり押し通した猛者がいる模様

759 機めのゲーマー

動画サイトで見たわ、なにこの破壊力

760 機めのゲーマー

自キャラが攻略されてるって感じ、もうTNTNいらないわ！

761 機めのゲーマー

いけるで、〇〇様最高や



おはこんばんちわー、今日も元気にR T A実況始めるよー

今回やりますのはこれ、「魔法少女戦記リリカルなのはクロニクル」！

エディットしたオリジナル主人公でりりかるなのは世界を生き抜く作品ですな。

とにかくイベント量が半端ない、古代から25歳まで幅広く攻略可能。

原作で死亡してしまったキャラも生存可能、しかもそこから続く胸キュンシナリオは絶賛の嵐。

でも壁はあるんですよ、これ。

フラグ管理がべらぼうに難しいんです。

原作キャラ一人に絞って攻略してたら、何故かほかのキャラの好感度が天元突破したなど日常茶飯事。

修羅場に加えてヤンデレ化、ナイスボートの流れは誰もが通った道でしょう。

しかし運営はこれを見越していた、神DLC「○○登場」の発表です！

これは各時代に合わせて、「登場キャラの恋愛感情の対象を集中させるキャラ」をゲーム内に出現させるDLCです。

当初は評判が悪く、ハーレムの邪魔になるじゃねえかと散々な扱いでした。

ですが違います、神DLCなんですよ本当。

このゲーム、キャラの好感度が上がると成長率やステータスの上昇、スキルの獲得など基本仲良くならないと始まらないんです。

勿論、ぼっちプレイでやるのは不可能ではありませんが効率が悪い。

RTAでそんなガバプレイしてられませんよほんと。

そこで攻略する気のないが有用なキャラを押し付けて、安全圏を確立させてプレイができるRTA御用達の神キャラです

えー今回はvivid編のインターミドルで実績「次元世界最強の十代」を取得のあたりでカウントストップとなります。

本作はキャラゲーですのでキャライベがメインとなっておりますが、普通にアクション系アドベンチャーゲームしても面白いです。

面倒な女の扱いは押し付けて、我らは修羅をゆきます。

キャラエディットは適当でいいです、何事も極めれば強くなれますから。

しかし女主人公はやめておいた方が無難です、最悪消されます(汗)  
名前はホランド・モビーディック、略してホモくんです。

今回は速度重視の弾幕ぶっぱキャラでいく予定ですが、どうなるかな？

よし、いくぞー(デッデーデッデー)



最近、時間が空いた時にとある少年に手ほどきを行うようになった  
ヴィヴィオたちと同年代の少年、ホランド・モビーディック。

第一印象はまず生真面目な少年だった。

全力でトレーニングに励む様子に、どことなく応援がしたくなる。

「師匠！ お疲れ様です！」

「ああ、お疲れ……」

だが、彼と出会ってから妙に、その、出会いが増えたような気がするんだ。

いや、悪いことではない……ない、のか？ いや、たぶんないだろう。

偶然だろう、そうに違いない。

ノーヴェのジムで汗を流す少年に、何を変な邪推をしているのだろうか。

早めにあがったなのはと共に、練習を見に来ているというのに。

「君がホランドくん？ ヴィヴィオから聞いてるよ」

こちらの腕にしがみつくなのはを相手に「はじめまして」と頭を下げている。

真面目で、努力家の少年だが一つ欠点が存在するのだ。

「師匠！ 本日は「夫婦」でいらっしやっただすね！」

これだよ（汗）

初対面の、こちらと仲のいい女性に対して一番望まれる言葉を送ってくる。



だがそれは、自分にとってまずいというか、困ったことになるのだ。

満面の笑みを浮かべるのは、彼女のご機嫌度に比例して自分の背中に冷や汗が浮く。

「そうだ（唐突）、旦那のお弟子さんにちよつとだけ指導しちやおつかない」

「よろしくお願いしますー！」

フエイトや、はやて達にも別のニュアンスで同様の事言つてたよなあ。

いやさあ、別に悪くはないよ？

悪意があるわけじゃないし、一種の処世術かもしれんし。

でも結果的にこう、胃腸にダメージが来るわけで。

だからといって注意するのもなんか違うじゃん？

凄まじい勢いで成長する少年に、どことなく恐怖を覚えていた。

いろんな意味で、だ。